

平成 30 年度
事業報告書

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

目次

I.	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報.....	1
1	法人の概要	1
(1)	事業内容	1
(2)	所在地	1
(3)	教員及び職員の数	1
(4)	沿革	1
(5)	設立に係る根拠法	1
(6)	主管省庁名	1
(7)	組織図	2
2	役員の状況	3
(1)	役員・監事	3
(2)	理事	5
(3)	評議員	13
II.	業務実績報告	3

I. 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報

1 法人の概要

(1) 事業内容

- 1) 沖縄科学技術大学院大学を設置し、これを運営すること。
- 2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康に関する相談その他の援助を行うこと。
- 3) 学園以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の学園以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- 4) 沖縄科学技術大学院大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- 5) 科学技術に関する研究集会の開催その他の研究者の交流を促進するための業務を行うこと。

(2) 所在地

メインキャンパス 沖縄県国頭郡恩納村字谷茶 1919-1

シーサイドハウス 沖縄県国頭郡恩納村字恩納 7542

(3) 教員及び職員の数（平成 31 年 3 月 31 日現在）

教員： 58 人

職員（除、派遣職員）： 839 人

(4) 沿革

平成 23 年 11 月 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園設立

(5) 設立に係る根拠法

沖縄科学技術大学院大学学園法（平成 21 年法律第 76 号）

(6) 主管省庁名

内閣府、文部科学省

(7) 組織図 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

As of March 31, 2019



2 役員の状況（平成31年3月31日現在）

定数：学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第5条第1項、第7条、第19条第2項の定めるところによる。

任期：学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第9条第1項及び第24条第1項の定めるところによる。

（1）役員・監事

役職	氏名	任期	主要経歴	
理事長・学長	ピーター・グルース	2017年 1月1日 ～ 2021年 12月31日 (1期目)	1977年 1980年 1982年 1983年 1986年 1990年 1997年 2002年 2017年 1月	博士号取得：ハイデルベルク大学 アメリカ国立衛生研究所（NIH）専門コンサルタント ハイデルベルク大学、微生物学准教授 ハイデルベルク大学分子生物学センター（ZMBH）理事 マックス・プランク生物物理化学研究所（ゲッティンゲン）、（分子細胞生物学部）部長 ゲッティンゲン大学名誉教授 マックス・プランク生物物理化学研究所（ゲッティンゲン）所長 マックス・プランク学術振興協会会長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事長 沖縄科学技術大学院大学学長
副理事長・首席副学長 （技術開発イノベーション担当）	ロバート・バックマン	2015年 4月1日 ～ 2020年 9月30日 (再任)	1975年 1979年 1985年 1990年 1995年 1999年 2005年	ハーバード大学（米国）博士号（化学） ハーバード大学医学部アシスタント・プロフェッサー（神経生物学） 同 アソシエイト・プロフェッサー（神経生物学） ハーバード大学医学部神経科学専攻（博士課程）専攻長（ディレクター） NINDS 基礎神経科学・発達障害部門ディレクター NINDS アソシエイト・ディレクター（技術開発担当） 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 研究及び研修に関する特別学長顧問

			2007 年 2011 年 2014 年 2015 年 2016 年 8 月	独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園プロボースト及び副理事長 同 首席副学長（沖縄の自立的発展担当） 同 首席副学長（沖縄の自立的発展担当）及びプロボースト（臨時）及び副理事長 同 首席副学長（技術開発イノベーション担当）及び副理事長
監事	岡本 信一	2017 年 11 月 1 日 ～ 2020 年 10 月 31 日	1989 年 1990 年 1992 年 1993 年 1994 年 1995 年 1996 年 1998 年 2000 年 2001 年 2002 年 2002 年 2004 年 2004 年 2006 年 2007 年 2008 年 2009 年 2011 年 2012 年 2014 年 2015 年	総理府本府入府 内閣官房内閣内政審議室 沖縄開発庁総務局総務課 総務庁人事局企画調整課 係長 総務庁大臣官房総務課 審査係長 人事院短期在外研究員（～平成 7）（シラキ ューズ大学行政大学院、米国連邦議会下院外交 委員会） 科学技術庁科学技術振興局国際課 国際協力官 総務庁統計局総務課 課長補佐 内閣中央省庁等改革推進本部事務局 参事官補 佐 内閣官房内政審議室（沖縄問題担当室） 主幹 内閣府政策統括官（沖縄担当）付 参事官補佐 内閣府大臣官房総務課 課長補佐 内閣府国際平和協力本部事務局 参事官補佐 内閣府官房総務課企画調整官 内閣府官房総務課企画調整官 内閣官房行政改革推進本部事務局公務員制度改 革等担当企画官 総務省人事・恩給局調査官（併任 内閣官房行 政改革推進本部事務局） 内閣府大臣官房公文書等保存・利用推進室企画 官 内閣官房公文書管理検討室企画官 内閣官房公文書管理検討室参事官 内閣府大臣官房公文書管理課長 福岡大学法学部教授（研究休職） 内閣府官民人材交流センター総務課長 内閣官房領土・主権対策企画調整室 内閣参事

			2017 年 2017 年	官 内閣府大臣官房参事官（併任 沖縄振興局） 沖縄科学技術大学院大学監事（現職）
監事	上原 良幸	2017 年 11 月日 ～ 2020 年 10 月 31 日	1973 年 1976 年 1980 年 1983 年 1989 年 1992 年 1995 年 1996 年 2000 年 2002 年 2004 年 2005 年 2009 年 2010 年 2013 年 2016 年 2017 年	沖縄県庁入庁（土木部道路課 主事） 沖縄県庁土木部土木総務課 主事 沖縄県庁企画部企画総務課 主事 沖縄県庁総務部地方課 主査 沖縄県庁商工労働部企業立地対策室 主査 沖縄セルラー電話(株)監査役 沖縄県庁総務部地方課 課長補佐 沖縄県庁企画部国際都市型形成推進室 副参事 沖縄県庁企画部国際都市型形成推進室 参事 沖縄県庁企画部復興開発室長 沖縄県庁企画部参事監兼科学・学術復興室長 沖縄県庁企画部長 沖縄県庁知事公室長 沖縄県副知事 沖縄観光コンベンションビューロー会長（～ 2015 年） （株）ムーンホテルズアンドリゾーツ会長 （公財）沖縄協会副会長

（２） 理事

氏名	任期	主要経歴	
チェリー・マレイ	2017 年 5 月 24 日 ～ 2020 年 5 月 23 日	1973 年 1978 年 2001 年 2004 年 2007 年 2009 年	マサチューセッツ工科大学学士号（物理） マサチューセッツ工科大学（米国）博士号（物理） ルーセントテクノロジー ベル研究所（米国上級副社長（物理科学・ワイヤレス研究担当） ローレンス・リバモア国立研究所（米国カリフォルニア州）科学技術担当副所長 ローレンス・リバモア国立研究所科学技術担当プリンシパル・アソシエイト・ディレクター ハーバード大学（米国）工学・応用科学研究科長 ハーバード大学大学院工学・応用科学研究科ジョン A

		2015 年	& エリザベス S アームストロングプロフェッサー ハーバード大学大学院工学・応用科学研究科ジョン A
		2015 年	& エリザベス S アームストロングプロフェッサー & 物理教授（2015 年 07 月まで）
		2015 年	ハーバード大学ベンジャミン・パース技術公共政策学 教授／ジョン・A・ポールソン工学・応用化学物理学 長室教授
		2015 年	米国エネルギー省科学局長（公務遂行のためハーバード大学を一時的に休職）
有馬 朗人	2011 年 11 月 1 日 ～ 2020 年 10 月 31 日 *	1958 年	東京大学大学院博士号（理学）
		1971 年	ニューヨーク州立大学ストニーブルク校（米国）教授
		1975 年	東京大学理学部教授
		1989 年	東京大学総長
		1993 年	理化学研究所理事長
		1998 年	参議院議員 文部大臣
		1999 年	科学技術庁長官兼務
		2000 年	財団法人日本科学技術振興財団会長
		2005 年	独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員
		2006 年	学校法人根津育英会武蔵学園学園長
		2009 年	ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム 評議員会会長 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員
		2010 年	公立大学法人静岡文化芸術大学理事長
		2011 年 11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事会副議長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員
安仁屋 洋子	2014 年 11 月 1 日 ～ 2020 年 10 月 31 日	1980 年	鹿児島大学博士号（医学部）
		1981 年	日本薬理学会評議員
		1983 年	ロチェスター大学メディカルセンター ポストドクトラルフェロー
		1986 年	琉球大学医学部准教授
		1990 年	琉球大学医学部保健学科教授
		1994 年	日本薬物動態学会評議員
		1996 年	日本毒性学会評議員
		2001 年	琉球大学産学官連携推進機構長

		2002 年 2003 年 2007 年 2011 年 2013 年 2014 年 11 月	琉球大学評議員 琉球大学医学部保健学科長 琉球大学大学院医学研究科教授 琉球大学医学部保健学科教授 琉球大学名誉教授 沖縄科学技術振興センター理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員
ロバート・ バックマン (副理事長/ 首席副学長 (技術 開発イノベーション 担当))		1975 年 1979 年 1985 年 1990 年 1995 年 1999 年 2005 年 2007 年 2011 年 2014 年 2015 年 2016 年 8 月	ハーバード大学 (米国) 博士号 (化学) ハーバード大学医学部アシスタント・プロフェッサー (神経生物学) 同 アソシエイト・プロフェッサー (神経生物学) ハーバード大学医学部神経科学専攻 (博士課程) 専攻 長 (ディレクター) NINDS 基礎神経科学・発達障害部門ディレクター NINDS アソシエイト・ディレクター (技術開発担当) 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 研究及び 研修に関する特別学長顧問 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構理事 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園プロボースト及 び副理事長 同 首席副学長 (沖縄の自立的発展担当) 同 首席副学長 (沖縄の自立的発展担当) 及びプロボ ースト (臨時) 及び副理事長 同 首席副学長 (技術開発イノベーション担当) 及び 副理事長
カーティス・ カラン	2014 年 11 月 1 日 ～ 2020 年 10 月 31 日	1964 年 1968 年 1969 年 1972 年 1974 年 1986 年 1989 年 1990 年	プリンストン大学 (米国) 博士号 (物理学) JASON スタディグループメンバー プリンストン高等研究所長期メンバー プリンストン大学物理学部教授 アメリカ物理学会フェロー プリンストン大学ユージン・ヒギンス・プロフェッサー アメリカ芸術科学アカデミーメンバー 米国科学アカデミー会員 JASON スタディグループ運営委員会委員長

		1995 年 1998 年 2004 年 2005 年 2008 年 2014 年 11 月	プリンストン大学ジェームス・S・マクドネル物理学 ディスティングイッシュトプロフェッサー プリンストン大学物理学部長 ディラック賞（国際理論物理学センター） プリンストン大学理論物理学センターディレクター アメリカ物理学会会長・副会長 プリンストン大学物理学部長 プリンストン高等研究所評議会会員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
リタ・ コルウェル	2011 年 11 月 1 日 ～ 2020 年 10 月 31 日 *	1961 年 1991 年 1998 年 2004 年 2006 年 2007 年 2011 年 11 月 2013 年 2014 年	ワシントン大学（米国）博士号（海洋学） メリーランド大学（米国）生命工学研究所所長 全米科学財団 11 代理事長 国家科学技術会議（米国）共同議長 キャノン US ライフサイエンス（米国）会長・上席副社 長 メリーランド大学特別教授 ジョン・ホプキンス大学（米国）公衆衛生大学院特別 教授 キャノン US ライフサイエンス（米国）上級顧問名誉会 長 科学技術振興機構国際諮問委員 東京大学プレジデント・カウンシル・メンバー 米国生物化学研究所所長 2006 年アメリカ国家科学賞 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 ローザリンド・フランクリン協会会長 シグマ XI ウィリアム・プロクター科学功績賞 一般微生物協会賞
ジェローム・ フリードマン	2011 年 11 月 1 日 ～ 2020 年 10 月 31 日 *	1956 年 1967 年 1977 年 1983 年 1990 年	シカゴ大学（米国）博士号（物理学） マサチューセッツ工科大学（米国）教授 米国大学研究協会 URA ボード委員 同 ボード副議長 マサチューセッツ工科大学物理学部長 ノーベル物理学賞

		1997 年 1999 年 2001 年 2005 年 2009 年 2011 年 11 月	高エネルギー加速器研究機構（KEK）経営協議会委員 米国物理学会会長 米国科学学会代表者評議会議長 独立行政法人沖縄科学技術研基盤整備機構運営委員 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
ピーター・グルース		1977 年 1980 年 1982 年 1983 年 1986 年 1990 年 1997 年 2002 年 2017 年 1 月	博士号取得：ハイデルベルク大学 アメリカ国立衛生研究所（NIH）専門コンサルタント ハイデルベルク大学、微生物学准教授 ハイデルベルク大学分子生物学センター（ZMBH）理事 マックス・プランク生物物理化学研究所（ゲッティンゲン）、 （分子細胞生物学部）部長 ゲッティンゲン大学名誉教授 マックス・プランク生物物理化学研究所（ゲッティンゲン） 所長 マックス・プランク学術振興協会会長 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事長 沖縄科学技術大学院大学学長
セナパティ・ゴバラクリシュナン	2017 年 11 月 1 日 ～ 2020 年 10 月 31 日	1977 年 1979 年 2007 年 2011 年 2016 年 2016 年 2014 年	インド工学大学マドラス校 修士号（物理 インド工学大学マドラス校 修士号（コンピューター サイエンス） インフォシスリミテッド最高経営責任者兼マネージン グ・ディレクター インフォシスリミテッド副会長 インド国立工学アカデミーフェロー インド電子通信工学研究所（IETE）名誉フェロー Axilor Ventures 会長
セルジュ・アロシュ	2015 年 10 月 1 日 ～ 2021 年 9 月 30 日	1971 年 1975 年 1981 年 1984 年 1991 年 1994 年 2001 年	パリ第 6 大学（フランス）博士号（物理学） パリ第 6 大学教授 ハーバード大学客員教授 イェール大学非常勤教授 フランス大学院メンバー 高等師範学校（フランス）物理学部長 コレージュ・ド・フランス量子物理学教授

		2012 年 2015 年 10 月	コレージュ・ド・フランス学長 ノーベル物理学賞 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
橋本 和仁	2016 年 9 月 1 日 ～ 2019 年 8 月 31 日	1980 年 1984 年 1989 年 1991 年 1997 年 2004 年 2007 年 2015 年 2016 年 1 月	分子科学研究所文部技官 分子科学研究所助手 東京大学工学部講師 東京大学工学部助教授 東京大学先端科学技術研究センター教授 東京大学先端科学技術研究センター所長 東京大学大学院工学系研究科教授 東京大学総長特別参与・教授 国立研究開発法人物質・材料研究機構理事長
小谷 元子	2014 年 11 月 1 日 ～ 2020 年 10 月 31 日 *	1990 年 1993 年 1997 年 1999 年 2001 年 2004 年 2008 年 2011 年 2012 年 2014 年 2014 年 11 月	東京都立大学理学研究科 博士号（理学） マックス・プランク研究所客員教授 東邦大学理学部助教授 東北大学大学院理学研究科助教授 仏高等科学研究所（IHES）客員教授 東北大学大学院理学研究科教授 東北大学大学院理学研究科ディスティングイッシュト プロフェッサー 東北大学原子分子材料科学高等研究機構副機構長・教授 東北大学原子分子材料科学高等研究機構長 総合科学技術・イノベーション会議議員（非常勤） 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
ヴィジェイ ラガバン・クリ シュナスワミ	2011 年 11 月 1 日 ～ 2020 年 10 月 31 日 *	1983 年 1984 年 1986 年 1988 年 1998 年 2005 年	タタ基礎化学研究所（インド）博士号（分子生物学） カリフォルニア工科大学（米国）リサーチフェロー カリフォルニア工科大学シニア・リサーチフェロー タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター 入所 タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター シニアプロフェッサー兼所長 首相府（インド）科学諮問委員会委員

		2009 年 2011 年 11 月 2012 年 2013 年	ハーワードヒューズ医学研究所（米国）ジャネリアファーム・リサーチ・キャンパス諮問委員会委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 ロンドン王立協会会員 タタ基礎科学研究所インド国立生命科学研究センター ディスティンクティッシュトプロフェッサー インド科学技術省バイオテクノロジー局局长
黒川 清	2011 年 11 月 1 日 ～ 2020 年 10 月 31 日 *	1967 年 1979 年 1989 年 1993 年 1996 年 1998 年 1999 年 2001 年 2003 年 2005 年 2006 年 2009 年 2011 年 11 月 2014 年	東京大学大学院博士号（医学博士） カリフォルニア大学ロスアンゼルス校（米国）医学部 内科教授 東京大学医学部教授 文部省科学官 東海大学教授 同 医学部長 東海大学総合医学研究所所長 紫綬褒章 内閣府沖縄大学院大学構想検討委員会委員 日本学術会議会長 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構運営委員 内閣特別顧問（科学、技術、イノベーション担当） 政策研究大学院大学政策研究科教授 沖縄科学技術大学院大学学園設立委員 政策研究大学院大学政策研究科アカデミックフェロー 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事 政策研究大学院大学客員教授
エルヴィン・ ネアー	2018 年日 6 月 1 日 ～ 2021 年 5 月 31 日	1965 年 1967 年 1970 年 1966 年 1968 年	ミュンヘン工科大学 フォアディプロム（ディプロム中間試験）（物理） ウィスコンシン大学 理学修士（物理） ミュンヘン工科大学 博士号（物理） ウィスコンシン大学マディソン校 W.W.ビーマン博士 研究室大学院生兼リサーチ・アシスタント（1967 年 まで） マックス・プランク精神医学研究所 H.D.ラックス博 士研究室大学院生兼ポストドクトラルスカラー

			(1972 年まで)
		1972 年	マックス・プランク生物物理化学研究所分子システム構造学部リサーチ・アソシエイト (1975 年)
		1975 年	イエール大学理学部 Ch. F. スティーブンス博士研究室客員リサーチ・アソシエイト (1976 年まで)
		1976 年	マックス・プランク生物物理化学研究所リサーチ・アソシエイト (1982 年まで)
		1989 年	カリフォルニア工科大学フェアチャイルド・スカラー
		1983 年	マックス・プランク生物物理化学研究所、生物膜生物物理研究科長 (2011 年まで)
		2011 年	マックス・プランク生物物理化学研究所名誉所長 (現在に至る)
尾身 幸次	2016 年 10 月 1 日 ～ 2019 年 9 月 30 日*	1956 年 1956 年 1970 年 1976 年 1979 年 1981 年 1983 年 1995 年 1997 年 2001 年 2006 年 2013 年 10 月	一橋大学商学部卒業 通商産業省入省 外務省在ニューヨーク日本国総領事館領事 通商産業省大阪通商産業局総務部長 科学技術庁長官官房総務課長 通商産業省中小企業庁指導部長 衆議院議員初当選 (以来当選八回) 衆議院大蔵委員長 国務大臣経済企画庁長官 国務大臣沖縄及び北方対策・科学技術政策担当 特定非営利活動法人 S T S フォーラム理事長 財務大臣 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事
野依 良治	2018 年 5 月 1 日 ～ 2021 年 4 月 30 日	1961 年	京都大学 学士号
		1963 年	京都大学 修士号
		1967 年	京都大学 博士号 (工学)
		1963 年	京都大学工学部助手 (1968 年まで)
		1968 年	名古屋大学理学部助教授 (1972 年まで)
		1969 年	ハーバード大学博士研究員
		1972 年	名古屋大学理学部教授 (2003 まで)
		1997 年	名古屋大学大学院理学研究科長・理学部長 (1999 年まで)
		2002 年	日本化学会会長 (2003 年まで)

		2003 年	名古屋大学特任教授（現在に至る）
		2003 年 07 月	独立行政法人理化学研究所理事長（2015 年 03 月まで）
		2005 年	文部科学省科学技術・学術審議会会長（2015 年まで）
		2006 年	教育再生会議座長（2008 年まで）
		2015 年	独立行政法人理化学研究所フェロー（現在に至る）
		2015 年 06 月	国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター長（現在に至る）
		2015 年 07 月	公益財団法人日本科学技術振興財団科学技術館長（現在に至る）
アルブレヒト・ ワグナー	2015 年 10 月 1 日 ～ 2021 年 9 月 30 日	1971 年 1984 年 1991 年 1999 年 2005 年 2006 年 2007 年 2008 年 2010 年 2011 年 2015 年 10 月	ハイデルベルク大学（ドイツ）博士号（物理学） ハイデルベルク大学教授 ハンブルグ大学教授 ドイツ電子シンクロトロン研究所（DESY）所長 DESY 理事会委員長 TESLA Technology Collaboration Board 委員長 将来加速器国際委員会（ICFA）委員長 ヘルムホルツ協会副会長 ハンブルグ大学評議委員会委員長 ヨアキム・ヘルツ基金委員 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園評議員 同 理事長臨時代理兼学長臨時代理

*重任・2 期目 **再任

（３） 評議員

氏名	任期	所属
安仁屋 洋子	2014 年 11 月 1 日～ 2020 年 10 月 31 日	琉球大学名誉教授
有馬 朗人	2011 年 11 月 1 日～ 2020 年 10 月 31 日	財団法人日本科学技術振興財団会長 学校法人根津育英会武蔵学園学園長 公立大学法人静岡文化芸術大学理事長
モンテ・カセム	2011 年 11 月 1 日～ 2020 年 10 月 31 日*	学校法人立命館総長特別補佐
メアリー・コリンズ	2016 年 2 月 18 日～ 2022 年 2 月 17 日	沖縄科学技術大学院大学研究担当ディーン

エリック・デシュッター	2018年9月1日～ 2019年9月30日	沖縄科学技術大学院大学教授会議長
土肥 義治	2011年11月1日～ 2020年10月31日*	公益財団法人高輝度光科学研究センター理事長
ラルフ・アイヒラー	2014年11月1日～ 2020年10月31日*	前スイス連邦工科大学チューリッヒ校学長
アリ・ガンジロー	2015年10月2日～ 2021年10月1日**	沖縄科学技術大学院大学副学長（施設管理担当）
フレデリック・ギルマン	2011年11月1日～ 2020年10月31日*	カーネギー・メロン大学（米国）理学研究科長
平澤 玲	2011年11月1日～ 2020年10月31日*	財団法人未来工学研究所理事長 東京大学名誉教授 北陸先端科学技術大学院大学経営協議会委員
キース・ホジソン	2014年11月1日～ 2020年10月31日	スタンフォード大学化学学部長
アイリーン・ヒラノ・イノウエ	2018年2月1日～ 2021年1月31日	米日カウンスル会長
梶山 千里	2011年11月1日～ 2020年10月31日*	福岡女子大学学長・理事長 前九州大学総長
川上 好久	2018年1月4日～ 2021年1月3日	沖縄振興開発金融公庫理事長
ナセル・カゼミニ	2017年11月1日～ 2020年10月31日	ナショナル・エスニック・コーリション・オブ・オーガニゼーションズ（NECO）
益戸 正樹	2018年1月1日～ 2020年12月31日	内閣府沖縄振興審議会委員 パークレーズ証券株式会社顧問
松本 良	2011年11月1日～ 2020年10月31日*	東京大学名誉教授 明治大学研究知財戦略機構特任教授
松島 恵美	2014年11月1日～ 2020年10月31日*	沖縄科学技術大学院大学統括弁護士
アン・ミウラ・コー	2011年11月1日～ 2020年10月31日*	Floodgate 共同設立パートナー
長浜 善巳	2015年2月19日～ 2020年10月31日*	恩納村村長
ロバート・ナカソネ	2017年11月1日～ 2020年10月31日	世界ウチナアンチュビジネス（WUM）ネットワー ク創設者－アドバイザー
リー・ジェームス・	2017年11月1日～	アイルランドハイエンドコンピューティングセン

オリオーダン	2020 年 10 月 31 日	ター (ICHEC) コンピューテーションリサーチサイエンティスト
ケン・ピーチ	2011 年 11 月 1 日～ 2020 年 10 月 31 日*	オックスフォード大学 (英国) 量子治療癌研究所名誉教授
ミリンダ・プロヒッタ	2018 年 4 月 1 日～ 2019 年 9 月 30 日	沖縄科学技術大学院大学教員担当学監
白井 克彦	2011 年 11 月 1 日～ 2020 年 10 月 31 日*	放送大学学園理事長 前早稲田大学総長 前沖縄振興審議会会長
ウルフ・スコグラント	2018 年 4 月 1 日～ 2020 年 10 月 31 日	沖縄科学技術大学院大学研究科長
デイヴィッド・スウィンバンク	2011 年 11 月 1 日～ 2020 年 10 月 31 日*	ネイチャーパブリッシンググループ マネージング・ディレクター リジョナルマーケット&サイエンス&メディカルコミュニケーションズ アジアパシフィック・インド・中東・イベロアメリカ・ロシア マクミラン サイエンス&エデュケーションマネージングディレクター オーストラリア&ニュージーランド
高安 藤	2011 年 11 月 1 日～ 2020 年 10 月 31 日*	元在沖米国総領事館広報・文化担当補佐官
田中 信明	2014 年 11 月 1 日～ 2020 年 10 月 31 日*	元国連本部事務次長 ガイアコンタクト CEO
富川 盛武	2015 年 2 月 19 日～ 2020 年 11 月 5 日*	沖縄県副知事
ゲイル・トリップ	2018 年 6 月 1 日～ 2021 年 5 月 31 日	沖縄科学技術大学院大学副学長 (大学コミュニティ支援担当)
アルブレヒト・ワグナー	2011 年 11 月 1 日～ 2020 年 10 月 31 日	ドイツ電子シンクロトロン名誉所長
和宇慶 江理子	2015 年 5 月 18 日～ 2020 年 10 月 31 日*	沖縄アミークスインターナショナル校長
山崎 秀雄	2014 年 11 月 1 日～ 2020 年 10 月 31 日*	琉球大学理学部海洋自然科学科生物系理学部長
フィリップ・ヨー	2011 年 11 月 1 日～ 2020 年 10 月 31 日*	シンガポール中小企業育成標準政策庁 (SPRING) 長官
吉尾 啓介	2018 年 4 月 1 日～	チーフ・オペレーティング・オフィサー

	2021 年 3 月 31 日	
ユルゲン・ツェルナー	2017 年 5 月 24 日～ 2020 年 5 月 23 日	シュティフトゥング・シャリテ エグゼクティブ・ボード

*理事兼任者

*重任・2 期目

**再任

II. 業務実績報告

別紙「平成 30 年度業務実績報告」のとおり。

平成 30 年度

業 務 実 績 報 告

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己評価
--------------	----	------------	------

平成 31 年 3 月 31 日

第 1 章 教育研究に関する事項				
1.1 博士課程 目標 (1)	平成 29 年のフィードバックを受け、新規学生の円滑な受入れと、計画どおりの研究トレーニングの開始に万全を期し、取組の更なる改善を図ります。			A
1.1 博士課程 取組 (1)	(授業科目) 1101 引き続き、新しく採用された教員が担当する授業を含め、カリキュラムを拡充させます。学内における新規授業科目開発・承認及び既存科目内容変更承認の仕組みの改善を図ります。 1102 引き続き、博士論文研究開始前のトレーニングやラボ・ローテーション、個々の学生への指導教員（アカデミック・メンター）の配置等を含め、個々の学生のニーズに応じたプログラムを提供します。 1103 引き続き、グループ活動やプレゼンテーションの技術、研究倫理、キャリア開発、教育経験、招待学生による講演事業等に重点を置いたトレーニング等を内容とする「プロフェッショナル・ディベロップメント科目」を提供します。		(授業科目) 1101 引き続き、選択科目のカリキュラムを改良・拡充しました。新しい教員が加わったことで、さらに多くの選択科目を提供することができました。教育分野の拡大や、重複を防ぐことで更なる改善が見込める教育分野を特定するため、正式なカリキュラム審査プロセスも開始しました。他大学履修で修得した単位を移行可能にするシステム整備が完了し、来学期から実施されます。 1102 引き続き、博士論文研究開始前のトレーニングやラボ・ローテーション、個々の学生への指導教員（アカデミック・メンター）の配置等を含め、個々の学生のニーズに応じたプログラムを提供しました。個々の学生へ指導教員（アカデミック・メンター）を配置し、ラボ・ローテーションやコース・ワークを開始しました。 1103 「プロフェッショナル・ディベロップメント科目」を継続して実施し、専門的な科学技術習得の向上に努めました。当該科目は主に 3 つの要素から構成されています。1) 研究公正や倫理、サイエンス・コミュニケーション、社会における科学の役割などの多岐にわたる週次セミナー2) 学際的なグループ・プロジェクト 3)	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	1104 引き続き、卓越した外部試験官による口頭試験を基本に博士論文研究の進捗状況の審査を実施します。 1105 卓越した外部試験官による口頭試験を基本に最終試験を実施します。また前年度の経験を基に学位授与のプロセス改善を図り、修了生への学位授与を行います。 1106 引き続き、入学予定の学生（特に 3 月に日本の大学を卒業する学生）に対し提供する、研究活動で必要となる語学力等を習得する準備プログラムの充実を図ります。		専門技能の習得セミナーシリーズ。 1104 博士論文研究開始のための審査が定期的に継続され、研究計画書の口頭試問が行われ、学内審査員と学外審査員各 1 名により審査されました。 1105 学外審査員 2 名の前で公开发表と口頭試問を行う学位論文審査の形式が構築されました。博士課程に属していた学生 17 名が平成 30 年度に修了しました。本学第 2 回目の学位記授与式は、平成 31 年 5 月 25 日に執り行われます。 1106 博士課程を開始する前に、1 名の学生に「ギャップ・プログラム」を提供し、英語とラボのスキルを向上させました。	
1.1 博士課程 取組 (1)	（教育環境） 1107 引き続き、学生の研修、単位互換、ティーチング・アシスタント等の交流を目的に連携協定を締結する等、他大学との協力関係を強化します。		（教育環境） 1107 他大学の学生をヴィジティング・リサーチ・ステューデントや特別研究学生として指導し、東大、理研、プリンストン大学、韓国科学技術員（KAIST）、タフツ大学、ケンブリッジ大学、オーフス大学、トレスデン工科大学、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、Earlham Institute、Technische Universität、ダルムシュタット工科大学、ATR、パリ市立工業物理化学高等専門大学（PMMH-ESPCI）などの大学に本学博士課程の学生を数名派遣するなど、他大学との関係を構築してきました。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	1108 履修状況、成績、単位等のデータを管理する学生記録システムを運用し、引き続き拡充を図ります。 1109 引き続き、実験授業、教材、講義室や指導室、AV 機器、コンピューター・ラボ等を管理するための仕組みや、教員と事務部門との連絡窓口を強化します。 1110 (数学、コンピューター・プログラミングのような) 確立したトピックにおける短期のコース及び客員研究者による特別なコースを設けることによって博士課程学生が必要とする研究技術を学ぶ機会を増加させます。		1108 データを可視化する新しい視覚化ツールの開発や今後導入予定のシステムの設計等、学生記録システムの改善に継続的に取り組みました。 1109 学位論文審査等の進捗管理表、ウェブ・フォームを使用した申請書、プロジェクト管理システムを開発し、教務支援を強化しました。引き続き、教員や学生に対する説明会の内容を改善し、学生評議会との月例ミーティングを実施しています。 1110 短期集中講座であるスキルピル (Skill Pills) シリーズの種類・回数を大幅に増やし、本学の教育活動に大きく貢献しました。	
1.1 博士課程 取組 (1)	(学生支援) 1111 引き続き、日本における教育プログラム、法令、研究のための使用可能な実験室や生活の情報を提供するため、入学後の学生に対するオリエンテーション・プログラムを改良します。 1112 文化イベントの開催や日本国内の他大学に在籍する学生との交流の機会を設けることにより、海外からの学生による日本文化に対する理解を促進します。 1113 引き続き、本学の博士課程に入学する学生に対	・外部の奨学金等を獲得した学生数の増加	(学生支援) 1111 博士課程の学生として、また、沖縄での新生活を始めるための明確な情報提供を心掛け、入学後の学生に対するオリエンテーション・プログラム、ウェブサイト等を改良しました。 1112 引き続き日本及び沖縄の文化を学ぶ機会を提供しました。沖縄文化の理解を深めるための社会見学を実施しました。また、沖縄県内の他大学と合同で、交流会や文化講演会を開催しました。 1113 年末調整、還付申告、滞在ビザの更新、出生届	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
し、本学が優れた学生の獲得を巡って競合する世界水準の大学と同程度の生活水準において、研究活動等に専念できるような環境を提供します。将来的な経済支援の調整の基礎とするため、ベンチマークとなる他大学における国際的な支援レベルの比較調査を委託します。 1114 学生が巻き込まれた事故の発生や対応、結果等を引き続き記録し、本学としての対応が必要な場合、統括弁護士オフィス及び COO とともに、その対応に当たります。 1115 引き続き、外部の奨学金等の情報を収集し、学生に対し情報を提供するよう努めます。 1116 引き続き、学生の卒業後のキャリア形成を支援するための方策を実施します。これらの支援には、学内（短期コースや学部生向けワークショップ）におけるティーチング・アシスタントの機会の提供、シニア・リサーチ・アシスタント制度の導入、国内外の大学・研究機関のリーダー層とのネットワークの構築の促進、ポスドク等のポジションの就職情報の積極的な提供、外部研究者の講演プログラムや個別のキャリアアドバイス等が含まれる予定です。また、国内における就職活動のための指導や会社訪問のための経済支援を提供します。学生の卒業後の追跡調査は一年に一回行う予定です。また、		等の申請手続きを学生に代わり適時行いました。また、奨学金申請に伴う書類作成のサポートも引き続き行いました。 将来的な経済的支援の調整の基礎とするため、ベンチマークとなる他大学における国際的な支援レベルの比較調査を委託し、現在継続中です。 1114 緊急時に少しでも迅速な対応ができるよう、本学キャンパス・セキュリティ窓口、保健センター、がんじゅうセンター及び統括弁護士オフィスと緊密に連携を取り、新しい HEART-HCM により当該情報を管理しました。 1115 学生が申請可能な奨学金や、フェローシップの情報を引き続き提供しました。また奨学金申請に関するセミナーを開催し、必要に応じて申請手続きをサポートしました。 1116 学生向けプロフェッショナル・ディベロップメント担当者が平成 30 年 8 月に本学を退職した後、雇用規制のため後任の採用ができませんでした。そのため、プロフェッショナル・ディベロップメントにおいては、ワークショップの開催など、前述の限られた活動しか行うことができませんでした。雇用停止の解除後は、プロフェッショナル・キャリアディベロップメント・コーディネーターの採用を優先し、現在も面談を継続中です。人員確保が困難であったため、アラムナイ・マネジメントに注力することができませんでした。一昨年は同窓生がいなかったため、当該ポストは今後新たに設置する	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
	アラムナイ・ネットワークに関しては本学全体で計画中のアラムナイ・ネットワークとは別に研究科の卒業生だけを対象としたネットワークを開始する予定です。その際 LinkedIn を利用する予定です。 1117 学生支援セクションのウェブサイト充実させて学生及び学生の家族向けの経済的支援、トラベル支援、福利厚生関連サポート等について明快な情報を提供し、沖縄及び OIST における生活の理解を助けます。 1118 引き続き、学生に対し、学会やワークショップ参加、他の教育機関訪問、キャリア・ディベロップメントのためのトラベル・アレンジメントの支援を提供します。 1119 引き続き、特別研究学生、ヴィジティング・リサーチ・スチューデント、リサーチ・インターンなどの非正規学生が、不安や問題なく速やかに新しい環境に適応するためのサービスを提供します。 1120 学生評議員会との定期ミーティング開催を通じた学生との対話を重視し、学生のフィードバックを研究科のサービスに活かしていきます。		予定です。アラムナイ・ネットワークは広報ディビジョンと学長室（資金調達）の関心分野でもあるため、両部門との連携を通して拡大していけるよう準備を進めます。 1117 学生またその家族に明確な情報を提供するために新しい学生支援ウェブサイトを立ち上げました。 1118 引き続き、適切な助言と円滑なトラベル・アレンジメントを提供しました。ルールや手続きに関する明確な情報を提供するために、学生トラベル・ガイドライン及びウェブサイトを改善しました。 1119 引き続き、非正規学生が新しい環境に適応し、本学での教育研究に打ち込めるよう、必要な支援を行いました。 1120 学生との対話を重視するため、学生評議会との月例ミーティングを実施しました。学生からのフィードバックを研究科のサービスに反映しました。	
1.1 博士課程 目標 (2)	引き続き、科学技術分野における世界最優秀の学生を選抜し、本学の博士課程に受け入れます。学生の少なくとも半数は外国人とします。			A
1.1	1121 これまでの学生募集・選抜の状況について適切	・成績優秀な学生の博	1121 今年の学生募集・選抜の状況について適切な検	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己評価
博士課程 取組 (2)	士課程への応募者数 (日本人及び外国人) ・合格者数(日本人及び外国人) ・入学者の水準(出身大学等) ・卒業生の就職状況	証を行い、データの綿密な分析を行いました。イギリスで開催されたポスドクフェアと米国での個別説明会において、本学の特色ある教育プログラムを国内外に向けて効果的にアピールしました。 添付資料 1.1-1 学生に関する情報 1122 平成 30 年 10 月、学生募集担当者 2 名が南カリフォルニア大学の大学院フェアに参加し、同大学および、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、デービス校、バークレー校、サンディエゴ校にて個別説明会を開催しました。また、本学職員 2 名がイギリスの 3 か所で行われた大学院フェアに参加しました。日英両言語で学生募集活動に向けた簡潔で分かりやすいパンフレットを作成しました。また、アドミッション・ウェブサイトを刷新し、平成 31 年 3 月 30 日に提供を開始しました。OIST カフェを東京で 2 回(7 月と 1 月)開催しました。参加者数は多くなかったものの、参加者のうち 2 名が博士課程に出願し、3 名が平成 31 年度のサイエンス・チャレンジに参加するなど、参加者との継続的な関係構築への機会となりました。また、大阪大学でも本学のリサーチ・インターンシップについて紹介する説明会を実施しました。 平成 31 年度のサイエンス・チャレンジには、国内外から計 31 名が参加し、本学で有意義な時間を過ごしてもらうことができました。最終的には、学生募集活動を通じて計 6 名の学生が本学博士課程に合格しました。海外におけるカンファレンス等では、教員が直接本学の	

な検証を行い、その結果を採用活動に反映させ、計画的かつ効果的な募集・選抜を実施します。また、OIST の特色ある教育プログラムを国内外に向けて効果的にアピールします。

1122 平成 30 年 9 月に本学の博士課程(科学技術専攻、科学技術研究科)に入学を予定する次期学生として、科学技術分野における世界最優秀の学生の獲得を目指し、以下のとおり、国際的な募集・獲得活動を引き続き展開します。

入学定員： 約 50 名

主な募集活動：

- 募集ツールとして、引き続き、研究科のウェブサイトを整備します。さらに、正確で分かりやすい学生募集パンフレットを発行します。
- 国内の主要都市で OIST カフェを開催し、本学の募集情報や英語講習を提供します。
- 国内の大学及び大学院で就学中の学生を対象としたスキルピルプラスを開催し、サイエンストピックの集中講座に参加してもらいます。
- 日本の学部生を対象としたサイエンス・チャレンジ・ワークショップ、学部及び修士レベルの日本人・外国人学生を対象としたコラボレティブ・エクスperiment・デザイン・アンド・アナリティクス(Collaborative Experimental Design and Analytics: CEDA)を開催し、本学の最先端の研究ならびに大学院のプログラムを体験

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
	してもらう機会を提供します。 -化学や海洋科学などの分野からの募集のために、ターゲットを絞ったパンフレットを発行します。 ※本学の教育環境の特色を学生に紹介する取組において、引き続き特に日本人学生に留意して募集活動を行います。いくつかの国内大学における説明会や、平成 29 年度に実施した OIST 体験ワークショップのようなイベントを開催するなど、ターゲットを絞った取組を通し、日本人学生の参加の機会を増やすよう努めます。		研究活動等に関する情報を提供しました。本学キャンパスで開催されるワークショップでは、教員がパンフレットなど宣伝資料を配布するよう奨励しました。 海洋研究および化学分野を焦点とした特別なパンフレットは作成しませんでした。追加のワークショップとして Skill Pills Plus を開催し、国内外から 13 名の学生が参加し、成功裏に幕を閉じました。 ネット上の活動については、Twitter のフォロワー数が 520 人から 1206 人（増加率約 230%）に倍増し、Instagram では、年度内で 500 人から 1030 人（増加率約 200%）に倍増しました。また、人気のある YouTube チャンネル「MinuteEarth」と協働し、本学の研究を紹介しました。視聴者の数は 3 日間で 25 万人を記録しました。	
1.2 研究活動に関する事項 目標	引き続き、世界最高水準の学際的な研究を推進します。基礎研究を通じて、新たな知見を追求することに尽力します。また、様々な国や地域から集まった学生に対し教育訓練を実施します。相互の連携を促す環境の整備、最先端の設備・機器の提供、並びに定期的な実施される厳格な研究評価制度等により、優秀な教員や学生、研究員を奨励し、高いモチベーションを維持するよう支援します。 社会のニーズに応え、それに相応しい取組を展開するよう努めます。基礎研究から生まれる発見こそが最も大きな貢献に繋がると確信しています。政府による「経済財政運営と改革の基本方針」に基づき、知的・産業クラスター形成の推進に関連した研究等を通じて、ニーズに見合った科学技術の応用を推進していきます。			A

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
1.2 研究活動に関する事項 取組	(学際的研究の促進) 1201 学際的研究の成否は、教員が率いる研究ユニットの研究力に左右されます。競争力のあるユニットを確立するため、引き続き優秀な人材を教員として採用していきます。平成 29 年 11 月に開催した、外部の世界的に著名な科学者と OIST の教員の代表が、OIST の今後の教育研究分野の発展に関して議論をする「OIST における研究展望委員会」で提案があったように、海洋科学等一部の分野についてはターゲット採用と公募を組み合わせ採用活動を行います。 1202 研究棟のデザインや博士課程新期生による専門外のラボ・ローテーション、社会活動により分野をまたぐ共同プロジェクトを促進します。平成 30 年 2 月時		(学際的研究の促進) 1201 Perspective Council（国際的に著名な科学者 6 名から構成される委員会）の助言をもとに、今年度は 9 分野において採用枠 19 名で教員採用活動を行いました。上記 9 分野には属さないが、学際的な研究を自立的に進められる優れた研究員も応募できるよう分野を特定しない教員採用活動も行いました。9 分野で採用するために 9 つの教員採用委員会が結成され、委員会の間で応募者情報を交換しました。例えば、応募者の中にはコンピューター・サイエンスと神経科学の両分野の委員会では、Target of Opportunity（スカウトによる採用）を行いました。複数分野の本学教員が、この教員と個別またはグループで共同研究を行うことに興味を示しています。教員によるランチタイム・セミナーも継続しており、異なる分野の教員が出席しています。教員リトリートを実施し、様々な分野の教員が科学的な議論を行いました。学際的研究を促進する取り組みは、ポスドク（博士後研究員）を対象にも行われています。科学的な出会いを目的とした「サイエンス・スピード・デート」と呼ばれるイベントでは、研究員が自らの研究について紹介し、次に相手を変えて紹介することを繰り返し、最後に自由に科学的議論を行います。 1202 学内のスペース検討委員会の議論の中で、ローテーションで複数の研究ユニットを経験する大学院一年次の学生を共通スペースに配置することが有益であ	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	点の研究ユニット一覧は、別紙 1-1 を参照。また、主な研究内容については別紙 1-2 を参照。		ることが分かりました。学生は共通スペースで異分野の学生と交流し学ぶと同時に、博士論文にも学際的研究が特徴として見られることが期待されます。学生は、自分の専門分野以外で少なくとも 2 つの研究ユニットをローテーションで経験することが求められます。	
1.2 研究活動に関する事項 取組	(研究活動の支援) 1203 研究支援ディビジョンにおいては、平成 30 年 3 月のメカニカル・エンジニアリング&マイクロファブリケーション・サポートセクションのセクション・リーダーの退職を受け、新しいセクション・リーダーを探します。また、迅速かつ高い質のサービスを提供できるよう、工作機械支援を強化するとともに、電子工学の支援に向けたリソースの検討を開始しました。また、同セクションと機器分析セクションのピアレビューを行います。各セクションがとりまとめるユーザーグループでは、機器の重複を避けるため、共通機器だけではなく、共有、専有希望の機器についても審査を行うこととします。また、物質・材料研究機構等の機器共有プラットフォームで利用可能な機器について、OIST の研究者に紹介します。 1204 実験動物セクションは、新規研究支援業務として遺伝子組換え動物の作出を開始します。また、将来の新研究棟における実験動物施設の基本的な考え方を検討します。		(研究活動の支援) 1203 研究支援ディビジョンにおいては、メカニカル・エンジニアリング&マイクロファブリケーション・サポートセクションの新しいセクション・リーダーを採用しました。工作機械支援を強化するとともに、電子工学の支援に向けたリソースの検討を開始しました。また、同セクションと機器分析セクションのピアレビューを行い、セクションの運営について、有識者からの有用なアドバイスを多数受けました。 各セクションがとりまとめるユーザーグループでは、機器の重複を避けるため、共通機器だけではなく、共有、専有希望の機器についても審査を行い、機器の共有化を促進しました。物質・材料研究機構等の機器共有プラットフォームで利用可能な機器について、本学の研究者に紹介しました。 1204 実験動物セクションは、新規研究支援業務として遺伝子組換え動物作出を実施するための技術者を採用し、周辺機器の整備を行いました。また、新研究棟における動物実験施設の基礎設計に携わり、研究者、研究支援スタッフの両方が満足できるよう、基礎設計の作製に貢献しました。	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
1205 DNA シーケンシング・セクションは、引き続き下記の研究支援業務を遂行します：(1)サンプル調整と超高速 DNA 解読装置の運用、(2)既存のサンプル調整法の改良ならびに新規手法の開発。また、新たに「沖縄科学技術大学院大学 研究データ、ラボノート、研究試料及び化学物質の保存及び開示に関するガイドライン」に沿ったサンプルやデータを保存・公開の環境構築を目指します。 1206 メカニカル・エンジニアリング&マイクロファブリケーションサポート・セクションは、CNC 工作機械を使用して高度な加工を迅速に行うスキルを向上します。また、スタッフ及び研究者、学生の工作機械の厳格な安全使用を徹底します。		1205 (1)サンプル調整と超高速 DNA 解読装置の運用： 今年 1 月、読取長が長く、ラン当たりのデータ量増加が著しい Oxford Nanopore 社の PromethION を導入しました。学内ユーザーの協力のもと、様々な生物種の DNA でテストランを行い、サンプルの取扱を含めた運用のノウハウの蓄積を始めました。 (2)既存のサンプル調整法の改良ならびに新規手法の開発： 増え続けるサンプル数に対応するために、新たな装置を複数稼働させ、ルーチン作業である DNA の定量やサンプル調整において工程の自動化を進めました。 「沖縄科学技術大学院大学 研究データ、ラボノート、研究試料及び化学物質の保存及び開示に関するガイドライン」に沿ったサンプルやデータを保存・公開の環境構築： 今年度は、サンプル、データなどの実験に関する情報の管理に適したソフトウェアを調査し、実験ノート専用のソフト、メモを取りやすいソフトなどクラウドやローカルにインストールするソフトのリストアップを行い、試験運用を開始しました。 1206 メカニカル・エンジニアリング&マイクロファブリケーションサポート・セクションでは、CNC 工作機器ツールの操作方法およびスキルを大幅に改善しました。これは、様々なツール・メーカーやソフトウェア・メーカーとの協力やトレーニング・プログラムを活用して達成されました。これに関連して、工作室では依頼さ	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己評価
1207 科学計算及びデータ解析セクションは、データ解析と人工知能コンピューティング用の GPU システムの利用促進と研究支援を継続します。GPU 計算システムの利用を上回る統合した研究支援ソリューションを提供します。また、研究環境におけるハイパフォーマンスコМПユーティング (HPC) の効果的な利用を促進し続け、科学計算とデータ分析の研究プロジェクトを大学院の中央 IT インフラと統合することを続けます。 1208 拡張する研究分野や研究材料の安全に対応するため、安全衛生を担当する職員の拡充を行います。常勤のダイビング安全主任者の採用に向けて引き続き同主任者の公募を継続します。各研究室に安全担当者（仮称）を設置する等、安全に関する安全衛生部署と各研究		れた作業を各 CNC ツールのスペシャリストに割り当てていますが、工作室を通して実施する作業について、より効率的なワーク・フローを作成しました。その結果、完成品の質が向上したと同時にリード・タイムも短縮されました。 工作室ではスタッフおよび研究員向けに強化されたトレーニングとルールを導入することで安全面も強化されています。これによって、すべての工作室ユーザーにとって安全な環境が構築されています。 1207 科学計算及びデータ分析セクションは、本学における GPU コンピューティング・システム導入の第 2 段を実行し、学内で増加をし続けているデータ分析と人工知能計算用のリソース需要に対応することができました。外部参加者を含めた本学のセミナーやワークショップのイベント開催を支援するために、学内及びクラウド・サービスを用いた高性能科学計算システムを構築し、イベント開催計画をサポートしながら提供しました。また、IT 部門そして他の研究支援セクションと協力して LIMS（ラボラトリー情報管理システム）と高性能画像解析の遠隔デスクトップ・プラットフォームを提供しました。 1208 平成 31 年 3 月 1 日付けでダイビング安全主任者を採用しました。各研究室に安全連絡員を設置することを決定し、安全衛生管理規程に同安全連絡員に関する条項を追加しました。（緊急対応コーディネーターについては、5301 及び 5302 参照）	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
室のコミュニケーションを充実させる方法を確立します。新たに着任した緊急対応コーディネーターの下、緊急対応訓練を計画・実施します。 1209 引き続き、次世代研究機器データベースへの移行を推進します。また研究支援ディビジョンとその各セクションのウェブサイトをもさらに充実させ、体系的な情報発信を行います。 1210 研究データの保存は、研究室の閉鎖や研究員の退職時の管理徹底が重要です。したがって、研究データ等に関する研究室の閉鎖や研究員の退職時の手続きに関するチェックリスト等を策定します。研究倫理のさらなる向上に向け、研究倫理に関する専門家を招聘し、研究倫理セミナーを開催するなど、引き続き、研究倫理教育の徹底に努めます。 1211 外部研究資金セクションは、教員担当学監オフィス等学内の部署との連携をさらに深め、教員、研究者、学生への外部研究資金申請・管理に関する支援を強化します。また公募情報についても継続して情報入手、学内配信を行います。		1209 次世代研究機器データベースの検討を引き続き進めました。研究支援ディビジョンとその各セクションのウェブサイトの形式を統一化することで、体系的かつ効果的に情報発信をできるようになりました。 1210 研究データ等に関する研究室の閉鎖や研究員の退職時の手続きに関するガイドラインを作成し、本学の研究支援ディビジョンのウェブサイトで公開しました。研究倫理のさらなる向上に向け、研究倫理教育の第一人者である東京工業大学の札幌順教授を、平成 30 年 12 月 13 日に招聘し、研究倫理に関するワークショップを開催しました。 1211 外部研究資金セクション（GRC）は、教員担当学監オフィス（FAO）から新たに着任する本学教員に関する情報を受け取り、外部助成金に係る支援の準備をしました。GRC は、セクション間の交流を促進するために、外部の助成金に関する情報を関連する他のセクションと共有しました。その他の協働として、助成金申請に役立つ一連のセミナーやワークショップの企画（FAO ポスドク・ディベロップメント・スペシャリストと協働）、ならびに卓越大学院プログラムの申請（大学院事務局と協働）などを行いました。	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
1212 研究支援ディビジョン事務職員サーベイの結果を踏まえ、職員のスキルやキャリア形成に繋がるようなトレーニング等のパッケージについて検討します。また、IST オーストリア及びワイツマン研究所の研究施設サービス、費用、スタッフ体制等に関するベンチマーク調査を実施します。新しいメカニカル・エンジニアリング&マイクロファブ리케이션サポートセクションのセクション・リーダーを支援するため、工作室のサービススタンダードを構築します。イメージング・セクションは、新しいセクション・リーダーの指揮のもと、支援体制の一層の充実を図ります。創薬等先端技術支援基盤プラットフォーム（BINDS）における、クライオ電子顕微鏡による構造解析支援を本格稼働します。先端バイオイメージング支援プラットフォーム（ABiS）の活動の一環として、顕微鏡及び画像解析のトレーニングワークショップを開催します。機器分析セクションは、引き続き全学的な機器分析サポートの拡充を行ってきます。多くのユーザーの複雑なニーズに応えるため分析機器の使用者ガイドラインと標準操作手順を制定し、より効率よく高度な分析機器を使用できる環境を整えます。引き続き、ユーザーのためのトレーニング・コースなどを充実させ多くの研究者に使用できる環境を整えるとともに、高度な研究課題へ十分なサポートができるようにスタッフのレベル・アップを行っていきます。沖縄海洋研究支援セクションは、海洋科学の国際諮問委員会のメンバーを招き、評価を受けることで、OIST マリン・サイエンス・ステーションで提供する研究支援サービスの強化を図ります。地域住民への見学会を開催し、研究活		1212 研究支援ディビジョン事務職員サーベイの結果を踏まえ、職員のスキルやキャリア形成に繋がるような共通のチャートを作成し、ディビジョン内で説明、共有しました。また、カリフォルニア工科大学を訪問し、研究支援体制に関するベンチマーク調査を実施しました。メカニカル・エンジニアリング&マイクロファブ리케이션サポートセクションは、マイクロファブ리케이션・チームおよびメカニカル・チームが、ポリシー・マニュアル、明確なワーク・フローおよびルールを整備しました。これによって、すべての施設へのアクセスが容易になり、スタッフが速やかにリクエストに対応できるようになりました。 2019 年 1 月にピアレビューが実施され、MEMS セクションの運営体制が審査されました。そのレポート結果では、現在のレベルを考慮した上で、本セクションが十分に機能していることが示されました。 イメージング・セクションは、光学顕微鏡サポートに 2 名、電子顕微鏡サポートに同じく 2 名のメンバーが加わり、ユーザーへのサポートを大きく改善することができました。研究分担者として参加している創薬等先端技術支援プラットフォーム（BINDS/AMED）の一環として、クライオ電子顕微鏡での構造解析支援（単粒子解析）のワーク・フローを作成し、かつ国内外の電子顕微鏡ユーザーに対してクライオ電子顕微鏡のトレーニング・プログラムを起案、開始しました。また、日々のサポート業務に加えて研究プロジェクトへの参加、国内外での教育活動も行い、ABiS Advanced Light Microscopy Training workshop、Tokuyasu workshop（順天堂大学との共催）、	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	動の広報を行う他、おきなわマリンサイエンス・ワークショップに参加し、沖縄における海洋科学関係機関とのネットワークを引き続き強化します。		Cryo-EM workshop のワークショップを開催しました。また、琉球大学、ミナス・ジェライス連邦大学（ブラジル）との共同研究契約を結び、現在別の共同研究についても準備しています。 機器分析セクションは、使用者ガイドラインと標準操作手順を制定し、リクエスト進捗状況のユーザーへの可視化を行い機器分析サポートの拡充を行ってきました。さらに、ユーザーのためのトレーニング・コースの実施やスタッフのレベル・アップなど人的なレベル・アップを行いました。また、マックスプランク研究所などの専門家による外部評価を受けて世界レベルでの機器分析サポート体制についてアドバイスを受けました。 沖縄海洋研究支援セクションは、9 月に海洋科学の国際諮問委員会のメンバーを招き、本学のマリン・サイエンス・ステーションで提供する研究支援サービスについてポジティブな評価を受けました。8 月には、国際海洋環境情報センターと共同で地域住民への見学会を開催し、約 90 名が来所しました。また、11 月には、沖縄県主催のおきなわマリンサイエンス・ワークショップに参加し、沖縄における海洋科学関係機関とのネットワークを強化しました。	
1.2 研究活動に関する事項 取組	(研究内容・成果の発信・公表) 1213 引き続き、厳格な研究評価の実施等を通じて、最も質の高い研究を掲載する国際的な学術誌への論文投稿や国際学会への参加を奨励します。	・研究者の数（教員、ポスドク、技術者及び学生） ・研究成果の発表論文数	(研究内容・成果の発信・公表) 1213 教員の年間業績評価で教員の研究成果を確認するとともに、引き続き本学と他大学の研究成果を比較し、モニターします。本学図書館が運営する機関レポジトリを通じて、研究成果のオープン・アクセスの促進にも取り組むと同時に、教員の年間業績評価で、各教員のオープン・アクセス率についても確認をしています。	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
1214 研究内容や研究成果について、OIST ウェブサイトでの発表、記者公表、記者会見、記者懇談会、OIST 便り（電子版ニュースレター）、パンフレット、テレビ番組や新聞・雑誌・ウェブ記事、OIST ソーシャル・メディア等を活用して、引き続き国内外への分かりやすい情報発信に努めます。 ・本学ウェブサイトのレスポンス・デザインは平成 27 年に OIST ホームページ及び各グループサイトの作業が完了し、モバイル端末ユーザーに向けた利便性が飛躍的に向上しました。内部向けウェブサイトとディレクトリも拡大する大学の要請を受けて設置されました。平成 30 年度は、旧システムの内容を引き続きクラウドに移行する作業を行います。これにより、外部向けウェブサイトの質を高め、サーチエンジンの検索効率を上げ、現行システムを維持し、新システムを立ち上げ、グループサイト権限者により良いトレーニングを提供することができます。 ・平成 29 年度は前年度同様、新聞・雑誌・ウェブ・テレビ媒体を対象とした積極的なメディア戦略を実施したことで多くの特筆すべき報道があった。平成 30 年度も引き続き効果的なメディア戦略を展開し、内外の主要メディアを含めて多くの報道を呼び込むことに努めます。その一環として、本学の研究内容や研究成果を、地元・国内・海外メディアに対して国内の記者クラブ及び Alpha Galileo や Eureka! Alert 等のニュース配信プラットフォームを介して引き続き発信します。 ・年々規模が拡大しているソーシャル・メディアを OIST	・複数教員による共同出版数 ・研究成果についての記者会見及び記者懇談数 ・研究に関する受賞数 ・研究助成金の獲得数と金額 ・OIST 研究施設の外部利用者数、他	1214 -本学の研究成果に関する国内外への情報発信の一環として、日英両言語で 46 本のウェブ記事を本学ウェブサイトに掲載、29 件のプレス・リリースを発表、そして 3 つの記者会見および 4 回の記者懇談会を東京と沖縄において開催しました。また、在京の科学論説委員及び科学記者を対象とした都内でのサイエンス・カフェ形式の記者懇談会は、テーマ及び開催時期について戦略的に企画・実施することで、本学研究者と科学記者の関係構築に寄与するばかりでなく、報道にもつながり、その一つが本学研究者と民間企業による産学連携につながりました。このように、メディア戦略に基づく報道機関への積極的な情報発信及び記者らによる本学訪問などを通じて前年度に続いて本学の報道が増しました。 - 的確な判断を要する報道対応案件があり、広報担当副学長の指揮の下、学長、首席副学長、プロボスト、人事担当副学長、そして統括弁護士と連携しながら対応にあたったことで、本学に与え得る悪影響を最小限に抑えました。 - 昨年度、主要な Web サイトは、柔軟かつカスタマイズできる新しいクラウド・ホスティング・サービスで管理されていました。 デジタルサービス・セクション（DSS）所属のディベロッパーは、ディレクトリとイントラネット・ポータル TIDA を再構築するために、新しい革新的なテクノロジーを使用しましたが、メンテナンスと継続的な開発にはかなりの時間が必要でした。また、今年度半ばに、DSS 所属のディベロッパー 2 名が退	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	による教育研究活動などの情報発信の場として活用します。	職し、セクション・メンバーは1人だけになりました。同時期に、主要な IT 技術管理スタッフが本学を退職しました。DSS の Web サイト・ホスティングの管理に費やすスタッフの時間を増やすために、IT は Web サイトのホスティング責任をすべて DSS に移管しました。限られたスタッフにもかかわらず大学へのサービスを改善するために、DSS はカスタマイズすることよりも今まで通りのやり方で進めることを優先し、より良いメンテナンスとアップデート・サポートとより確立されたワーク・フローを提供し、より良い開発を行うために必要な成熟したホスティング・プラットフォームに4つの Web サイトを移行して再構築しました。ツール・メンテナンスとトレーニングを合理化してさらに効率を高めるために、TIDA と Directory は他の OIST Web サイトで使用されていたものと同じ CMS で再構築されました。目標は、ディベロッパーがインフラとメンテナンスに費やす時間を短縮し、大学の研究成果が広く認知されるための開発作業に費やすことができるように、より少数のツールとフレームワークへのサポートと集中を促進することです。信頼性の高い Web サイトのホスティングとサポートにより、本学は急激なトラフィックの増加に耐えることができます。1月26日、プロボストのゴールデンタイムのテレビ出演により、Web サイトのトラフィックは前日に比べ924%増加しました。3月29日、OIST サイエンス Web 記事に対するソーシャル・メディアの反応により、Web サイトのトラフィックが前日と比較して281%増加しました。Web サイトの訪問者がこのように急激に増加すると、Web サイトやネットワーク全体	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	1215 OIST の学術的地位をより強固なものとするために、国内外の研究者などとの遠隔会議を円滑に遂行し、職員、教員及び学生に対して充実した技術支援を提供します。	がクラッシュする可能性があります、中断やサーバーの応答時間の低下はありませんでした。安定した Web サイトのホスティングとメンテナンスにより、本学 Web サイトは安全に運営されています。 - 本学の研究内容や研究成果を、Alpha Galileo や EurekaAlert! といったニュース配信サイトに掲載する一方、国内の記者クラブを通じて配信するとともに、記者たちに対して個別にネタを提供することで、国内外のメディア（新聞・テレビ・ラジオ・ウェブ）による数多くの報道につながりました。特筆すべきは新竹積教授による波力発電プロジェクトが主要メディアの一つであるブルームバーグに取り上げられたことや、プロボストが日本テレビの看板人気番組「世界で一番受けたい授業」に出演したことで、本学ソーシャル・メディアのフォロワー数が軒並み増えるなど大きな反響がありました。 - メディア向けのタイムリーな情報発信や、メディア・セクションの職員による Asahi Globe+ 及び日刊工業新聞へのコラム寄稿、科学技術広報研究会（JACST）などの活動に関連して講演者として招聘されるなど、国内外のジャーナリストや機関科学広報担当者とのより一層の関係強化に成功し、前年度に続いて本学の知名度向上につながりました。 1215 300 を越える AV を活用したミーティング、会議およびセミナーに対して技術サポートを提供し、さらに電子メールやオンコールでのサポートも随時行いました。キャンパス内の 40 を超えるミーティング・ルー	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
			ムにおいて Zoom によるテレビ会議機能を既存の Cisco 製品と円滑に統合運用する改修作業を行いました。この Zoom テレビ会議システムの統合により、BOG/BOC 会議のサポートはこれまで以上に円滑に遂行することができました。第 4 研究棟で Zoom ハードウェアを本格導入するための事前テストとしてキャンパス内 3 ヶ所で Zoom 会議室を設定し試験運用を開始しました。その他、B503 会議室を同時通訳ブース対応の VIP 専用ビデオ会議室として改修し、老朽化した C209、C210 および講堂のプロジェクターを省電力で機器寿命の長いレーザータイプの機種に交換しました。構内 40 ヶ所のデジタルサイネージ・システムを Windows ベースの機器に交換し、学内の情報交換がより円滑に行えるようにしました。この他、研究ユニットが液晶モニターやプロジェクター、ビデオ会議システムを導入する際の技術的な助言も提供しました。 添付資料 1.2-1 平成 30 年度 OIST 論文・発表数	
1.3 教員関係 目標	本学では、卓越した研究成果を蓄積した上級教員と、優れた学識と独創性のある研究を行う若手教員の両方をバランスを取りながら、海外及び国内の科学者の採用を継続してきます。これにより、学際的研究におけるリーダーシップを強化するとともに、世界における本学の存在をアピールしていきます。			A
1.3 教員関係	(教員の採用) 1301 OIST 教員によって最近作成された計画に沿っ		(教員の採用) 1301 今年度、教員 10 名採用を目標に掲げ、現段階	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
取組	て、2023 年までに 100 の研究ユニットを目指す「枠組み文書 II」の年間採用予定に記された新教員の採用を継続していきます。特に 2018 年（平成 30 年度）の教員採用活動では、研究ユニットを 70 まで増やすため、化学、細胞生物学、コンピューター・サイエンス、海洋科学の分野で卓越した教員の採用を目指します。 また、著名な国際会議を OIST に誘致し、参加者の OIST 認知度を向上させることで、教員獲得の一助となることを目指します。平成 29 年 10 月に開催された「OIST における研究展望委員会」では、本学拡充の方針を継続するとともに、成長が著しい科学技術分野では候補者のターゲットを絞って採用活動を行うことが推奨されました。本年度はこの推奨に基づいて学内で協議を重ね、教員採用に関する戦略を策定していきます。		でこの目標は達成可能であると言えます。目標で掲げた 4 分野のうち 2 分野でオファー受諾が決定し、残り 4 分野でもオファー受諾が期待されます（平成 30 年度の教員採用数が確定するのは 2019 年 5 月の理事会後）。引き続き、ワークショップやカンファレンスを開催し、教員ポジションへの応募につなげる努力をしています。2019 年 6 月末までに（2019 年 5 月の理事会後）、研究ユニット数は 75 に達すると予測します。 引き続き、年間 10 名の教員を採用していきます。今年度の採用結果により、来年度の採用数を調整しますが（今年度は目標数以上の採用が予想されるため）、来年度は研究ユニット数が 85 まで増えるると予測します。今年度の応募者数は 1544 名で、Interfolio というシステムを導入してこの膨大な量の選考書類を処理しました。候補者 40 名と面接を行い、そのうち 6 名がオファーを受けました。オファーを受ける候補者の数も今後増えるると予想されます。 面接した候補者のうち女性の割合が 10%と低いことは認識していますし、オファーを出しても一部の女性候補者が却下する可能性もあります。一方で、教員担当学監オフィスでは、採用広告を打つ際、女性の応募意欲を下げするような言葉を排除しました。また各教員選考委員会に、ダイバーシティ・オフィサー（教員）を設置し、女性の雇用促進を強化しました。このように様々な対策を行いましたが、最終的には各教員採用委員会の決定に委ねられます。	
1.3 教員関係	（教員・研究評価の実施） 1302 新しいテニュア審査の方法を導入し、テニュ	・研究評価を実施した研究ユニット数	（研究評価の実施） 1302 テニュア審査による PRP（学内規程）の改定が	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
取組	ア・トラックのスケジュールに柔軟性を持たせ、Assistant Professor が助言やアドバイスを受けられる体制を作ります。平成 29 年度に、テニュア審査ポリシーの改正について統括弁護士オフィスとアドミニストレイティブ・コンプライアンスディビジョンとの調整・合意が完了し、平成 30 年度から新しいテニュア審査ポリシーを実施します。 1303 引き続き、研究ユニットの評価については、世界の著名な科学者等からなる外部の評価委員会が、世界的に最も高いレベルの基準に基づいて評価を行います。委員会は、研究の成果、独自性、今後の可能性やその他の要素について、公平性と透明性の確保を重視した基準により、厳格な評価を実施し、研究ユニットの継続の判断等に活用します。平成 30 年度に評価を予定している研究ユニットは、最大 4 ユニットです。 1304 既存の TREC（テニュア審査評価委員会、OIST 教員および学外メンバー1 名で構成）に加え、新テニュア審査システムを実施します（TREC は学外メンバーで構成）。学外メンバーは、世界の著名な科学者等であり、世界的に最も高いレベルの基準に基づいて評価を行います。現在教員 3 名のテニュア審査が進行中で、2018 年度中にあと 3 名のテニュア審査が完了する予定です。	完了しました。 1303 今年度は 5 ユニットの研究ユニット評価が実施されました。そのうち 3 ユニットは、一つ以上の評価項目において、「卓越している」という評価を受けました。これら 3 ユニットは運営費、人件費、研究機器は基本的に要求通りに認められました。残り 2 ユニットのうち 1 ユニットは、ほぼ全評価項目で「優れている」という評価を受け、研究費もほぼ要求通りに認められました。残り 1 ユニットの研究費については、これから検討が行われます。 1304 PRP で規定された新システムでテニュア審査を希望する初めてのリクエストが教員からありました。ただし新システムでのテニュア審査は、次年度以降に開始されます。 既存のシステムについては、今年度は教員 3 名がテニュア審査を受け、テニュアを付与されました。また教員 2 名のテニュア審査も開始されましたが、結果が出るのは来年度になります。 昇進審査については、今年度は教員 1 名がプロフェッサーに昇進しました。その他 3 名の昇進審査が継続中で、	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	1305 引き続き、評価結果については、研究事業に投じられた公費について国民に対する説明責任を果たす観点から、その概要をできるだけ速やかに公表します。		まもなく審査結果が出る予定です。 1305 教員の年間業績評価を実施することで、年次報告書の完成率が向上しました。 添付資料 1.2-2 平成 30 年度研究に関する受賞実績 添付資料 1.2-3 平成 30 年度アウトリーチ活動実績	
1.3 教員関係 取組	(研究成果レポート) 1306 引き続き、研究成果については、研究事業に投じられた公費について国民に対する説明責任を果たす観点から、その概要をできるだけ速やかに公表します。OIST の研究成果のオープン・アクセス化（インターネット上で研究成果である学術文献に誰もが無料でアクセスできる）を、平成 30 年度に運用します。平成 30 年度は、学術レポジトリに掲載される文献数を増やすため、作業効率の改善に努めます。		(研究成果レポート) 1306 研究成果レポートは、年次報告書中の論文リストとして公開しています。さらに教員の年間業績評価の実施を通じて、本学の学術レポジトリでの登録論文数も増加しました。	
1.3 教員関係 取組	(シニアレベルの教員の任用と定年) 1307 大学が拡充という新段階に入るにあたり、革新的かつ研究成果の高い教員を確保することを目的として、シニアレベルの教員の採用と、定年後の教員の契約期間の延長について、新しい方針が策定されました。平成 30 年度よりこの方針のもと、70 歳以上の教員の状況を見直すとともに、名誉教授の称号を付与します。この方針が初めて適用される教員は、定年の 2 年前から研究ユニット縮小することに合意しました。今後数年間、70 歳以上の各教員の状況の見直しを行います。70 歳以上		(シニアレベルの教員の任用と定年) 1307 上記項目（1303）で述べたユニット研究評価の一つは、70 歳を超えた教員の研究評価であり、当該教員の研究は「卓越している」という評価を得ました。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
	の教員のほとんどに「名誉教授」のタイトルが与えられる予定です。			
1.3 教員関係 取組	(教員開発) 1308 平成 30 年度は、FD（教員能力向上）計画の一環として、新規着任のアシスタント・プロフェッサーの研究ユニットの立上げと運営を支援する「メンターシステム」を強化します。またテニユア・トラック教員により効率的な支援が行えるよう、「Appointment & Promotion Committee」を設置します。教員担当学監オフィスでFD強化を指揮するポジションの公募が行われています。		(教員開発) 1308 本学のアシスタント・プロフェッサー全員に、メンターを少なくとも1名特定し、その名前を報告するように求めています。教員の年間業績評価では、教員担当学監が、特にテニユア審査や昇進審査に関するメンタリングを教員に対して行っています。また今年度より始動している APC（任用と昇進に関する検討委員会）は、教員採用と教員評価の両方で、その役割を果たしました。教員担当学監オフィスで FD（教員開発）強化を指揮するポジションはまだ採用が決まっていません。	
1.3 教員関係 取組	(ポスドクキャリア開発) 1309 平成 28 年度に初めて採用されたポスドク・キャリア・アドバイザーは、様々な研修プログラムを企画・運営しました。現在及び将来のキャリア開発の重要性を更に認識してもらうために、引き続き、ポスドクのためのキャリア支援プログラムを提供していきます。		(ポスドクキャリア開発) 1309 教員担当学監オフィスは研究科と連携しながら、ポスドクキャリア支援プログラムの活動範囲を拡大し、学生のキャリア支援にもつなげる取り組みを行いました。研究科でもキャリア支援担当者を雇用する予定です。教員担当学監オフィスと研究科との更なる連携で、大学全体に良い効果をもたらすことが期待されます。	
1.4 世界的連携 目標	他大学や研究機関との連携協定の締結やワークショップの開催等を通じて、世界の科学コミュニティとの緊密なネットワークの構築に向けた取組を継続します。先端的な基礎研究及び最優秀の科学者を育成することで社会向上を目指す研究大学院大学として国際的な知名度の向上を目指します。			A
1.4 世界的連携 取組	1401 ビジティング・リサーチ・スチューデントの分類を構築し、学生が関与する他大学との共同研究を促進します。学生の相互交流について、交流協定を構築しま	・大学や研究機関等との連携協定の数	1401 研究支援ディビジョンの各セクションによる研究支援の質を向上させるため、引き続き、国内外の他大学や研究との連携を広げました。県内、国内向けの取	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己評価
す。また、各セクションによる研究支援の質を向上させるために、引き続き、国内外の他大学や研究との連携を広げます。引き続き、琉球大学と東京大学との更なる連携について検討を進めます。 1402 優れた学生や若手研究者等が、最先端の科学を学ぶとともに、相互に交流する機会を拡大するため、引き続き、国際性に富んだ世界的にもトップレベルの国際コース又は国際ワークショップを開催します。また、世界規模の国際ワークショップを本学に招致し、本学の研究者や学生が他の研究者とネットワークを構築する機会を拡大します。教員の要望に応じたワークショップや会議の柔軟な実施につとめ、参加者及び講師に対する旅	・国際ワークショップ及びコースの数 ・国際ワークショップ及びコースの参加者数 ・国内外の大学より受け入れた学生数	り組みとしては、日本国内の研究者による本学共通施設の利用を促進する OIST Jumps 共同研究プログラムの公募、AMED（国立医療研究開発機構）の BINDS（創薬等先端技術支援プラットフォーム）への参画、琉球大学の医学部とのシンポジウムの共同開催、大阪大学でのシンポジウムなどを行いました。また、東京大学とは科学、学術協力に関する基本協定書を 5 年間にわたって更新しました。国際的な取り組みとしては、国内外との共同研究を促進する OIST KICKS プログラムの開始、ワイツマン研究所、IST オーストリア、フランス・クリック研究所との BRIDGE ネットワークへの参画の決定、台湾のドラゴンゲート・プログラムメンバーへの認定、EAJS 東アジア・ジョイント・シンポジウムへの創設メンバーとしての参加、IBS コリアとの共同シンポジウムなどを行いました。 平成 30 年度、海外の大学から 36 名のヴィジティング・リサーチ・ステューデント（内日本人 9 名）を受け入れました。 1402 OIST ワークショップ 8 件、ミニシンポジウム 3 件と「Strings2018」などの著名な国際会議を含む共同開催ワークショップ 5 件を開催した。OIST ワークショップおよびミニシンポジウムはカンファレンス・ワークショップ・コミッティによる世界基準の厳格な審査と推薦に基づき企画され運営しています。これらのワークショップに 1,183 名の研究者が参加し、うち海外からの参加者は 688 名でした。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	費支援の低減、他の機関からの資金援助や、宿泊の手続を更に効率化し、各ワークショップに係る経費を減らすよう努めます。 1403 引き続き、物理学、細胞生物学、神経科学等の分野において、国内外のトップレベルの学部学生等を対象とした滞在型の研究室体験コースを開催します。 1404 短期・長期の学生受入制度を継続し、引き続き、国内外の他大学から学生を受け入れ、研究ユニットにおいて実践的なトレーニングを提供します。		昨年度に試験的に導入した「トラベル・バーサリー」を本年度は他のワークショップにも拡大し、旅費とサポート事務作業量の低減に効果がありました。 1403 研究科オフィスが提供するリサーチ・インターン制度と研究ユニット予算で招聘するインターンの取り決めとの組み合わせにより、合計 120 名のリサーチ・インターン（内日本人 27 名、内琉大から 6 名）を受け入れました。 1404 海外の大学から 15 名の特別研究生を受け入れました。 添付資料 1.4-1 学術交流協定一覧 添付資料 1.4-2 平成 30 年度 OIST 主催によるワークショップ・ミニシンポジウム	
第 2 章 ガバナンス及び業務運営の透明性・効率性に関する事項				
2.1 ガバナンス及び業務運営体制 目標 (1)	学園では、国内法人の伝統的な在り方とは異なり、学園法及び学園の寄附行為に基づき、学外理事を中心として理事会を構成しています。このような理事会は、学園及び大学院大学の業務運営に関し、最終的な責任を負います。また、評議員会は、地域社会の声を含め、幅広い意見を学園及び大学院大学の業務運営に反映させます。これらの二つの合議体が、法令及び学園の寄附行為に基づき、学園における透明で効果的なガバナンスを確保するために重要な役割を担います。これに対し、理事長・学			A

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	長は、事業計画の実施についてリーダーシップを発揮し、理事会及び評議員会に対し説明責任を果たします。このように、理事会及び評議員会と理事長・学長との間の関係を適切に保つことによって、特色あるガバナンスを実現します。また、学園の監事は業務運営の適切性・効率性が確保されるよう厳格な監査を行います。			
2.1 ガバナンス及び業務運営体制 取組 (1)	(基本的な運営) 2101 平成 30 年は法人が設立されて以来 7 年目にあたります。定例の理事会を 5 月、9 月、2 月に、定例の評議員会を 5 月、2 月に開催します。5 月の理事会においては、平成 29 年度の業務の実績を報告し、評価を行います。評価の結果は公開情報として内閣府へ報告されます。 2102 理事会及び評議員会は理事会運営委員会や分科会に重要な議題を事前に議論する機会をつくり、5 月と 9 月の会議日数を 2 日ないし 3 日増やすことにします。理事会運営委員会は事前会議の間に教員評議会と一緒に会議を持つようにします。 2103 理事長・学長は、引き続き、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画を着実に実施します。 2104 監事は、引き続き、事前に作成する監査計画に		(基本的な運営) 2101 事前会議を含めた定例の理事会会合が 5 月、10 月に本学にて 2 月は Web 会議にて開催されました。5 月 10 月は 2 日間の会議に加え、事前会議を開催しました。評議員会については、5 月に 2 日間の会合を開き、2 月は Web 会議を実施しました。5 月の理事会会合前および会合中に平成 29 年度の業務の実績を報告し、評価を行いました。評価の結果は理事会による承認を経て、公開情報として内閣府に提出されました。 2102 理事会分科会は新たな構成を導入し、5 月及び 10 月会議の事前に、より内容を特化したディスカッションの機会を持つことができるようにしました。運営委員会は、引き続き、事前会議の間に学生、教員評議会、内閣府と一緒に会議を開催しました。 2103 理事長・学長は、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画は事業運営に向けた重要な指針として用いられました。 2104 本学の業務運営の状況について、平成 30 年 11	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	基づき、内部監査や会計監査とも連携しつつ、予算執行、調達・入札、法令順守の状況を始め、業務全般について厳格な定期監査を実施するとともに、必要に応じて、臨時の監査を行います。監事は、引き続き、適切な形で中立性を維持しつつ、担当副学長を通じて、他の役員や幹部職員との効果的なコミュニケーションを図ります。監事には、その活動に必要な十分な情報及び人的サポートが提供されます。監査計画及び監査結果については、理事会での報告等を通じて、業務運営への反映を促します。		月～平成 31 年 4 月にかけて定期監査を実施しました。この中で、個人情報保護に関する監査を実施しました。平成 30 年度を通じての監事の監査報告は、平成 31 年 5 月に開催される BOG 及び BOC に提出を予定しています。 また、監事は、定期監査の活動以外に、最高コンプライアンス責任者との定例ミーティングを通じて、また、必要に応じて学長、首席副学長、COO、プロボスト及び各副学長等から業務運営の状況を聴取し、本学の運営状況についての把握に努めました。	
2.1 ガバナンス及び業務運営体制 取組 (1)	(大学院大学の拡充に向けて) 2105 平成 27 年 7 月に本学の進捗及び拡充計画の評価を実施した外部評価委員会は、卓越性を測る全ての主要な基準において傑出した成果が見られるとし、こうした基準に照らすと、大学院大学は、平成 26-27 年の世界大学ランキングで最も高い評価を受けているトップ 25 大学と肩を並べていると評価しました。外部評価委員会からの中核的な提言として、「枠組み文書Ⅱ」で提案された、今から 10 年後の 2020 年代半ばまでに種々の研究分野のバランスがとれた 100 の傑出した研究ユニット及び数百名の学生規模の大学院を目指すという拡張計画への支持が表明されました。今後 10 年間の大学院大学の更なる発展を審議・計画していきます。「OIST における研究展望委員会」の提案により強化された教員開発ワーキング・グループのガイダンスに従って、新たな教員の採用も続けていきます。引き続き、第 4 研究棟の建設を進めます。また、第 5 研究棟の設計を開始すると		(大学院大学の拡充に向けて) 2105 本学の拡充計画が引き続き推進されました。大学の将来的な方向性を導くことを目的とする Strategic Framework の準備が開始され、8 月以降、学内でのオープンなディスカッションやヒアリングが行われ、継続しています。タスクフォースやワーキング・グループが複数設立され、100 名以上の本学メンバーが作成に関わっています。 また、内外のコンサルタントがトピック別のグループや個別のディスカッションを開催し、公開セッションにおいては進捗報告や質疑応答を受け付けました。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
	もに建設計画を策定します。インキュベーター施設については、30 年度に整備する施設の運用状況を踏まえ今後の整備等を検討します。宿舎については、キャンパス内の整備について準備を進めることとし、キャンパス外の整備について検討を行います。			
2.1 ガバナンス及び業務運営体制 目標 (2)	引き続き、世界水準の国際的な大学院大学の効果的な運営に相応しい事務組織の構築に努めます。また、予算執行及び業務運営について国への説明責任を果たすために、内閣府と密接なコミュニケーションを図ります。			A
2.1 ガバナンス及び業務運営体制 取組 (2)	2106 引き続き、理事長・学長、副理事長、他のエグゼクティブによる会合を定期的実施し、情報共有を促進するとともに業務運営の状況を確認します。また、大学の幹部と教授会による会議を引き続き隔月毎に開催し、上層幹部と教授間の情報の流れを改善していきます。サラリー・レビュー委員会も必要に応じ開催していきます。エグゼクティブ間の調整が円滑に行われるように学長、首席副学長、COO、プロボストの 4 者で週 1 回の定例会議を行います。 2107 新たに配置される COO の下、内閣府と密接なコミュニケーションを確保していきます。内閣府との定例協議会等を通じて連絡調整を行い、事業計画の実施状況等について報告を行います。また、平成 31 年度事業構想及びこれに続く概算要求に係る打合せを前広かつ綿密に行います。		2106 引き続き、上層幹部と教授会議長との間で議題に沿った会合が定期的実施され、内容を記した議事録が作成されました。学長と上層幹部メンバー(首席副学長、プロボース及び COO)との個別会議も定期的実施された他、各幹部と学長との個別会議も適宜開催されました。サラリー・レビュー委員会（含・上層幹部メンバーの一部）は、公平な給与のあり方及びそれに関連する方針を確立・維持することを目的として必要に応じ開催しました。 2107 4 月、7 月、11 月及び 1 月の定例協議会及び必要に応じた個別会議を通じて、内閣府との密接なコミュニケーションを維持しつつ、平成 30 年度事業計画の実施状況、平成 31 年事業構想、平成 31 年度概算要求及び平成 31 年度事業計画策定等について適時適切に情報共有しました。	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
2108 文部科学省認定の日本高等教育評価機構による大学認証評価に関し、6 月中に自己評価報告書を同機構に提出し、10 月の実地調査を受審後、最終評価結果を年度内に公表します。 2109 本学の使命に則する高品質の IT サービスを提供します。 2110 ユーザーが IT リソース及びサービスを活用できるよう、情報管理と教育プログラムが明瞭かつ簡潔であることを、引き続き確実にいたします。IT Web サイトやリクエスト管理システムを全面的に見直し、使いやすくします。 2111 本学の運営を支える基盤を、特定・評価・設計・展開、保守し、本学の発展に確実に対応できるようにします。研究と教育を向上させるため、自動化と効率化を可能な限り支援します。また、隔絶した研究用ネットワークの成長に応えるよう、より柔軟で安全・安心なネッ		2108 日本高等教育評価機構より、3 月に全評価基準において「適合」結果の通知を受け、年度内に公表を完了しました。 2109 最善な IT サービスを提供するよう努めました。今年度、新サービス・ポータルを導入しました。このサービス・ポータルは検索機能が優れており、ユーザーによるセルフ・サービスをサポートし、自動化されたワーク・フローを可能にします。このポータルを導入したことにより、ユーザーからリクエストに対応する時間が短縮され、以前は手作業で行っていた作業時間も削減できました。また、ネットワーク・コネクティビティ・セクションは、地理的に独立したインターネットへのバックアップ回線を確立することで、事業の継続性を強化しました。 2110 新 IT サービス・ポータルへの移行により、リクエスト管理プラットフォーム及び多くの IT サービスに関わるドキュメントを全面的に改訂しました。新サービス・ポータルでは、よりシンプルで読みやすいフォーマットとなりました。 2111 第 4 研究棟の追加、研究プログラムの増加するデータ量の処理、および独立した研究者のためにネットワークをより柔軟に管理することが必要となったため、本学のネットワーク環境の性能を大幅に向上させました。ファイアウォール、コアスイッチ、およびキャンパ	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
トワーク環境を構築します。 2112 IT 戦略計画の策定を通じて、IT とビジネスの整合性を確保します。 ビジネスの計画とベストプラクティスの整合を、外部機関による IT レビューを通じて確実にします。 2113 大学の研究活動及び運営管理業務を支えるシステム及びサービスの仕様の、開発または開発支援をしていきます。OIST に在学中の学生体験の質を向上させ、在籍率の維持と成功を高めるシステムを開発します。また、施設管理部門の作業軽減のため、宿泊施設及び駐車場管理システムを開発します。		ス・ネットワークの全てを対象に、交換または大幅な改善を施しました。これらの改善の一環として、新しい VPN サービスが導入され、キャンパスへのよりシンプルで高速なリモート・アクセスが可能になりました。ビデオ会議プラットフォームも交換し、以前のソリューションよりもはるかに優れた信頼性の高い通信サービスを提供できるようになりました。ID 管理ソリューションも根本的に改良し、より完全で信頼性の高い情報を提供し、下流システムへの情報の連携が自動化されました。 2112 IT 戦略計画は、IT サービス・サポート・コミッティーによって承認されました。そして、大学全体の戦略的は計画に従い実施中であり、完成した時点で改訂される予定です。都合により外部審査は次年度まで延期されました。 2113 エンタープライズ・アプリケーション・セクションは、HEART（財務および人事）システムの改善および変更を引き続き行っています。これらの変更によりユーザーのエクスペリエンスが向上し、また法律や規則の変更に合わせて行われました。学生がリクルート活動をするためのシステムを次年度に導入する予定であり、いくつかの製品を評価するため、グラデュエート・スクールに対する支援を行いました。また、施設ディビジョンの駐車許可証管理、デスク管理、および戦略計画を支援するアプリケーションの開発もサポートしました。	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
2114 ローカル及びグローバルで行われている IT 関連の新しい取組の中核に本学を位置付け、研究及び運営管理の促進・支援を強化することで、沖縄の発展に一層貢献していきます。 2115 運用コストの削減及び安全性の増進を図る一方で、事務業務の簡易化を行い、事務業務環境を標準化します。 2116 情報セキュリティ教育、複数要素認証、及びデバイスベースのアクセス制御を通じ、情報セキュリティを継続的に強化します。既存の監視機能をさらに強化し、OIST ネットワークまたはシステムの完全性を低下させる可能性のある悪意のあるソフトウェアやアクティビティの検出を可能にします。 2117 本学の各部門において発生する法的事項について法的助言を行うとともに、各部署が扱う契約について、ドラフト、交渉から締結に至るまで全面的に支援し、学園における適切な運営を確保します。		2114 CIO は Caltech とのベンチマーク活動に参加しました。CISM は、OIST のサイバー・セキュリティへの取り組みについて国内の複数のセミナーで発表しました。奈良先端科学技術大学院大学との情報セキュリティについての情報交換を中心とした情報共有ワークショップで、NAIST、JAIST、金沢、富山、東京工業大学の各大学との交流を続けています。 2115 IT 管理対象デバイスの自動化とセキュリティは、モバイル・デバイス管理の機能性の向上、セキュリティ及びオペレーティング・システムの更新に対する制御の強化により、2 改善されました。 2116 CISM が本学の個人情報保護のオンライン・トレーニング・プログラムを開発し、COO によって承認されました。このプログラムは、本学のすべてのメンバーに対して必須であり、日本の個人情報保護法の基本についての教育を受けることとなります。サイバー・セキュリティ監視サービスが大幅に改善されました。これらの強化されたサービスはすでにリアルタイムで問題を指摘しており、情報セキュリティー・インシデントを防止、軽減しています。 2117 今年度は、比較的簡易な試料移転契約についての包括契約の締結により一部効率化を図ったため、検討した試料移転契約は 66 件（前年比 35% 減）となりましたが、250 件以上のより複雑で交渉を要する共同研究契約、ライセンス契約、委託研究契約、秘密保持契約、大	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	2118 法廷内外の請求から本学を防御し、財政的損失及び社会的評判の失墜を防止します。 2119 学内外における問題行動を防止するため、すべての教職員及び学生に、毎年、日本の法令等（特に薬物		学間協定等をドラフト、交渉、締結しました（前年比 13%増）。また、人事労務関係、教員関係事項、コンプライアンス関係等、法律相談が合計 190 件以上寄せられました（前年比 20%増）。統括弁護士オフィスとして、これらに適時適切に対応することにより、本学全般における適切な運営が保たれました。 -2018 年度の途中で、2 名いたリーガルカウンスルのうち 1 名が中途退職し、代替人員が確保できない状態が続いていますが、統括弁護士 1 名、リーガルカウンスル 1 名及びパラリーガル兼エグゼクティブアシスタント 1 名の体制で、紛争解決及び第三者との契約作成・交渉等その増大する責務を適時適切且つ効率的に遂行できるよう、日々努力しています。 2118 -テニユア審査に関する訴訟のうち 1 件について、昨年度の地方裁判所判決に続き、本学の主張を全面的に支持する高等裁判所の判決を勝ち取り、判決が確定し、約 2 年半の訴訟が終了しました。 -テニユア審査に関する訴訟のうち係属中の 1 件に関連して、本学に対してテニユア審査に関連する個人情報の開示請求がなされ、現在、本学の不開示決定に対する審査請求が総務省の情報開示・個人情報保護審査会において審議中です。当該審査会に対し、本学の不開示決定の理由を説明する意見書を提出し、裁定を待っています。 2119 -引き続き、新規従業員については加入時、既存従業員	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	規制、飲酒運転、銃刀携帯、刑事手続/国外強制退去、OIST における懲戒等) の研修プログラムの受講を徹底します。		については毎年、日本の法令等（特に薬物規制、飲酒運転、銃刀携帯、刑事手続/国外強制退去、本学における懲戒等）に関する研修プログラムの受講を義務化し、遵法意識を高める努力をしました。 -飲酒機会の多い12月初めに、飲酒運転に関する注意喚起を学内のウェブサイトに掲示し、教職員・学生による事件・事故を未然に防止しました。	
2.2 予算配分と執行 目標	国からの補助金を始めとする予算の執行について、国やその他の資金提供者、更には国民に対する説明責任を果たすため、実績を点検し、適正かつ効果的な予算の配分及び執行を行います。特に、国の財政の厳しい状況を踏まえつつ、研究教育の維持及び発展に資するよう効率的な予算の執行を図ります。			A
2.2 予算配分と執行 取組	2201 学園のリソース（人件費、運営費、機器購入費、スペース等）の配分・再配分について、優先順位付けの提案を行うリソース・アロケーション委員会を開催し、配分案を策定します。エグゼクティブ・コミッティは、学園のリソースを適切に配分するため、配分案の審議を行い、最終的に理事長・学長が決定します。 2202 引き続き、予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分します。 2203 引き続き、各部署に配置された予算を分析する担当者との連携により、予算配分・執行状況報告のプロ		2201 学園のリソース（人件費、運営費、機器購入費、スペース等）の配分・再配分について、優先順位付けの提案を行うリソース・アロケーション委員会を開催し、配分案を策定しました。エグゼクティブ・コミッティは、学園のリソースを適切に配分するため、配分案の審議を行い、最終的に理事長・学長が決定しました。 2202 引き続き、予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分しました。 2203 引き続き、各部署に配置された予算を分析する担当者との連携により、予算配分・執行状況報告のプロ	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
セスを強化します。また、施設整備費補助金を含む学園全体の予算の適切かつ一体的な管理を確保するため、毎月、予算の執行状況について確認するための内部会議において理事長・学長に報告を行います。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告します。 2204 平成 29 年度に策定した新規スタートアップ・ユニット及びベース運営費予算配分に関する規程に基づく研究予算配分の運用を進めます。また、研究ユニットの外部評価においても、平成 29 年度に改善した評価シートを導入します。 2205 9 月に配分の中間見直しが、そして第 4 四半期の初めにあたる 1 月にも別途見直しを実施されます。これらは、全ての研究関連予算の配分について必要な修正及び調整を行う節目となります。このような費用の綿密な見直しにより支出を最適に調整します。また、配分の見直しを実施することで、調達した固定資産の配達・受取りが年度内になされるよう手配されているかを確認する機会にもなります。科研費等の競争的資金等の適切な管理については、公的研究費不正使用防止計画の公表など、継続的に適切な管理を研究者に徹底します。 2206 一定額を超える個々の支出について、コンプライアンス担当が審査すること等を含め、引き続き、法令や内部規則等を順守して予算執行の手続きを行います。		セスを強化しました。また、施設整備費補助金を含む学園全体の予算の適切かつ一体的な管理を確保するため、毎月、予算の執行状況について確認するための内部会議において理事長・学長に報告を行いました。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告しました。 2204 平成 29 年度に策定した新規スタートアップ・ユニット及びベース運営費予算配分に関する規程に基づき、研究予算配分の運用改善を進めました。また、研究ユニットの外部評価においても、平成 29 年度に改善した評価シートを評価の中で導入しました。 2205 期中（8, 9 月）と期末（11, 12 月）に全体的な予算配分の見直しを行い支出の最適化を図るとともに、固定資産の納品・検収を考慮に入れた、適切な予算配分を行いました。 科研費等の競争的資金等の適切な管理については、ウェブ上での公的研究費不正使用防止計画の公表や説明会の開催などを通じ、継続的に適切な管理を研究者に徹底しました。 2206 一定額を超える随意契約について、その内容がほぼ類型化してきたので、500 万円未満の購入案件はコンプライアンス・セクション・リーダーが、500 万円を超える案件はさらにチーフ・オペレーティング・オフィサー及び同室准副学長がその適切性を審査しました。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	2207 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、内部監査を実施するとともに、国の機関等が行う研修への継続的な参加等を通じて、担当職員の育成に努めます。 2208 入札・契約に関して適正な実施を確保するため、外部有識者による委員会において、一般競争入札、公募・企画競争などが行われる契約についての、前提となる手続きの実施、競争性・透明性の確保について審議を行います。同時に、調達手続き改善の取組についても意見を求めます。また、大型研究設備・機器の購入に当たっては、内部規則に基づき、その都度、外部の有識者を含めた委員会を設置し、同委員会により仕様書の審査を行う等、公正かつ透明な調達の実施に万全を期します。 2209 研究支援ディビジョンのセクション・リーダーはユーザー・グループ・ミーティングを開き、研究機器を含む、共有研究リソース及び共有、占有機器に関する提案について検討を行います。		2207 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、チーフ・コンプライアンス・オフィサーの下で内部監査計画に基づき内部監査を実施しました。政府機関によって提供される研修にスタッフを定期的に派遣し、契約・調達・経理手続きをより適切に執行できるようにしました。 2208 入札・契約に関して適正な実施を確保するため、外部有識者で構成される契約監視委員会を 2 回開催し、学園が締結した契約の点検・見直しについて審議を行い、その助言に基づき、調達の手続きを改善しました。大型研究設備・機器の調達に関する仕様策定および技術審査委員会は、10 回開催しました。 2209 研究支援ディビジョンのセクション・リーダーはユーザー・グループ・ミーティングを開き、研究機器を含む、共有研究リソース及び共有、占有機器に関する提案について検討を行い、機器の共有化の促進を行いました。	
2.3 事務事業の効率化 目標 (1)	業務運営における効率化を図るための取組を継続して行います。			A

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
2.3 事務事業の効率化 取組 (1)	2301 引き続き、研究設備・機器の共用・共有化の推進（1.2 参照）や、研究資材や試薬等の単価契約や一括購入、複数年契約等の取組を継続することにより、研究事業を効率的に支援します。	・単価契約や一括購入による経費の削減	2301 研究資材や試薬等の単価契約、一括契約、複数年契約を促進しました。 単価契約件数：32 件	
	2302 新しい電子入札システムを供用開始し、入札手続きの効率化を図ります。	・学内サプライストアの利用数の増加	2302 新しい電子入札システムを供用開始し、入札手続きの効率化を図りました。	
	2303 研究機器の保守費修繕費は、保守内容の見直し等により、コストの抑制を図ります。	・競争入札や他の競争的な手法による契約の比率（件数及び金額）	2303 研究機器の保守契約について、保守内容の見直し及び価格交渉を行い、コストの抑制を図りました。保守契約において、契約先が一つに限られるものは、調達審査委員会の決定を経て随意契約を行うことにより効率化を図りました。	
	2304 研究事業を効果的・効率的に支援するため、学内サプライストアの取扱品目を拡充しサービス向上と利用拡大を図ります。		2304 研究事業を効果的・効率的に支援するため、学内の研究資材ストアの取扱品目を拡充し、サービス向上と利用拡大を図りました。 2,439 品目（平成 29 年度）から 2,657 品目へ増加 第 4 研究棟の建設が遅れており、新規の研究室の立ち上げが少なかったことから、学内研究資材ストア、文具ストアの利用者数が減少しました。 学内研究資材ストアの利用が、少なくない割合で試薬ストアへシフトしました。	
			学内研究資材ストアの利用の増加 調達金額: 64,044,359 円 （平成 29 年度比 -7.8%増加） 利用者数: 5,758 人	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	2305 本学の契約は、十分な透明性や競争性の確保を原則とし、随意契約によらざるを得ない場合には、その理由を含め公表する等、契約に関する情報公開を徹底します。随意契約手続についても、継続的にモニターを実施します。同時に、調達に関する規則等について、効率化や手続の簡素化の観点から定期的に見直しを行い、ま	(平成 29 年度利用者 5,880 人、-2.1%増加) 文具ストアの利用の増加 調達金額: 13,481,899 円 (平成 29 年度比 -5.7%増加) 利用者数: 5,526 人 (平成 29 年度利用者 6,243 人、-4.5%増加) より安価な商品の購入を促進した結果、調達金額が減少しました。 試薬ストアの利用 調達金額: 231,240,606 円 (平成 29 年度比 34.1%増加) 利用者数: 7,605 人 (平成 29 年度利用者 3,916 人、94.2%増加) 第 4 研究棟の建設が遅れており、新規の研究室の立ち上げが少なかったことから、学内研究資材ストア、文具ストアの利用者数が減少しました。 期末にユーザー満足度調査を実施した結果、総合満足度は 4.4 点(満点: 5.0、回答者数 77)となりました。 2305 入札・契約を適正かつ効率的に執行するため、外部有識者を含む委員会を設置し、学園が締結した契約の事後的な点検・見直しを行いました。今年度は第 14 回(平成 30 年 7 月 22 日)及び第 15 回(平成 31 年 2 月 19 日)の 2 回にわたり開催しました。コスト削減、入札・契約手続きの更なる合理化に向けて取り組んでい	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
た大学の規模拡大に対応すべく、調達に関する事務分掌や業務手順等の整理を継続します。 2306 これまでの内外価格差等の調査結果を踏まえ、内外価格差の是正や経費削減の促進に向け取り組みを		る事項について報告を行いました。 内部の委員による調達審査委員会を開催し、89 件の契約の点検を行いました。 調達価格が 50 百万円を超える大型研究機器の購入については、案件毎に、外部有識者を含めた仕様策定委員会および技術審査委員会を設置し、入札およびその準備手続きにおける公平性・透明性が確保されるよう努めました。 委員会の開催件数：10 件 一定額以上を支出する契約（工事 250 万円、物品 160 万円、役務 100 万円、リース 80 万円）について、当該契約に関する情報公開を適切に行いました。 随意契約の手続きへの適正な審査を担保しつつ、更なる契約手続きの簡素化に向けた取り組みを開始しました。 また、要求仕様と随意契約理由の関連をより明確にするため、説明の体系を整理できるよう準備しました。 コンプライアンスの厳格な確保、業務効率化および他規則との整合性を保つ観点から、基本方針・ルール・手続き 28 章に関連する規則等の見直しを行いました。 他の研究施設等と情報交換を行い、調達職員の知識・スキル、コンプライアンスの向上、サプライチェーンの強化を目的とする交流を実施しました（東京大学、東京工業大学、京都大学、東海大学、RA 協議会、IT 企業 M 社、鉱業 C 社、サービス業 C 社、国際物流 F 社）。 2306 及び 2307 これまでに蓄積した比較データ（累計 1,875 件）への分析を踏まえ、より良い調達条件を引	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
	開始します。 2307 調達コストの抑制を図るため、研究資材や機器等の国内外の価格比較データを取りまとめ、メーカー、代理店、取引先との価格交渉に活用するほか、学内への情報提供を行います。為替変動による価格上昇への対応を行います。 2308 消費税率の変更に向けて、HEART システムの改修を含め、必要な取組を実施します。 2309 国際化の推進に取り組む国立大学等の職員に対して事務国際化研修を実施し、当該大学等の事務国際化に貢献するとともに、同職員を通じて国立大学等の運営管理に関する知見を吸収し、本学の事務の効率化を図ります。		き出すための競争的なプロセスを試行し、成果に基づいた導入のための準備を行いました。また、試行結果の一部を含む分析状況について RA 協議会と契約監視委員会にて発表しました。RA 協議会では、ポスター賞を受賞しました。 第 4 研究棟の建設が遅れており金額の大きな契約が少なく、また新規の研究室の立ち上げが少なかったことにより、比率が減少しました。 競争入札や他の競争的な手法による契約の比率（件数及び金額） 件数：105 (13.9%) [平成 29 年度 130(21.7%)] 金額：3,366 百万円 (50.0%)[平成 29 年度 5,992 百万円 (66.4%)] 2308 消費税率の変更に向けて、HEART システムの改修を含め、必要な取組を実施しました。 2309 東北大学及び大阪大学より 1 名ずつ研修職員を受入れ、当該大学の事務国際化に貢献する一方、国立大学等の運営管理に関する知見を吸収すると共に、本学の事務の効率化を図りました。	
2.3 事務事業の効率化 目標 (2)	引き続き、学園の施設・設備を最大限有効に活用します。			A

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
2.3 事務事業の効率化 取組 (2)	2310 引き続き、既存建物内のスペースに関する調査、研究支援ディビジョンとの連携や研究ユニットへのヒアリングを通じたニーズの把握に基づき、アカデミック、事務、研究設備スペース利用の最適化を推進します。 2311 シーサイド・ハウスに関するメンテナンス及び補修計画を推進すると共に、施設のスペース利用を最適化する為の調査を継続します。		2310 調査を継続して行い、建物スペース割当については、施設部と研究支援部双方の担当者を立て、割当を検討するチームを作り問題を解決しました。また、個人デスクの場所を特定できるソフトウェアの導入計画を立てました。30 年度新規研究室に必要な施設準備、既存研究室の新規購入機器に必要な設備、および事務職員が必要な内装変更を遂行しました。31 年度に竣工される第四研究棟に必要な特殊物理研究室等の構造、空調、電気、及びその施設割当を行いました。 2311 シーサイド・ハウス・ロビー及び 1 階会議室系統の空調設備の改修、及び客室の換気設備の改修を行いました。また、年度末までの予算内で 2 階のオフィス・スペースを、本学教職員・学生が気軽に利用できるコミュニティ施設へと改修しました。シーサイド・ハウスの更なる有効利用、及び新しい住宅の増設についての検討を始めました。	
2.4 人事管理 目標	国際的に競争力のある処遇や教育訓練の機会を提供することにより、大学院大学の目的達成に不可欠な優れた人材を獲得し、維持していきます。それと同時に、国による高水準の財政支援により運営される法人として、教職員の総人件費の抑制により一層努めます。また、職員の給与水準については、「特殊法人等・独立行政法人の給与水準の見直しについて（平成 24 年 12 月 7 日閣僚懇談会）」の指摘も踏まえた取組を引き続き着実に進めるとともに、特殊法人等における役職員の給与について（平成 27 年 12 月 24 日総務省行政管理局）」に対する取組を具体化し、納税者の理解が得られる合			A

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
2.4 人事管理 取組	理的な水準とし、それらに関する説明責任を果たします。 (職員の採用) 2401 未来志向の人員計画を策定し、引き続き人事予算委員会にて決定された人員枠・要件に基づき公正で迅速な採用プロセスを維持しながら、国際的に経験豊富で有能な人材の獲得のため採用活動を積極的に展開します。また、ERP(統合業務システム)として新たに稼働した HEART システムの積極的運用と人事業務の効率化をより一層進めます。 2402 学園の規模拡充に伴い、管理部門も比例し業務の拡充が必要となることから、ジョブローテーションの活用等も含め可能な限り簡素で効率的な体制の維持に努める。また、労働契約法に基づき無期契約転換する職員に対し、個々人の能力が最大限発揮され組織の利益になるよう異動も含めた管理体制を整えます。 2403 OIST の規定に基づき、応募者及び内定候補の採用について、公平な選考が行われるよう努めます。現在のジョブカテゴリーごとの男女のジェンダーバランスを分析し、その結果から改善策を導き実施します。 2404 男女共同参画タスクフォースの提言を達成するため、既存の情報をとりまとめ、分析を行い、証拠に基づいた戦略を立案・導入します。大学経営のすべての観点において男女における平等を促進します。またベストプラクティスを検証し、行動規範を見直します。OIST ジェンダー行動規範やその他ルール、手続きを PRP 内	・職位毎の職員数(職種、国籍別、性別) ・全職員に対する事務部門の職員の比率 ・運営費に占める人件費の割合	(職員の採用) 2401 人事予算委員会にて新規採用枠の優先度等を議論、承認を経た上で最終的に各ディビジョンに新規採用枠を分配しました。 2402 採用に当たっては全求人情報をホームページに掲載しており、在籍人員も確認が可能で、積極的な応募を促しています。また、ディビジョン間、ディビジョン内におけるキャリア開発を目的とした異動も行いました。 2403 採用においては、公正な選考が行われるよう、採用部門責任者のみでなく、校内における主要な業務関係者を面談に加えており、また複数のレファレンスから過去の業績の聞き取りをしています。 2404 入手可能なデータを調査し、予備評価を実施しました。さまざまな利害関係者からの意見をもとに、ジェンダー行動規範を作成、施行しました。管理職に対し無意識の偏見や男女共同参画の研修を実施しました。本学でのインシデント報告のプロセスについて、全新入教職員に対し研修が行われました。インシデント報告プロ	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
に確実に明示します。部下を持つ全ての管理監督者に無意識の偏見と男女平等に関する研修を実施します。全ての OIST 職員向けにハラスメントや、差別に関する教育を行い、OIST ホットラインやその他のコミュニケーション手段から通報できる手法についても教育します。施設管理ディビジョンと連携し、OIST 施設内の妊婦及び親への配慮を行います。引き続き、女性職員に対しネットワーキングの機会を提供します。女子中高生の科学に対する関心を高めるため、県内大学と連携し、プロジェクトを企画します。また、過去の実績を元により意味のあるプログラムを企画します。 2405 改正障害者雇用法に基づいて、安全衛生セクション等の関係部署と連携し、障がいを持つ職員の安全衛生に配慮した政策を導入します。すべての職員に平等の機会を与えるため、必要に応じて相談を受けます。 2406 OIST 関係者に対するサービス改善のためリソース・センターの情報収集方法を改善します。保健センターの新規職員が業務を開始し、トレーニングを受けます。その後、OIST クリニックの再開について検討を行います。保健センター及びがんじゅうサービスと連携し、OIST 職員向けのサービス向上に努めます。CDC の人材配置モデルを構築し、良質な保育を確保する CDC の予算と過去の予算執行を分析し、経費を抑制し、小学生を対象とした STEM 教育を提供するための学童プランを構築します。引き続き、本学のコミュニティを形成する教職員・学生ならびにその家族の他、短期滞在の外		セスについて記載されたカードが印刷され、全教職員に提供されました。妊娠中の女性と働く親のためのペアレンツ・ルーム、別室のマザーズ・ルームが設計されました。本学女性教職員に対し、昼休みのイベントや特別講演等、年間を通じてネットワーキングの機会が提供されました。取り組みへの評価は、参加者からのフィードバックおよびフォローアップ・ミーティングによって行っています。質の高いプログラムを継続して実施できるよう、継続的な会議を通じて、琉球大学との関係が強化されました。 2405 安全衛生セクションと連携し、障がいを持つ職員の安全衛生に関する方針を決定、導入しました。 2406 当該サービスの種類及びサービスの提供方法の詳細（時間帯、利用者の要求方法等）を見直し、データ収集のプロセスを修正しました。日本の運転免許証取得について、昼休みにセッションを実施し、取得プロセスと他の詳細についてより多くの本学関係者に情報を伝達しました。CDC において、継続的で質の高い子育てサービスを確保するため、人員配置モデルを評価、変更しました。CDC の予算と過去の支出を調査し、経費削減のプロセスを合理化する作業が開始されています。学童事業提供において、より安定した科学技術プログラミングが特定されました。就学児プログラム・ディレク	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
	部職員に対しても学内外の施設の情報提供とサポート体制づくりを継続して行います。上記の目標を達成するため、保育サービス、ファミリーサポート、フードサービス、健康・医療サポートや生活におけるニーズのサポートに関連した人事サービス機能の強化を行います。		ター、就学児プログラム専任教員の 2 つのポジションが用意され、選任された職員が近い将来に業務を開始する予定です。教職員の家族も研究棟内で実施されている語学クラスを受講できるよう、研究棟へアクセスするため家族にアクセスカードが提供されました。将来の実施に向け、家族に対するオリエンテーションに関する必要情報を収集しています。 保健センターの新規職員へのトレーニングを行いました。また、10 月に新しい医師が着任し、本学クリニックでの診療を再開しました。 添付資料 2.4-1 平成 30 年度 職位毎・国籍別職員数 全職員に対する事務部門の職員の比率：32.7% 運営費に占める人件費の割合：39%（決算前のため概算値）	
2.4 人事管理 取組	（処遇・給与水準） 2407 引き続き、国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準等を踏まえつつ、「特殊法人等における役職員の給与について（平成 29 年 11 月 17 日総務省行政管理局）」に対する取組を具体化し、実行します。	・職員の給与水準（職種別の平均給与）	（処遇・給与水準） 2407 職員の給与水準については「特殊法人等における役職員の給与について（平成 29 年 11 月 17 日総務省行政管理局）」に基づき、国家公務員に準ずる取組みとしてすべてのレンジで一律 0.2%を引き上げました。 添付資料 2.4-2 平成 30 年度 職員の給与水準	
2.4 人事管理 取組	（キャリア開発・研修・業務実績評価） 2408 コンピテンシーに基づいた教育プログラムやマネジメント向けのツールを提供し、マネジメントの後	・研修の受講職員数	（キャリア開発・研修・業務実績評価） 2408 マネジャー候補層に対するマネジメント・フォーラムを実施しました。	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
継者育成計画や能力開発を支援します。 2409 オンライン及び個人学習のメニューを確立し、選抜された職員群のコンピテンシー強化のための学習指針を提供し各学習プログラムの効果を測定します。 2410 PRP に基づき、新入校職員に対し、毎月のオリエンテーションを継続します。大学組織、業務手順、日本の法律に関する一般的なオリエンテーションに加え、事務職員が業務遂行上必要なシステムの利用方法及びルールに関する実務オリエンテーションを実施します。 2411 平成 30 年度には、職員とその家族向けに提供される英語及び日本語クラスの数を維持します。語学訓練への需要は非常に高く、英語と日本語におけるコミュニケーション能力は本学の成功の土台となります。 2412 引き続き、期首に設定した目標/期待値等の達成度を評価する事を基本とした年次業績評価制度に加え、その等級に理想とされる状態（行動形態）をコンピ		2409 選抜された職員のコンピテンシー強化のためのオンライン・トレーニングを実施しました。 2410 新入職員に対し、大学組織、業務手順、日本の法律、業務遂行上必要なシステムの利用方法、就業ルール等からなるオリエンテーションを、毎月、実施しました。 2411 本学では前年度に引き続き同等の語学クラス数を運営し、42 の日本語コースと 30 の英語クラスを開講しました。日本語クラスを受講した学生は 549 人、英語クラスを受講した学生は 397 人でした。さらに、英語クラスでは大学院、CPR、および教員担当学監オフィスと連携し、本学職員のためのセミナーやトレーニングを実施しました。また、英語クラブやドロップイン・サポート（受講生が講師のオフィスに直接出向いて疑問を解決すること）を毎週本学職員及びその家族に提供しました。日本語クラスではサバイバル日本語セミナーを行い、「落語」や「豆まき」などの文化イベントの提供に加えて、学長への会話コースを実施しました。 2412 目標設定に関する説明会の内容を拡充し、パフォーマンス・マネジメントの考え方、組織目標と個人目標の関係づけ、進捗管理の方法、効果的なフィードバック	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	テンシーモデルとして定め、それを勘案しつつ職員が目標設定を行い、今後の行動改善に活かせる取り組みを開始し評価制度の充実を図ります。さらに四半期毎のレビュー、自己評価及び評価者の審査を介して、公平性と透明性に配慮しつつ評価を適切に実施、結果について個々の給与等に反映させます。その際、報酬検討委員会のアドバイスを受けて、引き続き、評価の質及び信頼性のあるプロセスを確保します。また、新しいマネジャー及び入校職員にプロセスの説明を行うため、定期的に研修を実施します。		クの方法、能力開発への展開等に関する研修を管理職および職員に対して実施しました。引き続き、四半期ごとの面談を推進し、職員と上長との間のコミュニケーションが定期的に図れるようにしました。 添付資料 2.4-3 平成 30 年度 研修の受講職員数	
2.5 コンプライア ンスの確保 目標:	大学経営の全ての面において、コンプライアンスが確保される体制を構築します。			A
2.5 コンプライア ンスの確保 取組	2501 引き続き、予算執行状況、一定額以上の調達に係る契約、学内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から審査を行うこととします。 2502 学内規則類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ、統括弁護士オフィスと協力して適時適切に制定・改正するとともに、PRP 審査委員会を定期的に開催し、規則類全体の整合性を維持します。 2503 業務運営上の意思決定及びその過程について、公文書等の管理に関する法律（平成 21 年法律第 66 号）及び同法に基づき整備した学内規則に則り、適切に文書		2501 チーフ・オペレーティング・オフィサーにおいて、引き続き、予算執行状況、一定額以上の調達に係る契約、学内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から審査を行いました。 2502 学内規則類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ、統括弁護士オフィスと協力して適時適切に制定・改正しました。2 月に PRP 審査委員会を開催し、規則類全体の整合性の維持を図りました。 2503 業務運営上の意思決定及びその過程について、公文書等の管理に関する法律（平成 21 年法律第 66 号）及び同法に基づき整備した学内規則に則り、適切に文書	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
管理するとともに、その管理・保護等を徹底します。 2504 独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 59 号）や行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成 25 年法律第 27 号）及びその関連法令、ならびにそれらに基づき整備した学内規則にのっとり、個人情報の取扱について適切に対応します。また、保有個人情報を管理する台帳等の整備など、学内規則を教職員に遵守させることにより、個人情報に対する意識の向上を図ります。 2505 監事監査や内部監査によって、規程類の実施状況を含むコンプライアンスの状況について、厳格なチェックを行い、その結果に基づき必要な見直しを行います。 2506 本学の全ての役員及び教職員に対して、「利益及び責務相反の防止」ポリシーの規定に基づき、利益の相反を生じさせる可能性のある状況の評価を促進するため、学外の活動と責務について、毎年度、書面による		管理しました。 2504 独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 59 号）や行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成 25 年法律第 27 号）及びその関連法令、ならびにそれらに基づき整備した学内規則にのっとり、個人情報の取扱について関係部署に対して助言を行う等適切に対応しました。また、職員向け研修資料を作成し、個人情報に対する意識の向上を図りました。 2505 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、チーフ・コンプライアンス・オフィサーの下で内部監査計画に基づき内部監査を実施しました。 一定額を超える随意契約について、500 万円未満の購入案件はコンプライアンス・セクション・リーダーが、500 万円を超える案件はさらにチーフ・オペレーティング・オフィサー及び同室准副学長がその適切性を審査しました。 全職員に受講が義務付けられたコンプライアンス研修（コンプライアンス・セクション主催）について、e-learning（入校者受講必修）による研修を提供しました。 2506 昨年度に引き続き、本学の全ての役員及び教職員に対して、「利益及び責務相反の防止」ポリシーの規定に基づき、利益の相反を生じさせる可能性のある状況の評価を促進するため、学外の活動と責務について、書	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
開示を実施します。 2507 各専門委員会による研究や実験計画の審査を継続し、本学の研究活動が関連法令や規制に準拠して実施されることを引き続き確保します。法令改正の説明会や専門的な講習会に専門職員を派遣し、専門職員の専門能力向上を図ります。 2508 研究費の不正使用防止のため、新たに OIST 着任することが決まったときから、教員、研究者に対し、研究費使用ルールの周知徹底・意識向上に関する取組を実施していく等、種々の対策を講じます。新規教員に対して、着任前の面談を通して、OIST における研究費使用ルールの説明を行う他、着任直後にも直接詳しくルールの説明を行います。		面による公式な開示を求め、その管理と運用を行ないました。 2507 研究や実験計画に関して、野外活動安全委員会、バイオ・セーフティ委員会、人対象研究審査委員会、レーザー安全諮問委員会及び放射線安全委員会による審査を通じて、研究活動が関連法令や規制に準拠して実施されていることが確保されました。また、ACSEL2019（The Asian Conference on Safety and Education in Laboratory）等安全衛生に関する会議や講習会に専門職員を派遣しました。 2508 研究費の不正使用防止のため、すべての新入職員がオンライン・トレーニングで、「公的研究費の適切な使用について」を受講しました。また、新規教員に対して、着任前の面談を通して、本学における研究費使用ルールの説明を行った他、着任直後にも教員および担当する研究ユニット・アドミニストレーターに直接詳しくルールの説明を行い、研究費の適切な執行を徹底しました。 2508 新規教員が着任する際、教員に対して（個別もしくは複数名で）、ディーン 3 名（教員担当学監、研究科長、研究担当ディーン）が研究費の不正使用防止、テニユア審査、ポスドク雇用、教育等についてメンタリングを行うことを検討しています。教員の年間業績評価でも、必要に応じてこのような情報を提供しています。	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
2509 責任ある研究行為が促されるようすべての研究者と学生に研究倫理教育の受講を徹底します。(再掲。1.2 参照) 外部研究資金を獲得した研究者が、必要な追加的な責任ある研究行為を受講するようよう徹底します。学外から専門家を招聘し、責任ある研究倫理に関するセミナーを開催します。 2510 研究データの保存は、研究室の閉鎖や研究員の退職時の管理徹底が重要です。したがって、研究データ等に関する研究室の閉鎖や研究員の退職時の手続きに関するチェックリスト等を策定します。 2511 平成 29 年 11 月に設置した鈴木祥平研究安全基金を通じて、研究安全や安全トレーニングに対する意識を高めるとともに、学生や経験の浅い OIST の研究者や技術者が研究安全を含むフィールドワークに必要な技術を身につけることができるよう支援を行います。また、引き続き 11 月を安全強化月間にし、安全衛生への		2509 研究倫理教育の第一人者である東京工業大学 札幌順教授を、平成 30 年 12 月 13 日招聘し、研究倫理に関するワークショップを開催しました(再掲。1210 参照)。公正研究推進協会のオンライン・トレーニングの受講の利便性を図るため、教職員及び学生を一括登録しました。 2509 今年度は、研究ユニットにおける倫理的で同僚的な環境を築くためのガイドライン案の策定を開始しました。安全性、お互いに尊重できる職場、倫理的な行動規範等について、様々なエピソードや例を用いて説明します。必須研修(研究倫理を含む)の受講状況については、研究員や学生の受講率をモニターしながら、未受講の者に対して受講を促進するための対策に取り組んでいます。 2510 研究室の閉鎖や研究員の退職時のみならず、研究論文の発表の都度、関連データの本学データ・サーバーへの保存を促すガイドラインを策定しました。 2511 鈴木祥平研究安全基金による研究安全支援プログラムを通じ、フィールドワークのためのトレーニングや機器の購入など、6 件のプログラムが採択されました。11 月の安全月間では、野外活動の安全及び健康に関するセミナー、多数傷病者発生時の対応、緊急用具の使用法などの教育訓練を実施しました。野外活動の安全	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	対応策の強化を行います。また、野外活動安全委員会による野外活動計画の厳格な審査を継続します。より安全な野外活動に向け野外活動マニュアルの全面改定を行う他、担当職員が現場を巡視するなど野外活動の現場査察を強化します。		を確保するため審査を厳格にし、全 52 件の野外活動が事故なく実施されました。専門家(ダイビング安全主任)による現場査察では何ら不遵守事項は確認されませんでした。なお、野外活動マニュアルは引き続き改正を行っています。	
2.6 情報公開及び 広報活動 目標:	本学が急速な成長を遂げる中、教育研究や業務運営に関する透明性の確保、及び国民に対する説明責任の履行に向けた取組が非常に重要となります。国内外から幅広いサポートを得るとともに、国際的な認知度を高め、本学の知名度をよりあげるために、多様なステークホルダーとの間で積極的にコミュニケーションを図ります。			A
2.6 情報公開及び 広報活動 取組:	2601 本学は引き続き、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号）等によって公開が義務付けられる情報について、ウェブサイト等において適切に公開します。 2602 広報ディビジョンに所属するデジタル・サービス・セクション（3 名体制）は、OIST の外部向け・内部向けのウェブをより質の高いものにする業務に特化します。		2601 本学は引き続き、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号）等によって公開が義務付けられる情報について、ウェブサイト等において適切に公開しました。 2602 2018 年度上半期に、デジタル・サービス（DSS）の 3 人のメンバーのうち 2 人が退職し、補充要員として 3 月にディベロッパーを 1 名採用しました。人員配置の問題にもかかわらず、DSS は内部および外部の Web 機能に対して高い水準を維持し続けています。ユーザー・サポートのヘルプデスク・セッションを週に 2 回に増やし、コンテンツ編集者を行う新規スタッフのための月例トレーニング・セッションを導入しました。また、DSS は、より包括的なサポートをユーザーに提供するため	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	2603 本学に関して継続的に肯定的な報道がされるよう、引き続き、県内外で記者説明会や記者会見等の機会を積極的に持つよう努めます。内外の科学広報（サイエンスコミュニケーション）及びメディアにおける本学の存在感を高めるため、平成 30 年度も引き続き他大学や研究機関の科学広報担当者と、日本科学広報研究会（JACST）の活動を通じて協働します。そして日本の科学界やジャーナリストの間で OIST の知名度・注目度をたかめていきます。 2604 引き続き大学院大学のウェブサイト、論文発表データベース、及び本学ウェブサイトのニュースセンターを通じて、博士課程プログラムや OIST 研究者の論文発表に関する情報の検索を容易にし、本学の写真やビデ	に、新しい IT サポートデスク・プラットフォーム Service Now に移行しました。 2603 3 回の記者会見および 4 回の記者懇談会を東京と沖縄において開催するとともに、ペン記者やテレビ・クルーの本学訪問を実現し、本学の教育・研究活動のみならず、クラブ活動や人物についても取り上げられるよう積極的な広報活動を展開しました。その結果、本学にとって好意的な多くの報道につながりました。サイエンス・カフェ形式の東京での記者懇談会は、テーマ及び開催時期について戦略的に企画・実施し、本学の教育・研究活動について関心を高めてもらうとともに、登壇した研究者及び職員と科学記者の関係構築に寄与しました。また、前年度に続きメディア・セクション・リーダーとメディア・リレーション・スペシャリストが日本科学技術広報研究会（JACST）を通じて他機関の科学広報担当官と協働を図ったことで、国内の科学広報分野における本学の知名度が一層増しました。さらに、研究ユニットが東京で開催したイベントに報道関係者を招待し、その結果多くの好意的な報道につながりました。同様の成果が、東京で開催された OIST フォーラム 2019 でもありました。同フォーラムの開催に当たっては、企画段階からメディアとの協働関係を構築しました。 2604 アドミッションに係る Web サイトは、PhD プログラムだけでなく、インターンシップや他の学生向けプログラムを宣伝するために再設計されました。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	オ、その他のマルチメディアの活用を促進します。 2605 Facebook、Twitter や Flickr、Vimeo、Instagram 等のソーシャル・メディアを更に効果的に活用し、本学の最新研究成果や様々な情報を発信します。そして将来 OIST への進学や就職につながるかもしれない OIST ファンや OIST やフォロワーを増やすことに努力します。 2606 引き続き、学内規則集をウェブサイトに掲載し、その維持と改善を図ります。 2607 有事の場合、統括弁護士オフィス及び COO と協力しながら、OIST のレピュテーション・リスクに配慮した、適切適時の情報発信を行います。		2605 本学のソーシャル・メディアにおいては、前年度に引き続きメディア・セクション、地域連携セクション、教務科オフィスが活用し、日英両言語で、継続的かつ充実した内容の情報を各オーディエンスに向けて提供しました。特筆すべきはビデオで、多くの耳目を集めるとともに、エンゲージメント（ユーザーからの共感）を増やしました。また、メディア・リレーション・スペシャリストが関係セクションと協働してインスタグラムのフォロワー数を飛躍的に増加させることに成功しました。 2606 引き続き、学内規則集をウェブサイトに掲載し、維持・改善を図りました。 2607 2019 年 3 月、大学の評判に影響を与える内容の記事が数件、沖縄の新聞に掲載されました。誤解を招く内容に対応するにあたり、内部での合意形成に若干の遅れがありましたが、2 件目の記事への対応方法は大幅に改善されました。記者からのすべての質問に対する回答時間は適切でした。意思決定プロセスをより迅速化するための改善方法を検討しています。	
第 3 章 財務に関する事項				
3 財務に関する 事項	引き続き、将来の自立的経営に向けて、競争的研究資金、寄附金等の外部資金獲得額の増加を図り、財政基盤の強化に戦略的に取り組みます。これに向け、OIST は、教			A

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
目標:	職員の活発な外部資金への応募を促進するための奨励策（インセンティブ）を設定します。 また、外部資金に関する中期戦略を新たに改訂します。			
3 財務に関する 事項 取組:	（競争的資金） 3001 (a) 外部研究支援セクションのウェブサイトや個別の訪問を通じて、外部資金情報、応募に係る支援、国内他機関とのネットワークの重要性等を OIST 研究者に伝える機会を増やします。 (b) 科研費申請支援を希望する研究者の専門分野を把握しながら、グラント・ファシリテーターによる支援効果が増すよう、ファシリテーターの人員増に努めます。 (c) 研究担当ディーンや他の役員とインセンティブ・プログラムの設計についてさらに議論を行います。 3002 外部研究資金セクションは、国内・国外のグラント情報を引き続き収集し、定期的に OIST の研究者コ	・競争的資金の申請件数 ・競争的資金の採択状況（件数及び獲得額） ・外部資金の伸び（総額及び内訳）	（競争的資金） 3001 (a) 外部研究支援セクション (GRC)は、助成金の必要性を理解するために研究者に積極的にインタビューを行い、関心のある助成金情報を個々の研究者に提供しました。また、GRC ウェブサイトと E メールを通じて、GRC が主催する学内セミナーを含む補助金申請のサポート情報を発信しました。GRC は、ポスドク・ディベロップメント・スペシャリストと協力して、本学の研究者と科研費について対話的に議論する機会を設け、GRC マネジャーはパネリストの一人となりました。 (b) GRC は、人的ネットワークを通じてより多くの外部のグラント・ファシリテーターを確保するための努力をし、また助成金申請過程において、グラント・ファシリテーターが实际的な支援のためにどのように機能すべきかを議論しました。 (c) GRC は、申請数と採用率を高めるための KAKENHI インセンティブ・プログラムの設計について議論しました。GRC は申請期限まで本学の研究者に様々な支援を提供し、このプログラムに登録した研究者は 2019 年 4 月の結果に応じてインセンティブを受け取ります。 3002 GRC は学内情報ポータルサイト TIDA と電子メールを使用して、助成金情報を本学研究コミュニティ	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
コミュニティに配信します。新規公募に係る情報収集のため、主要な資金提供機関を訪問します。 3003 研究者が民間セクターや産業界の助成金へ応募することを奨励し、翻訳や編集、予算編成等の作成を支援します。 3004 OIST は、学内におけるインセンティブ制度を通して外部資金の獲得を奨励することによって、外部資		に配信しました。特に、研究者のニーズに応じて、GRC は必要な情報が彼らにうまく伝えられたかどうかに注目しました。また、GRC は、科学技術政策に関する現在の議論を学ぶために、文部科学省、日本科学振興協会などの主要な資金提供機関を訪問し、情報を交換しました。 3003 GRC は民間セクターや産業界の助成金に関する情報を、事業開発セクション担当者に共有しました。技術開発イノベーションセンター (TDIC) では、国や沖縄県、民間企業が支援する産学連携関連の共同研究等を管理しています。今年度の実績は以下の通りです。 ・ 23 件の産学連携関連のプロジェクトを締結、管理 ➤ 22 件の共同研究プロジェクト（内新規は 2 件、更新は 20 件） ➤ 1 件のアクセラレーター・プログラムによるプロジェクト ・ 40 件の民間企業による外部資金情報を本学研究者コミュニティに提供、19 件の申請書を支援、4 件の民間助成金を獲得 研究者に対する積極的な支援、また国や沖縄県、民間企業やその他助成機関との連携の結果、平成 30 年度の技術開発関連の外部資金は、1 億 43 百万円以上となりました。 3004 科研費の申請に関するポスドク等へのインセンティブとして、申請前に、科研費の審査経験がある経	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	金の堅実な増加を図っていきます。		験豊富な日本人研究者による応募内容の評価を受けた場合、 研究費を支援するスキームを継続し、その内容の一部改良を行いました。また、今年度新たに、教員、サイエンス・テクノロジーグループメンバーに対して、採択額に応じて、一時金を受け取ることができるインセンティブを導入しました。 添付資料 3.1 外部資金・寄付金獲得状況	
3 財務に関する事項 取組:	(寄附金) 3005 OIST は、米国内における代理を含めた寄付金の募集を行うための推進室において、寄付金獲得を推進します。		(寄附金) 3005 シニア・アドバイザーが 6 月に着任し、米国内でのネットワークを拡大するとともに、海外からの寄付金を募り易くできるようなメカニズムの構築を進めました。シニア・アソシエイトは引き続き寄付金のオペレーションに関連する基本的な構造を整えました。	
第 4 章 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項				
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 目標	日本政府による「経済財政運営と改革の基本方針 2017」には沖縄が日本経済の牽引役として発展し、沖縄でのグローバルな知的・産業クラスターの形成を推進する政策が含まれます。本学の技術開発イノベーションセンター（以下 TDIC）は国の政策と沖縄の自立的発展に寄与するという 2010 年制定の学園法に記された本学の設立目的を反映しています。 TDIC の使命は、研究室から生まれた発明を社会的・経済的利益のため産業界への技術移転を推進し、OIST 及び沖縄におけるイノベーションを発展させることです。TDIC では沖縄におけるイノベーションの促進のために			A

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	POC(概念実証)研究、発明と特許、共同研究、スタートアップや起業家精神の育成、官民機関との連携などにおいて積極的な支援を行います。 平成 30 年度において、TDIC では引き続き以下の幅広い取り組みを行います。 a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及び市場化 b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商業化を推進するべく POC（概念実証）プログラムを強化 c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向け起業家活動及びスタートアップの育成支援 d) 新技術の開発や技術移転の促進のために企業との共同研究を拡大 e) 沖縄のイノベーション・エコシステム（R&D クラスター）形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化 f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定 沖縄の自立的発展には地元の人々による精力的、包括的かつ多様な連携と参加が重要となります。この目標に取り組むため、OIST が沖縄へもたらす社会的影響を重視し、キャンパスツアーやサイエンス・フェスティバル、教育的イベントを通して地域社会との結びつきを深めていきます。また、文化及び地域活動の中心として大学キャンパスのさらなる発展に努めます。			
4	a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発	・知的財産（発明の開	b) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
沖縄の自立的 発展への貢献 に関する事項 取組	明の同定、保護及び市場化 4101 積極的に教員や研究者に働きかけ基礎研究のミッションを補いつつ、本学の知的財産を確保する発明開示手続きを行います。	示数、特許申請及び取得数等)	明の同定、保護及び市場化 4101 事業化に繋がる可能性がある発明が生み出されました。TDIC 職員による研究者への積極的な働きかけにより、新しい研究室や研究分野からの発明開示（例：量子コンピューターに関する発明）もありました。これにより、本学が保有する知財、シーズのポートフォリオが広がり、今年度中に取得特許は 100 件の節目を超え、合計 111 件になりました。また合計特許出願数は 368 件になりました。	
	4102 効率的かつ戦略的な知的財産の管理のため、外部の特許専門家の国際的ネットワークを拡大します。外部専門家の層を厚くすることで、発明評価委員会と特許出願の質の向上を図ります。		4102 外部の特許専門 5 名（アメリカから 3 名、日本から 2 名）が、既存の外部専門家ネットワークへ組み込まれました。結果として、5 カ国合計 37 名のネットワークを構築することができました。 幅広い専門家ネットワークと積極的なシーズ発掘・保護により、今年度は以下の実績につながりました。 ● 発明評価委員会による発明開示の評価 12 件 ● 特許出願数 59 件 ● 特許取得数 47 件 ● 新規ライセンス契約数 2 件	
	4103 知的財産評価プラットフォームを導入し、産業界パートナーや競合技術、権利侵害の可能性を定期的に調査します。それにより、効率的に知的財産を保護し、また技術移転活動を促進します。		4103 知的財産評価プラットフォーム（PatSnap）を導入し、先行技術を網羅的に調べることが可能になり、知財の保護可能性を効率的、かつ客観的に評価できるようになりました。また、マーケティングの対象となる事	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	4104 学生や研究者を対象にしたトレーニング・コースや、セミナー、ワークショップの開催により、引き続き発明や知的財産保護に関する大学全体の意識の向上に努めます。アジアにおける技術開発イノベーションセンターとしての大学の認知度を高めるため、国際会議を開催します。	業分野や産業界の事業トレンドの把握が容易になりました。 4104 技術開発イノベーションセンターは、本学コミュニティの特定のグループにターゲットを絞り、発明や知財の意識向上を促すよう、それぞれのグループに適した活動を行いました。 ● 学生向け：専門能力開発コースとして、国際的に活躍する特許専門家による知財に関する基礎講座 ● 全職員向け：新入社員オリエンテーションにて技術開発イノベーションセンターによる知財基本方針と手続きの案内 ● 研究者向け：国際的に活躍するアメリカの特許専門家による研究者向けの知財教育。JST 新技術説明会に参加する研究者を対象とした、企業向け発表のトレーニング ● 研究室向け：研究室を定期的に訪問し、知財や技術開発イノベーションセンターの業務内容を紹介 ● 教員、研究者、学生向け：技術ライセンス・スペシャリストにより、希望する教員、研究者、学生との一対一の面談 またアジアにおける技術移転ハブとしても本学の認知度を高めるため、国連の知財機関である WIPO（国連の世界知的所有権機関）と連携し、アジアの新興国 7 か国から科学技術大臣、大学学長、技術移転マネジャー約 60 名を本学に招待し、知財戦略と技術移転事例について学ぶ 3 日間の国際カンファレンスを開催しました。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
4 沖縄の自立的 発展への貢献 に関する事項 取組	b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商業化を推進するべく POC（概念実証）プログラムを強化 4105 2017 年度に R&D クラスタ研究プログラムが成功に完了することを機に、プルーフ・オブ・コンセプトプログラムは、基礎研究の進歩に基づいた画期的な技術開発を行うためのイノベティブ・テクノロジー・リサーチ（以下 ITR）を支援するように強化されます。新しいイニシアチブである ITR は、実用化研究を行う POC プログラムの既存のフェーズⅠとフェーズⅡを補完します。ITR の結果は、産業界との協力を促進し、外部資金調達の基盤を提供し、POC 実用化研究を行うフェーズⅠ及びフェーズⅡのための新しい発明につながると期待されています。 4106 研究資金、市場調査及び分析、プロジェクト管理、教育コース及びイベント、産業界のエキスパートへのアクセスなどを提供し続けることで、進行中のフェーズⅠ及びフェーズⅡ POC プロジェクトの進展を確実にします。実用化への努力を継続するため、完了した POC プロジェクトへの継続的支援を維持します。	・将来の連携を見込んだ企業との正式なコンタクト数 ・産業界との連携事業数(連携協定、共同研究契約、特許活用件数等)	添付資料 4.1 特許状況 b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商業化を推進するべく POC（概念実証）プログラムを強化 4105 イノベーション・テクノロジー研究（ITR）が、実用化研究を行うフェーズⅠ、フェーズⅡを補完するためにその前段階として POC プログラムに新たに組み込まれました。 新たに 5 つの ITR プロジェクトが、エネルギー、環境、健康、物理学の分野で採択されました。 4106 ・フェーズⅠでは、創薬、再生可能エネルギー、AI の分野において 3 件のプロジェクトを採択 ・フェーズⅡでは、排水処理とバイオセンシングの分野において 2 件のプロジェクトを採択 今年度は、計 12 件の POC プロジェクトが支援を受けました。うち 10 件は新規、2 件は昨年度からの継続案件です。平成 28 年度に POC プロジェクトが設立されてから、計 31 件のプロジェクトが支援されてきたことになります。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	4107 POC プログラムのための産業界からのレビューア、エキスパート、及びメンターのパネルメンバーを拡充、強化するため業界の様々な会議やネットワーキングイベントに出席あるいは企画し、POC プロジェクトのチームも参加させます。		4107 POC プログラムは、引き続き外部の技術者や産業界エキスパートとのネットワークを拡大し、技術開発活動の外部評価、またメンター支援を提供する能力を強化しています。今年度は、既存のネットワークに加え、18名の国際的な技術者、産業界エキスパートと連携し、ネットワークの総数は合計 70 名を超えるに至りました。 添付資料 4.2 受託研究等及びイベント	
4 沖縄の自立的 発展への貢献 に関する事項 取組	c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向け起業家活動及びスタートアップの育成支援 4108 施設や設備へのアクセス、資金調達の支援、事業化の専門家との連携など、起業家やスタートアップ企業を支援するスタートアップアクセラレータプログラムを構築し、実施する。プログラムの対象、選考、支援内容及び評価のためのルールを策定します。	・(POC、R&D クラスター研究等で) 支援を受けている技術開発研究プロジェクトの数	c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステム形成に向け起業家活動及びスタートアップの育成支援 4108 本学は沖縄で初めてとなるスタートアップ・アクセラレーター・プログラムを沖縄県から 1,500 万円の支援を受け開始しました。このプログラムは沖縄でベンチャー・ビジネスを育てる革新的な起業家を世界中から呼び寄せる力となっています。主なプログラム内容は、 (1) アイディアをもとにスタートアップ企業を設立するための資金援助、(2) 本学内の施設や最新設備へのアクセス、(3) ビジネス戦略、顧客戦略、そして市場戦略を強化するコースやイベント、(4) 外国からの起業家への国内の知財、税、ビザ、人材、等に関するバイリンガルサポート、(5) ベンチャー資金獲得、メンタリング、共同研究・開発、マーケティングのため本学が持つ学術、行政、そして産業界パートナーとのネットワークへのアクセスを提供します。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	4109 POC (Proof-of-Concept) プログラムやその他技術の事業化を目的として、継続して起業家精神育成ワークショップを実施します。沖縄県内の起業家精神を育むために、他大学の学生や研究者にワークショップへの参加を促します。日本語での講師育成コースを受講するなど、ワークショップの国内での普及について検討します。 4110 OIST の知財分析をとおして、専門知識を蓄積している産業分野を特定します。 4111 第 3 研究棟 A 階の「技術開発ラボ」は、新技術や POC 研究の実用化のためのスペースとして引き続き運用していきます。		米国、英国、イタリアから集まった 4 人の起業家によるチームが、新技術にもとづく栄養関連企業を立ち上げるため採用され、本学で 8 か月間研究開発を行いました。今年 4 月、スタートアップ企業として 4 名のスタッフが「株式会社 Shoreditch-son」に移行し、投資家から資金援助を受け、新たに建設されたインキュベーター施設に入居しました。(インキュベーター施設については後述) 4109 第 6 回リーン・スタートアップ・アントレプレナー・トレーニング・プログラムを開催しました。14 の研究ユニットから総勢 40 名以上が参加しました。 また、リーン・スタートアップ手法による「トレーナーのためのトレーニング」も開催し、技術の商業化に関心を持つ研究者たちに実践的な支援を提供できるよう、5 名の TDIC スタッフが受講しました。 4110 昨年導入した知財評価のための解析プログラムの他に、ウェブ検索エンジン内で技術マーケティングを行える広告を導入し、当該技術に適したマーケティングや、それらマーケティングのビジネストレンドが解析できるようになりました。 4111 技術開発ラボ（第 3 研究等 A 階）の全スペースが引き続き運用されます。スタートアップ・アクセラレーター・プログラムに初めて採用されたチームもインキュベーター施設が建設中の間は、技術開発ラボにて活	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
	4112 キャンパスの近くにインキュベーター施設を設置し、スタートアップのためのラウンチパッド、また OIST の研究者や企業パートナーのためのコラボレーションスペースとして機能させるため施設及び運営体制を整えます。OIST を中心としたコラボレーションを促進し、イノベーション・エコシステムを構築するために施設を設計、整備し、マーケティングを行います。		動していました。 4112 今年度、スピノフ企業を生み出すため 500 平米の施設をキャンパス内に建設しました。この「イノベーション・スクエア・インキュベーター」施設は、5～10 社の初期段階のスタートアップ企業を収容できます。このインキュベーター施設には以下のような特徴があります。(1) 本学発のスタートアップ企業のみならず、世界中からのスタートアップ企業を受け入れること、(2) 本学研究者たちと共同研究を行う企業も受け入れること、(3) 同施設内にエンジニアリングラボとバイオテクノロジーラボがあること、(4) 専用ラボと共用ラボが併設されていること、(5) メイン・キャンパスにある主要な施設や機器の利用が可能であること 本学は、インキュベーター施設を活用し、研究、スタートアップ、および成功した企業が協力して沖縄で事業を行っているイノベーション・エコシステムの形成を目指します。インキュベーター施設の第一の目的は、スタートアップ企業の促進と成功ですが、今年度は適切な賃料収入とその他の外部資金を獲得する機会も増えていきます。	
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組	d) 新技術の開発や技術移転の促進のために企業との共同研究を拡大 4113 連携可能性のあるパートナーを特定し、長期的な関係を構築し、企業の訪問や交流を促進することによ		d) 新技術の開発や技術移転の促進のために企業との共同研究を拡大 4113 今年度の実績は以下の通りです。 ・ 23 件の共同研究プロジェクトの推進 (2 件の新規事	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
り、産業界との共同研究を推進します。 4114 沖縄県から助成を受けている産学関連の研究プロジェクトを継続します。外部資金獲得の多様化に向けて、OIST の研究を支援し、沖縄県の科学技術ロードマップに沿った新しいプロジェクトを積極的に推進します。また、産学関連の知見を深め、技術移転を促進するためのプロジェクトに係る会議やシンポジウムの開催を支援します。 4115 国内外の展示会やワークショップ、会議に参加することにより、OIST の研究の促進と産業界との関係の強化を図ります。		業、20 件の更新事業) ・7 件の秘密保持契約を締結し、新規プロジェクトの立案を推進 ・60 以上の企業に対し本学の技術紹介をし、共同研究の検討機会を提供 4114 今年度、TDIC は沖縄県と連携し、沖縄県科学技術振興ロードマップに沿って新規プロジェクトを推進しました。その結果、沖縄県からスタートアップ・アクセラレーター・プログラムを含む 7 件の本学プロジェクトが採択されました。 4115 本学発の技術を推進すべく、TDIC のスペシャリスト（スタッフ）は、計 8 件の国内外の産業界の展示会に参加しました。 ・ Medix Tokyo ・ Okinawa Promotion Seminars in Osaka and Tokyo ・ BioJapan 2018 Yokohama ・ Okinawa Venture Market, 那覇 ・ MRO Aviation Meeting Okinawa, 那覇 ・ nanotech 2019, 横浜 ・ SLUSH Tokyo 2019 ・ ConnecTech Asia 2018, シンガポール さらに、今年 1 月に JST とともに 2 度目の OIST 新技術説明会を開催し、来場した 100 を超える企業に対し特許	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
	4116 関連する公的及び民間資金の外部資金を特定し、研究者に応募を促し、応募プロセスを支援することにより、外部資金を獲得します。 4117 スタッフの能力開発の研修参加を奨励し、科学技術に関連するビジネスとマーケティングの内部知見を強化し、事業開発活動を強化します。 4118 秘密保持契約、研究試料提供契約、共同／受託研究契約、ライセンス、コンサルティング契約、MOU など、企業との複雑な契約交渉と管理に関する大学の専門知識を構築するため、統括弁護士オフィスと綿密に連携します。		を得た 4 件の OIST 技術を紹介しました。本学の発明者たちも企業の担当者たちとライセンスや共同研究について一対一のミーティングを持ち、今後につながる話し合いが行われました。 4116 外部資金獲得を強化するため、TDIC は 40 件の民間セクターによる外部資金情報を本学研究者コミュニティに提供し、19 件の申請書を支援し、内 4 件が助成金を獲得しました。 4117 TDIC のメンバーは継続して技術移転に関連する能力を強化するため、下記のテーマを含む 22 以上の研修やセミナーに参加しました。 共同研究契約 AI のためのマシンラーニング ソーシャル・イノベーション 商標の基礎 技術マネジメント 4118 TDIC は引き続き統括弁護士オフィスと連携し、重要な交渉を伴う研究及び秘密保持契約を締結し、企業との契約書の標準化と交渉の合理化を図りました。	
4 沖縄の自立的 発展への貢献	e) 沖縄のイノベーション・エコシステム（R&D クラスタ）形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化		e) 沖縄のイノベーション・エコシステム（R&D クラスタ）形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
に関する事項 取組	4119 イノベーションと技術移転を促進するために地域や国の機関との交流を積極的に行います。	4119 日本でのイノベーション促進に関心を寄せる機関と交流することは、本学の戦略の重要な一部です。この目的において実施したことは以下の通りです。 ・昨年 6 月、本学は AI に特化するインキュベーターである株式会社ディープコアと覚書を交わしました。ディープコアは、ソフトバンクグループ株式会社の 100% 子会社で、技術で世界を変えたい願う日本の起業家たちを育成しています。本学との間では将来の共同研究に向け、研究者と起業家の交流を持ちました。 ・沖縄の意欲的な起業家たちが出会い、交流することを目的としたメンバーシップ・クラブ、「スタートアップ・オキナワ・クラブ」の立ち上げを手助けしました。昨年 12 月に初の会合が本学で開催されました。 ・琉球銀行と沖縄タイムズによる第 3 回「オキナワ・スタートアップ・プログラム・デモ・デー」が本学後援のもとキャンパスにて開催されました。 ・Beyond Next Ventures 株式会社による「テクノロジー・スタートアップ・アクセラレーター・サミット」を開催し、本学から 5 チームがピッチに参加し、ベンチャーキャピタルとの相談会を開催しました。 ・一般社団法人日本ディープテック協会により設立され東京に拠点を持つ Hello Tomorrow Japan に参加しました。Hello Tomorrow Japan は、よりよい未来のため科学とディープテックの市場展開を促進する活動を行っています。	4120 「OIST を中核とするイノベーション・エコシ
	4120 インキュベーター施設、スタートアップ・アク		

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
セラレーター・プログラム、またその他の起業家プログラムが、OIST を中核とする沖縄イノベーション・エコシステム形成にどのように貢献するかという観点から長期的な戦略計画を展開します。起業家育成の国際的専門家を招き、沖縄のスタートアップ活動を加速させる戦略アドバイスを取り入れます。 4121 沖縄におけるイノベーション・エコシステムの構築に向けた活動において内閣府や沖縄県、またその他の関連機関と密接に連携していきます。 4122 イノベーション、アントレプレナーシップ、R&D クラスター形成などをテーマにした国際セミナー、ワークショップ、シンポジウムなどを開催し、沖縄の世界への認知度を高めるとともに、沖縄での国際関係における専門性を強化します。		システムの戦略計画」の素案が昨年度にまとめられ、主に (1) OIST においてイノベーション関連の取り組みを拡大する、(2) OIST 周辺でのスタートアップ・エコシステムを支援する (3) 沖縄県地域計画の取り組みに参加する、という 3 つの目標が掲げられました。 昨年度、本学は BEENEXT、ANRI、ユーグレナ・ファンド、0→1 Booster、Google Japan、Beyond Next Ventures、Spiral Ventures、Global Life Science Ventures といった起業に関わる専門家や投資家との会合を持ちました。 4121 スタートアップ・アクセラレーター・プログラムの設立において、本学は沖縄県と連携してきました。また、本学を中心としたイノベーション・エコシステム形成に向けた戦略的プランについては内閣府と連携を図りました。 4122 TDIC では昨 30 年度はイノベーションと起業家精神育成の推進のために、計 16 件の研修、セミナー、ワークショップやイベントを開催し、延べ 640 名以上が参加しました。(添付資料 4-2 参照) 中でも特筆すべきは、今年 3 月に行った「DeepTech が世界を変える」と題したフォーラムです。TDIC と CPR ディビジョンがニュースピックス社との共催で行ったこのフォーラムは、基調講演、パネルディスカッション、そして本学研究者 3 チームによるスタートアップ・ピッチで構成され、約 200 名近い参加者が来場しました。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
4 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項 取組	f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定 4123 OIST や沖縄におけるイノベーション指標の分析を進めるために必要なパートナーシップを構築します。沖縄における技術的革新の指標開発、またそれらがもたらす影響を分析する統計データの計測方法を確立します。	・イノベーション、技術開発、R&D クラスタ ー開発関連トピックにおいて OIST が企画または主催したシンポジウム、会議、ワークショップの数 ・イノベーション、技術開発、R&D クラスタ ー開発関連トピックにおけるイベント、コース、シンポジウム、会議、ワークショップ、セミナーの参加者の数	f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定 4123 ・TDIC は、沖縄における科学技術に関する社会経済指標の分析を行うために、沖縄大学法経済学部の大城淳教授と共同研究契約を結びました。大城教授およびゼミの学生と共に、社会、経済および技術データに基づいて沖縄県でのイノベーション支援における利点や機会の特定に取り組みます。 ・豊橋科学技術大学のガウラブ・ティカス博士（スズキ財団フェロー）の協力のもと、研究主導型の大学がその地域の社会経済発展へどのような貢献ができるかのケーススタディを行っています。	
	（地域連携に関する取組） 4124 引き続き、県立中部病院や南部医療センター、琉球大学医学部等地域の核となる医療機関との交流プログラムを実施し、科学講演会を開催します。 4125 引き続き多くの訪問者（県内の企業や各種協会等の団体も含む）を得られるよう努めます。	・視察や来訪者の数（オープン・キャンパスへの来訪者数を含む） ・キャンパスを訪れた県内児童・生徒数 ・県内児童・生徒を対象とした講義やイベントの数	（地域連携に関する取組） 4124 沖縄県からの紹介により、県内医療関係者が主催する「ハーバード大学医学部臨床研究教育プログラム」等のワークショップの開催に協力しました。県内からも多くの医療従事者が参加しました。 4125 県教育委員会、各学校への文書による案内、また本学 Web サイトを通じての広報により、27,673 名（サイエンス・フェスタ入場者 4,500 名を含む）の訪問者がありました。	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
4126 本学キャンパスで 9 度目となるサイエンス・フェスタ（オープン・キャンパス）を実施するとともに、地域の中・高校生や地域住民のイベント参画を促進します。 4127 沖縄県内の児童・生徒に、世界最先端の研究環境を体感し、科学技術分野での進学又は就職への関心を高めてもらうことを目的として、県内学校からの本学キャンパス訪問を積極的に受け入れます。特に、沖縄県教育委員会や県内各高等学校と緊密に連携し、県内の全ての高等学校を対象とする訪問プログラムを引き続き推進します。また小・中学校児童生徒による見学も促進します。 4128 県や観光組織との連携により高度な科学技術教育プログラムを行う本土のスーパー・サイエンス・ハイスクールの本学への訪問を引き続き実施・強化します。 4129 引き続き全ての学年の児童・学生に対して、本学の教員や外部の著名な科学者による講演会を開催します。 4130 恩納村と協力して、第 9 回恩納村・OIST こども科学教室を開催します。		4126 サイエンス・フェスタ 2018（一般公開）を開催し、4,500 名の皆様に 31 の科学プログラムを楽しんでいただきました。350 名の本学教員・研究員・学生・事務職員等がボランティアとして参加し、また恩納村の小中学生 14 名が放送ボランティアとして参加しました。また、今回は北海道大学リーディング・プログラムの学生が科学デモを行いました。 4127 沖縄県教育委員会および各地区教育事務所を通じ周知の結果、高校 25 校、1,480 名、中学校 11 校、435 名、小学校 24 校、1,780 名を受入れ、本学の教育、研究について紹介しました。（合計 3,554 名） 4128 東京で開催された修学旅行フェアに参加する等情報発信し SSH 校 5 校 313 名の生徒が本学を訪問しました。（その他高校含め県外全体 13 校 683 名） 4129 サイエンス・フェスタに国立天文台および東京工業大学より講師を招聘し、講演を実施しました。 4130 8 月 20 日から 24 日までの 5 日間、第 9 回恩納村・OIST こども科学教室を開催し、7 クラス 142 名の	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	4131 地元の人々に本学を訪問してもらうために、本学の講堂や他の施設を活用し、コンサート、展示会等文化的なイベントを開催します。 4132 地元教育委員会による英語教育に関する会議及び地元の学校で実施される英語講座への本学関係者の参加促進等により、子供達の英語力及び異文化理解を深めるために、地元の学校に協力をします。		児童が参加しました。31 名の本学ティーチング・スタッフに加え、本学職員 55 名、役場職員 12 名、恩納村学校教員 35 名、10 名の大学生インターンがボランティアとして教室を手伝いました。 4131 沖縄県立芸術大学との連携等美術展（4 件）、音楽コンサート（2 件）、琉球伝統芸能（1 件）、を開催し多くの地域住民が参加しました。 4132 -恩納中学校統合推進協議会および専門部会に出席しました。建設中の恩納中学校で、恩納村教育委員会のメンバーと科学教育について、とりわけ女子学生への科学教育促進に関する取り組みについて議論しています。 -恩納村教育委員会主催の「英語ストーリー・スピーチコンテスト」をキャンパス内で開催し、英語教師と広報ディビジョン・スタッフが審査員を務めました。	
4 沖縄の自立的 発展への貢献 に関する事項 取組	（その他の取組） 4133 引き続き、地元密着型ジョブ・フェアの開催、沖縄高等専門学校への就職説明会等に参加し優秀な県内出身者の雇用に努めます。 4134 「沖縄の産業まつり」等に参加したように、引き続き、県内の主な文化的、産業的、学術的イベントに参加します。また、米国総領事館及び沖縄県と連携し、沖縄で主要な科学教育競技の一つとなっている、高校生を対象とした起業のための研究能力を競う科学イベン	・沖縄出身の職員数 （研究者、事務系職員等） ・本学で開催された外部主催の国際会議及びワークショップの数、及びその参加者数	（その他の取組） 4133 地元密着型ジョブ・フェアを開催し、県内出身者を採用しました。 4134 沖縄県内の那覇および本県各地域で開催される「沖縄青少年科学作品展」「名護サイエンス・フェスタ」「沖縄の産業まつり」等に参加し、OIST について紹介するとともに科学デモを行いました。また、第 7 回 SCORE を開催し、県内高校 8 校から 12 チームが参加し	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
ト「SCORE」を引き続き実施します。 4135 OIST ファンクラブの活動を本格スタートし、会員への OIST 情報提供、イベントに参画する機会を提供します。 4136 引き続き琉球大学その他の県内大学インターン生を受入れ、広報ディビジョン内の業務を経験させるとともに本学学生等との交流も促進します。 4137 離島地域での出前授業を若手研究員学生の協力を得て継続実施します。 4138 沖縄県及び沖縄観光コンベンションビューローとの連携に加え、新たに認定された MICE 誘致アンバサダーの資格による日本政府観光局からの支援を有効に利用しつつ、より多くの優れた外部主催の国際会議・ワークショップを本学で開催し、本学の研究者や学生が参加者との連携や学術的地位が向上するよう図ります。		研究および社会での応用についての提案を競いました。 4135 人的制約により他プログラムに比べ優先順位の低い同クラブの設立は見送ることとした。 4136 琉球大学から地域連携業務に 3 名、通訳業務に 2 名、メディア業務に 3 名、計 8 名の学生を受入れ、それぞれ業務を体験し、本学の各部門職員、学生とも意見交換等交流しました。学生達は「こども科学教室」の業務にも携わりました。 4137 離島（伊平屋島、宮古島、石垣島）にて若手研究員、学生による講演、科学デモンストレーション、トークを実施しました。 4138 カンファレンス・センターやメイン・キャンパス及びシーサイド・ハウスの会議施設を積極的に外部の団体などに貸し出し、21 件の外部機関主催・共催学会・会議、および 38 件のその他外部団体イベントでのべ 6,473 人が施設を利用しました。 特筆すべきイベントとしては、FY2017 に日本で初めての開催となった「ハーバード大学医学部臨床研究教育プログラム」が 2 年目のプログラムも本学で開催したことや、日本学術振興会が主催する第 11 回 HOPE ミーティングに会場を提供し、のワークショップや、「第 14 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」、「サンゴ礁大規模白化緊急対策会議」、日本学術振興会科学研究費	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績		自己評価																								
			補助金による複数の新学術領域研究会開催の会場となったことなどがあげられます。 <table><tr><td></td><td>事務職 他</td><td>技術員</td><td>研究員</td><td>合計</td><td>割合</td></tr><tr><td>沖縄県 出身者</td><td>120</td><td>15</td><td>60</td><td>195</td><td>23.24%</td></tr><tr><td>県外</td><td>154</td><td>56</td><td>434</td><td>644</td><td>76.76%</td></tr><tr><td>合計</td><td>274</td><td>71</td><td>494</td><td>839</td><td>100.0%</td></tr></table>			事務職 他	技術員	研究員	合計	割合	沖縄県 出身者	120	15	60	195	23.24%	県外	154	56	434	644	76.76%	合計	274	71	494	839	100.0%	
	事務職 他	技術員	研究員	合計	割合																								
沖縄県 出身者	120	15	60	195	23.24%																								
県外	154	56	434	644	76.76%																								
合計	274	71	494	839	100.0%																								
第 5 章 キャンパス整備・大学コミュニティの形成、安全確保及び環境への配慮に関する事項																													
5.1 キャンパス整備 目標	引き続き、本学は、計画通り、キャンパスの整備を進めます。				A																								
5.1 キャンパス整備 取組:	5101 OIST の段階的拡張に基づき、平成 26 年度に作成されたマスタープランの検討、及び更新を引き続き行います。 5102 第 5 研究棟の基本設計を開始するとともに、今後の第 5 研究棟に係る実施設計等について検討を行います。		5101 キャンパスの将来の展開を考えるタスクフォース（施設部副学長が議長）におけるスタディーと時を同じくして、修正マスタープラン策定の為のスタディーを開始しました。初期調査として本学の将来人口、研究及びアドミの為に要求されるスペース等が今年度検討され、次年度も引き続き行なわれます。コンサルタントによる修正マスタープランの設計に関する調査も開始され、次年度も引き続き行われます。 5102 Lab 5 の基本設計を行うコンサルタントを選定し、25 名の PI の為の研究スペースと動物実験施設を含む研究棟の基本設計を完了しました。																										

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	5103 第4研究棟及び第4研究棟につながる道路や橋を含めた設備やインフラ整備を計画的に行い、完成します。 5104 引き続き、将来の R&D ゾーン及びオンキャンパスハウジングの建設について、インフラ及び土木工事のコスト分析及び実現性を検討します。 5105 第1期として、リサーチインキュベータ施設と必要なインフラを早期に整備し、使用を開始します。また、30 年度整備のインキュベーター施設の運用状況を踏まえ今後の整備等を検討します。 5106 既存のキャンパスビルディング及び施設の運用及び維持を行います。 5107 透明性を確保するため、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）に基づき、入札スケジュールや結果等の入札前後の		5103 今年度夏には大型台風が上陸しましたが、Lab 4 関連の工事（建屋建設工事、埋設配管工事、土木工事を含む）は全て計画通りに施工されました。 5104 新規住宅部のインフラ及び造成工事に関するコスト分析及び実現性の検討が予定通りに完了し、工事は次年度に開始されます。R&D ゾーンのインフラに関するコスト分析及び実現性の検討も完了しており、設計及び工事については概算要求が承認され次第開始する計画です。 5105 最初のインキュベーター施設及び必要なインフラは計画通りに完成しました。施設の運用は TDIC を通して開始されています。 5106 2018 年度の施設設備の維持管理業務は、新設・増設された CDC、インキュベーター施設、駐車場、構内道路、既存施設内の改修された研究室、工作室なども対象とされました。既存の施設・設備、新設・増設された施設・設備は、施設管理部と施設管理部が業務委託している施設管理専門業者とが協力して、大きな事故やトラブルも無く適切に維持管理されています。 5107 入札における透明性及び情報開示は本学全ての部署において重要視されています。数多くの入札の中で、大型案件としては、Lab 4 の建設及び土木工事、Lab	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	情報開示を引き続き推進します。		5 の基本設計、PFI 住宅事業が挙げられますが、これらは全て公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）に基づいて行われました。	
5.2 大学コミュニティの形成、 子弟の教育・ 保育環境の向上 目標	職員及び学生やその家族を含む大学コミュニティの発展は、大学運営を成功させる上でも重要であることから、引き続きその推進に努めます。人員及びサービスの拡大や、リソース・センターやチャイルド・ディベロップメント・センター（CDC）を通じて、教職員の教育及び保育環境の向上を図ります。また、今後とも増加が見込まれる職員、学生及びその家族のため、キャンパス内外での新たなハウジング整備について検討を進めます。			A
5.2 大学コミュニティの形成、 子弟の教育・ 保育環境の向上 取組	（大学コミュニティの形成） 5201 OIST 関係者に対するサービス改善のためリソース・センターの情報収集方法を改善します。保健センターの新規職員が業務を開始し、トレーニングを受けます。その後、OIST クリニックの再開について検討を行います。保健センター及びがんじゅうサービスと連携し、OIST 職員向けのサービス向上に努めます。CDC の人材配置モデルを構築し、良質な保育を確保する CDC の予算と過去の予算執行を分析し、経費を抑制し、小学生を対象とした STEM 教育を提供するための学童プランを構築します。引き続き、本学のコミュニティを形成する教職員・学生ならびにその家族の他、短期滞在の外部職員に対しても学内外の施設の情報提供とサポート体制づくりを継続して行います。上記の目標を達成するため、保育サービス、ファミリーサポート、フードサー		（大学コミュニティの形成） 5201 （a）以前は、リソース・センターのユーザーに関する情報は共有のメール・アカウントに収集されていました。ユーザーの種類（教員、学生、事務職員、家族など）とサービスの利用状況（運転免許証の変換、携帯電話の SIM カードの取得など）を追跡することで改善されました。これらの情報を収集するために新規スタッフを配置し訓練しました。 （b）クリニックは、大学コミュニティ支援オフィス（UCS）と保健センターのマネジャーおよび新しい産業医との間で何度かミーティングを開催しました。プロボストと協議し、限られた時間内でクリニックを再開するという結論に達し、今年度末に再開しました。次年度の初めに、クリニックは UCS の監督下に置かれます。	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
ビス、健康・医療サポートや生活におけるニーズのサポートに関連した人事サービス機能の強化を行います。		保健センターのマネジャーと産業医はタスクフォース 5 に参加し、現在および将来の本学の健康上のニーズが特定されました。がんじゅうのスタッフは他の UCS 部門と定期的にミーティングを行い、本学コミュニティの心の満足を提供するための最善の策について話し合っています。がんじゅうのスタッフはタスクフォース 5 に参加し、現在のサービスを維持し拡張する計画を立てました。 (c) CDC が開園した当初は先生 6 人、アドミ職員 1 人、園長 1 人で、園長が管理できる丁度良い人数でした。2017 年には園長 1 人で 30 人以上のスタッフを管理しなければならず、平坦な組織構造だったため管理者が 1 人しかおらず、対処できる仕事量ではありませんでした。CDC は保育園業務を補助する副園長を 1 人、新たに学童を管理するプログラム・ディレクターの 2 つのポジションをリクエストし、獲得することができました。CDC は、子供の数の増加に対応するため、教師の新規採用において UCS と協力してきました。また、小中学校プログラムの教師採用でも UCS と協力してきました。両教師は、次年度初めより OIST で働き始める予定です。これにより、本学職員および学生の子供たちに、放課後および休日プログラムを提供するための「小中学校プログラム」の機能が向上します。 (d) CDC が大学コミュニティ支援オフィスに移行したことにより、CDC の予算検討および支出履歴の評価について、シニア・マネジャーおよびビジネス・バックグラウンドを持つスペシャリストによる専門的なサポートを受けられることになりました。UCS のビジネス・ア	

平成 30 年度事業計画	指標	平成 30 年度業績	自己 評価
5202 OIST が拡大するにつれ、公認クラブの数も増えているため、大学の基本方針やルールに違反しないよう適切に管理することが必要です。管理業務はリソース・センターが行います。 5203 レジストレーション・デスクは引き続き客員研究員、招聘ゲストの窓口として対象者をデータベースに登録をし、受入支援を行います。この機能は現在リソース・センターがウェブサイトの強化等により担っています。		ナリストは、今年度の途中に着任し、CDC の財務分析が現在進行中です。財務ディビジョンを通じて、必要なすべての情報および文書へのアクセスが許可されるまでにはしばらく時間がかかりました。 (e) より安定した放課後および休日プログラムを提供するために、小中学校プログラム・ディレクターおよび経験豊富な専任の小中学校プログラム教師を採用しました。 (f) これらの機能は、2018 年 6 月/ 7 月に HR から UCS に移管されました。UCS は、サービス提供を維持し、本学全体に拡大しました。 5202 クラブ活動の監視は、新たに雇用されたレクリエーション・サービス・ディレクターに移管されました。本学の統括弁護士と協議しながら、クラブ活動のための規則や手続きの策定、クラブによる学内スペースの使用など、クラブに対するより厳格な管理を行っています。クラブ活動を行うには登録が必要であり、申請されたクラブについて審査するための承認プロセスも整備し、大学の規則や規制に違反しないように確認しています。すべての関連資料は、レクリエーション・サービスの Web サイトに掲載しています。 5203 レジストレーション・デスクの機能は、引き続きリソース・センターで担っており、円滑な客員研究員の受入支援を行っています。また、リソース・センターは、リサーチ・ユニット・アドミニストレーター(RUA)からの要求に応じて、招聘ゲスト用 ID カードの対応を	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
	5204 OIST の規模拡大に伴い必要となるハウジングとして、既設 PPP 住宅エリアへの増設のために造成・基幹整備の設計・工事を行います。同時に PPP 整備事業として住宅整備を開始します。また、新規の PFI 手法による住宅整備事業を開始します。同時に、PFI 住宅整備敷地の造成・インフラ整備の設計を開始します。また、オフ・キャンパス・ハウジングとして、恩納村米軍通信跡地開発事業者と協議を引き続き行います。		行っています。 5204 PPP 住宅第 2 フェーズの契約が今年度締結され、設計業務が開始されました。造成関連の設計は完了し、造成工事が開始されました。 PFI 住宅に関しては、公示、事業者選定、契約締結が今年度に行われました。造成の設計も完了し次年度には造成工事が開始されます。 恩納村の通信基地跡地の開発計画は現在恩納村主導で進められており、本学も計画コミッティーの一員として参加しています。	
5.2 大学コミュニティの形成、 子弟の教育・ 保育環境の向上 取組	(子弟の教育・保育環境) 5205 教職員及び学生の子弟の教育環境の向上を図るため、引き続き沖縄県や恩納村等の関係する地方公共団体と連携・協力し、英語による教育を受ける機会の拡大に努めます。 5206 CDC 施設や放課後クラスを活用し、引き続き質の高い、完全なバイリンガルの保育、学童保育及びホリデープログラムを適切な受益者負担のもと提供します。CDC 運営委員会は、引き続き四半期に一度会議を開くとともに、CDC 財務委員会会議を別途行うことにより、園の予算について厳重な注意が常に払われるよう徹底します。これらプログラムに参加する子弟の数は着		(子弟の教育・保育環境) 5205 恩納小学校に通っている本学職員の子供たちを支援するために、英語を母国語とする資格を持ったフルタイムの教師を採用し、子供たちに語学のカリキュラムを提供しています。教師は、恩納小学校に通う子供の両親と定期的なミーティングを開催し、進捗について話し合っています。また、恩納小学校校長とも定期的なミーティングを開催し、良好な関係を維持しています。 5206 CDC の 2 期工事が完了したので、CDC と小中学生プログラム（放課後および休日プログラム）は現在同じ建物内にあります。CDC 理事会は、監督体制について議論するために昨年 2 回会合を行いました。プログラムの申し込みと、すべてのプログラムに対する適切な料金の評価を継続します。UCS がビジネス・アナリストを採用したことにより、CDC 予算の日常的な監督	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
	実に増加しています。CDC の規模を拡充し、また、放課後クラスの運営等により対応していきます。 5207 恩納小学校での英語教育プログラムなど教職員・学生の子弟にとって有効な教育の機会を提供していきます。OIST 教職員・学生の子弟のため、国際的な教育環境の在り方について検討を行います。 5208 平成 30 年度には、職員とその家族に対して提供される英語及び日本語クラスの数を維持します。語学訓練への需要は非常に高く、英語と日本語におけるコミュニケーション能力は本学の成功の土台です。(再掲。2.4 参照)		業務の多くは、UCS オフィスに移管されました。 5207 恩納小学校に通う本学職員の子供たちを支援するために、フルタイムの教師を採用しました。教師は、恩納小学校に通う子供の両親と定期的なミーティングを開催しています。本学職員家族の教育ニーズを特定するための取り組みの一環として、今年度末にアンケート調査を実施しました。この調査の結果は現在分析中です。 5208 本学では前年度に引き続き同等の語学コース数を運営し、42 の日本語クラスと 30 の英語クラスを開講しました。日本語クラスを受講した学生は 549 人、英語クラスを受講した学生は 397 人でした。さらに、英語クラスでは大学院、CPR、および教員担当学監オフィスと連携し、本学職員のためのセミナーやトレーニングを実施しました。また、英語クラブやドロップイン・サポート(受講生が講師のオフィスに直接出向いて疑問を解決すること)を毎週本学職員及びその家族に提供しました。日本語クラスではサバイバル日本語セミナーを行い、「落語」や「豆まき」などの文化イベントの提供に加えて、学長への会話コースを実施しました。	
5.2 大学コミュニティの形成、 子弟の教育・	(学生支援) 5209 学生に対し、良好な社会的・心理的な環境を提供するため、福利厚生を含む様々な支援活動を推進します。		(学生支援) 5209 学生支援については、県内の他大学に在籍する学生から、ピア・メンター・プログラムを通し日常生活に関する支援が継続して提供されました。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己評価
保育環境の向上 取組	5210 引き続き、学生や OIST メンバーためのスポーツ、レクリエーション、社会活動の場を改善するよう努めます。		全般的な生活支援については、社会文化見学や交流会を企画・開催し、県内の他大学の学生との交流を図りました。また、学生主体の活動の管理を行いました。 5210 今年度シーサイド・ハウスにおいては、交流の場としてのホールが完成しました。運動場は新規住宅の設計に含まれています。スポーツ及びレクリエーション施設は本学の将来計画の重要な要素としてマスタープランのスタディーに含まれています。	
5.3 安全の確保及び環境への配慮 目標 (1)	キャンパス全体の事業継続計画を策定し、災害から教職員、学生、訪問者等を守るため、必要な防災対策を実施します。			A
5.3 安全の確保及び環境への配慮 取組 (1)	5301 新たに採用した緊急対応コーディネーターを中心に、キャンパス全体の事業継続計画を策定し、必要なリスク対策を講じます。 5302 職員や学生に対する安全に関する必要な研修を実施します。 5303 恩納村とも協力しながら、災害に強いキャンパス作りを進め、災害の際にはキャンパス施設を近隣住民の避難場所として提供します。		5301 地震・津波、パンデミック、火災、巨大台風など重要な 7 つの事業継続計画を作成しました。 5302 火災・地震・津波について、教職員・学生に教育訓練を実施しました。 5303 緊急対応コーディネーター及び他のセクション、ディビジョンと協力しながら、災害時用備蓄品の準備を含む災害時の対策を構築中です。また、災害時における復旧計画及び学園業務継続計画についても、更に詳細な対応策を検討中です。災害時の谷茶区住民、恩納村役場との連携は、地域連携セクションを中心に協力しながら計画を進めています。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
5.3 安全の確保及 び環境への配 慮 目標 (2)	環境に配慮しながら事業を実施します。			A
5.3 安全の確保及 び環境への配 慮 取組 (2)	5304 リン引き続きリサイクル製品の使用を推進します。 5305 リン引き続き、温室効果ガス排出量とエネルギー消費を把握し、その抑制に努めます。 5306 水の再利用システムの適切な運用管理により、周辺水域への環境負荷の低減に努めます。また併せて地下水への影響が無いようにします。 5307 施設整備に伴う各種建設工事においては、濁水プラント施設を設置するなど、赤土流出対策を十分に行います。		5304 リンサイクル可能な製品の使用を促進するために、他の部門およびユニットとの継続的な協力を行いました。 5305 施設管理部を中心に省エネルギー推進委員会を組織し、勤務時間外や休日の空調や照明の制限などを含めた全学的な取り組みを推進しています。また、Lab 4 やその他将来新築する施設用の熱源導入に ESP (エネルギー・サービス・プロバイダー) のスキームを活用し、プロバイダーの専門的知見を元に施設に適合した設備の導入を進めています。この熱源設備には重油に代わる天然ガスを利用したジェネレーション・システムを備えており、温室効果ガス排出量の大幅な削減及びエネルギー・コスト削減が期待できます。 5306/5307 本年度に発生した大雨や台風にも関わらず、建設現場から流出する赤水は濁水プラントを通すことや、また、建設現場への事前の定期的な調査によって適切に海へ放流されました。キャンパスやシーサイド・ハウスの台風被害は一部を除き復旧がなされました。本学の排水は高品質な処理施設を通して適切に処理され再利用されています。その処理施設は、定期的に点検・検査を行うことで品質を維持しています。	

平成 30 年度事業計画		指標	平成 30 年度業績	自己 評価
	5308 生態系の維持や固有生物種の保護に資するようキャンパス施設・敷地の管理を行います。		5308 本学は、要求水準の高い環境アセスメントに基づいたキャンパス開発を行う為に、キャンパスの自然環境の定期的な調査をコンサルティング業者へ業務委託しています。この業者は調査だけではなく、新規開発エリアが環境へ与える影響を最小限に抑えるための方策の提案なども行います。それにより、新しく作られた建物や道路は環境への影響を最小限に抑えるように計画されました。その結果、キャンパス内の在来生物は、健全な自然環境の中で変わらず生息していることが確認されています。	

平成30年度 業務実績報告 添付資料リスト

No.	File No.	資料名
1	1. 1-1	学生に関する情報
2	1. 2-1	平成30年度 OIST論文・発表数
3	1. 2-2	平成30年度 研究に関する受賞実績
4	1. 2-3	平成30年度 アウトリーチ活動実績
5	1. 2-4	平成30年度 OIST 研究施設の外部利用者
6	1. 4-1	学術交流協定一覧
7	1. 4-2	平成30年度 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム
8	2. 4-1	平成30年度 職位毎・国籍別職員数
9	2. 4-2	平成30年度 職員の給与水準
10	2. 4-3	平成30年度 研修の受講職員数
11	3. 1	外部資金・寄附金獲得状況
12	4. 1	特許状況
13	4. 2	平成30年度 受託研究等(産学連携)及びイベント

List of Attachment Documents to the FY2018 Performance Report

No.	File No.	Document Name
1	1. 1-1	Students Information
2	1. 2-1	FY2018 OIST Publications and Presentations
3	1. 2-2	FY2018 Research Honors
4	1. 2-3	FY2018 Outreach by Faculty and Researchers
5	1. 2-4	FY2018 The number of use of our research facilities by external organizations
6	1. 4-1	Academic Exchange Agreements List
7	1. 4-2	FY2018 List of OIST Funded Workshops/Mini-Symposia
8	2. 4-1	FY2018 Number of Employees
9	2. 4-2	FY2018 Salary Level of Employee
10	2. 4-3	FY2018 Number of Employees Taking Training Programs
11	3. 1	FY2018 External Grants and Donations Table
12	4. 1	Patent Status
13	4. 2	FY2018 Industry-related Collaboration and Innovation Seminars and Events

添付資料 1. 1-1 学生に関する情報

	No. of Applicants	No. of candidates attended admissions workshop	No. of offers made to applicants	No. of Students Admitted	No. of Males	No. of Females	Distribution of ages	Nationality	Major/Scientific Field	BS	MS	University
Class of 2018	502	114	60	34	20	14	22 (2) 23 (8) 24 (8) 25 (4) 26 (3) 27 (6) 28 (2) 29 (1) Average (24.9)	Argentina (1) Brazil (1) China (6) Colombia (1) Croatia (1) Egypt (1) India (7) Indonesia (1) Italy (1) Japan (1) Kazakhstan (2) Philippines (1) Russian Federation (3) Spain (1) Taiwan (2) United Kingdom (3) Viet Nam (1)	Biochemistry (1) Bioinformatics (1) Chemistry (4) Education and Rehabilitation Sciences (1) Environmental, Ecological, Marine (3) Mathematical and Computational Sciences (3) Molecular, Cell Developmental Biology (7) Neuroscience (5) Physics, Material Sciences (9)	9	25	Bandung Institute of Technology Beijing Normal University Cambridge University Doshisha University Edmond and Lily Safra International Institute of Neurosciences Ain Shams University Imperial College London Indian Institute of Science Education and Research (3) National Center for Biological Sciences, Tata Inst (2) National Institute of Technology Calicut National Taiwan Normal University National Technological University National Tsing Hua University Nazarbayev University (2) Novosibirsk State University Shanghai University Southern University of Science and Technology (2) Sun Yat-sen University Università di Bologna Universiteit van Amsterdam - Vrije Universiteit University of Barcelona University of Bristol University of Cape Town University of Edinburgh University of Science, Vietnam National University University of the Basque Country University of the Philippines Diliman University of Tsukuba University of Zagreb

平成30年度 研究成果（ユニット別）
FY2018 Scientific Productivity Summarized by Unit

	Books	Book Chapters & Journal Articles	Presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
Administration	0	3	0	0	3
Arbuthnott	0	5	4	0	9
Bandi	0	4	6	0	10
Bourguignon	0	7	14	0	21
Busch	0	12	46	0	58
Chakraborty	0	3	23	0	26
Dani	0	7	21	1	29
De Schutter	0	5	6	0	11
Doya	0	5	42	1	48
Economo	0	23	25	0	48
Faculty Affairs	0	2	0	0	2
Feng (New)	0	1	7	0	8
Fried	0	7	12	0	19
Fukunaga	0	2	2	0	4
Gioia	0	1	16	1	18
Goryanin	0	1	15	0	16
Graduate School	0	1	0	0	1
Hikami	0	8	21	0	29
Ishikawa	0	1	7	0	8
Khusnutdinova	0	5	3	0	8
Kitano	0	2	12	0	14
Kono	0	1	12	0	13
Konstantinov	0	7	8	0	15
Kuhn	0	3	23	0	26
Kusumi	0	3	16	0	19
Laurino	0	3	11	0	14
Luscombe	0	9	1	0	10
Maruyama	0	2	9	0	11
Masai	0	5	15	0	20
Mikheyev	0	5	15	0	20
Miller	0	6	15	0	21
Mitarai	0	13	18	0	31
Narita (New)	0	3	0	0	3

	Books	Book Chapters & Journal Articles	Presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
Neiman	0	4	9	0	13
Nic Chormaic	0	12	49	0	61
Okada	0	3	7	0	10
Pauly	0	6	12	0	18
Pigolotti	0	4	21	0	25
Qi	0	24	3	0	27
Research Support	0	18	8	0	26
Rokhsar	0	4	6	0	10
Satoh	0	46	28	0	74
Saze	0	5	8	0	13
Shannon	0	8	31	0	39
Shen	0	21	45	0	66
Shintake	0	5	14	0	19
Skoglund	0	7	5	0	12
Sowwan	0	4	8	0	12
Stephens	0	3	13	0	16
STG	0	4	10	0	14
Sugawara	0	12	0	0	12
Takahashi	0	0	13	0	13
Tanaka	0	6	9	0	15
Tani	0	7	19	0	26
Toriumi (New)	0	0	2	0	2
Tripp	0	1	3	0	4
Tsvietkova	0	3	27	0	30
Uusisaari	0	3	14	0	17
Van Vactor	0	0	4	0	4
Watanabe	0	4	13	0	17
Wickens	0	9	7	0	16
Wolf	0	6	5	0	11
Yamamoto	0	8	30	0	38
Yanagida	0	8	17	0	25
Yazaki-Sugiyama	0	3	6	0	9
Yokobayashi	0	5	8	0	13
Zhang	0	1	12	0	13

	Books	Book Chapters & Journal Articles	Presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
Totals	0	416	891	3	1310

備考：複数ユニットが共同で出版した論文は、各研究ユニットの論文数としてカウントされるため、全研究ユニットの論文数の合計は、大学全体の論文数よりも多くなります。

OISTの論文数・発表数（平成24～30年度）

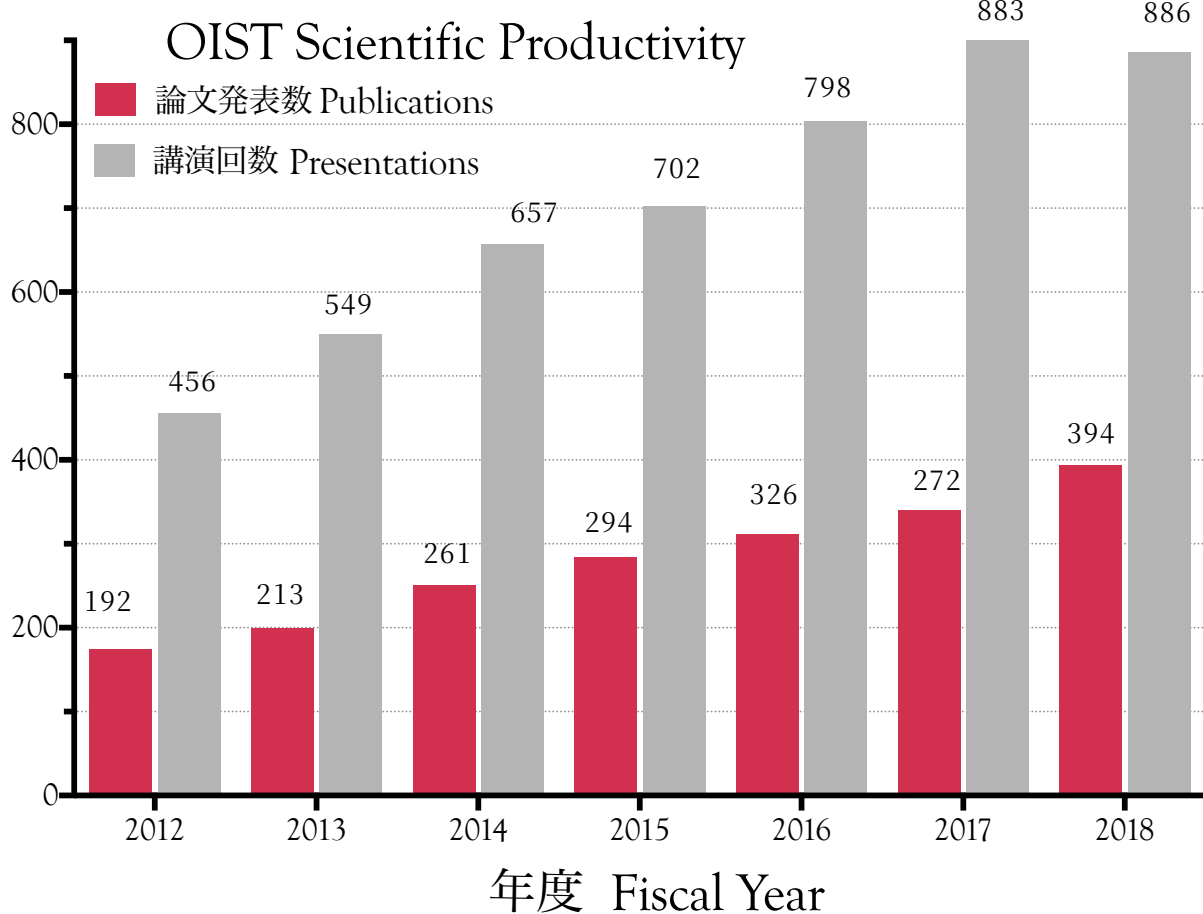
OIST Scientific Productivity

Fiscal Year	書籍の執筆 及び編集	書籍の章及び 学術論文の執筆	学会でのプレゼン	セミナー	博士論文	発表数	論文数
	Books and Edited Books	Book Chapters and Journal Articles	Conference Presentations	Seminars	Dissertations	Presentations	Publications
FY2012	0	192	309	147	0	456	192
FY2013	2	211	430	119	0	549	213
FY2014	0	261	491	166	0	657	261
FY2015	2	292	535	167	1	702	294
FY2016	2	324	616	182	4	798	326
FY2017	2	270	692	191	7	883	272
FY2018	1	393	703	183	3	886	394

OIST Scientific Productivity

OISTの論文発表数・講演回数

論文発表数 Publications
講演回数 Presentations



OIST FY2018 Publication List

OIST論文数 - 著者別（平成30年度）

1. Abudukeyoumu, N., Hernandez-Flores, T., Garcia-Munoz, M., Arbuthnott, G.W., 2019. Cholinergic modulation of striatal microcircuits. *European Journal of Neuroscience* 49, 604-622.
2. Ackerman, E.E., Kawakami, E., Katoh, M., Watanabe, T., Watanabe, S., Tomita, Y., Lopes, T.J., Matsuoka, Y., Kitano, H., Shoemaker, J.E., Kawaoka, Y., 2018. Network-guided discovery of influenza virus replication host factors. *MBio* 9.
3. Agavekar, G., Agashe, D., Economo, E.P., 2018. Dimensions of ant diversity on a small tropical island. *Insect Conserv Diver*, 1-11.
4. Aharonian, F., Akamatsu, H., Akimoto, F., Allen, S.W., Angelini, L., Audard, M., Awaki, H., Axelsson, M., Bamba, A., Bautz, M.W., Blandford, R., Brenneman, L.W., Brown, G., V, Bulbul, E., Cackett, E.M., Chernyakova, M., Chiao, M.P., Coppi, P.S., Costantini, E., de Plaa, J., de Vries, C.P., den Herder, J.-W., Done, C., Dotani, T., Ebisawa, K., Eckart, M.E., Enoto, T., Ezoe, Y., Fabian, A.C., Ferrigno, C., Foster, A.R., Fujimoto, R., Fukazawa, Y., Furuzawa, A., Galeazzi, M., Gallo, L.C., Gandhi, P., Giustini, M., Goldwurm, A., Gu, L., Guainazzi, M., Haba, Y., Hagino, K., Hamaguchi, K., Harrus, I.M., Hatsukade, I., Hayashi, K., Hayashi, T., Hayashida, K., Hiraga, J.S., Hornschemeier, A., Hoshino, A., Hughes, J.P., Ichinohe, Y., Iizuka, R., Inoue, H., Inoue, Y., Ishida, M., Ishikawa, K., Ishisaki, Y., Iwai, M., Kaastra, J., Kallman, T., Kamae, T., Kataoka, J., Katsuda, S., Kawai, N., Kelley, R.L., Kilbourne, C.A., Kitaguchi, T., Kitamoto, S., Kitayama, T., Kohmura, T., Kokubun, M., Koyama, K., Koyama, S., Kretschmar, P., Krimm, H.A., Kubota, A., Kunieda, H., Laurent, P., Lee, S.-H., Leutenegger, M.A., Limousin, O., Loewenstein, M., Long, K.S., Lumb, D., Madejski, G., Maeda, Y., Maier, D., Makishima, K., Markevitch, M., Matsumoto, H., Matsushita, K., McCammon, D., McNamara, B.R., Mehdipour, M., Miller, E.D., Miller, J.M., Mineshige, S., Mitsuda, K., Mitsuishi, I., Miyazawa, T., Mizuno, T., Mori, H., Mori, K., Mukai, K., Murakami, H., Mushotzky, R.F., Nakagawa, T., Nakajima, H., Nakamori, T., Nakashima, S., Nakazawa, K., Nobukawa, K.K., Nobukawa, M., Noda, H., Odaka, H., Ohashi, T., Ohno, M., Okajima, T., Ota, N., Ozaki, M., Paerels, F., Paltani, S., Petre, R., Pinto, C., Porter, F.S., Pottschmidt, K., Reynolds, C.S., Safi-Harb, S., Saito, S., Sakai, K., Sasaki, T., Sato, G., Sato, K., Sato, R., Sawada, M., Schartel, N., Serlemitsos, P.J., Seta, H., Shidatsu, M., Simionescu, A., Smith, R.K., Soong, Y., Stawarz, L., Sugawara, Y., Sugita, S., Szymkowiak, A., Tajima, H., Takahashi, H., Takahashi, T., Takeda, S., Takei, Y., Tamagawa, T., Tamura, T., Tanaka, T., Tanaka, Y., Tanaka, Y.T., Tashiro, M.S., Tawara, Y., Terada, Y., Terashima, Y., Tombesi, F., Tomida, H., Tsuboi, Y., Tsujimoto, M., Tsunemi, H., Tsuru, T.G., Uchida, H., Uchiyama, H., Uchiyama, Y., Ueda, S., Uno, S., Ueda, Y., Urry,

C.M., Ursino, E., Watanabe, S., Werner, N., Wilkins, D.R., Williams, B.J., Yamada, S., Yamaguchi, H., Yamaoka, K., Yamasaki, N.Y., Yamauchi, M., Yamauchi, S., Yaqoob, T., Yatsu, Y., Yonetoku, D., Zhuravleva, I., Zoghbi, A., Sato, T., Nakaniwa, N., Murakami, H., Guest, B., 2018. Hitomi X-ray observation of the pulsar wind nebula G21.5-0.9. Publications of the Astronomical Society of Japan 70, 16.

5. Aharonian, F., Akamatsu, H., Akimoto, F., Allen, S.W., Angelini, L., Audard, M., Awaki, H., Axelsson, M., Bamba, A., Bautz, M.W., Blandford, R., Brenneman, L.W., Brown, G.V., Bulbul, E., Cackett, E.M., Chernyakova, M., Chiao, M.P., Coppi, P.S., Costantini, E., de Plaa, J., de Vries, C.P., den Herder, J.W., Done, C., Dotani, T., Ebisawa, K., Eckart, M.E., Enoto, T., Ezoe, Y., Fabian, A.C., Ferrigno, C., Foster, A.R., Fujimoto, R., Fukazawa, Y., Furuzawa, A., Galeazzi, M., Gallo, L.C., Gandhi, P., Giustini, M., Goldwurm, A., Gu, L.Y., Guainazzi, M., Haba, Y., Hagino, K., Hamaguchi, K., Harrus, I.M., Hatsukade, I., Hayashi, K., Hayashi, T., Hayashida, K., Hiraga, J.S., Hornschemeier, A., Hoshino, A., Hughes, J.P., Ichinohe, Y., Iizuka, R., Inoue, H., Inoue, Y., Ishida, M., Ishikawa, K., Ishisaki, Y., Iwai, M., Kaastra, J., Kallman, T., Kamae, T., Kataoka, J., Katsuda, S., Kawai, N., Kelley, R.L., Kilbourne, C.A., Kitaguchi, T., Kitamoto, S., Kitayama, T., Kohmura, T., Kokubun, M., Koyama, K., Koyama, S., Kretschmar, P., Krimm, H.A., Kubota, A., Kunieda, H., Laurent, P., Lee, S.H., Leutenegger, M.A., Limousin, O., Loewenstein, M., Long, K.S., Lumb, D., Madejski, G., Maeda, Y., Maier, D., Makishima, K., Markevitch, M., Matsumoto, H., Matsushita, K., McCammon, D., McNamara, B.R., Mehdipour, M., Miller, E.D., Miller, J.M., Mineshige, S., Mitsuda, K., Mitsuishi, I., Miyazawa, T., Mizuno, T., Mori, H., Mori, K., Mukai, K., Murakami, H., Mushotzky, R.F., Nakagawa, T., Nakajima, H., Nakamori, T., Nakashima, S., Nakazawa, K., Nobukawa, K.K., Nobukawa, M., Noda, H., Odaka, H., Ohashi, T., Ohno, M., Okajima, T., Ota, N., Ozaki, M., Paerels, F., Paltani, S., Petre, R., Pinto, C., Porter, F.S., Pottschmidt, K., Reynolds, C.S., Safi-Harb, S., Saito, S., Sakai, K., Sasaki, T., Sato, G., Sato, K., Sato, R., Sawada, M., Schartel, N., Serlemitsos, P.J., Seta, H., Shidatsu, M., Simionescu, A., Smith, R.K., Soong, Y., Stawarz, L., Sugawara, Y., Sugita, S., Szymkowiak, A., Tajima, H., Takahashi, H., Takahashi, T., Takeda, S., Takei, Y., Tamagawa, T., Tamura, T., Tanaka, T., Tanaka, Y., Tanaka, Y.T., Tashiro, M.S., Tawara, Y., Terada, Y., Terashima, Y., Tombesi, F., Tomida, H., Tsuboi, Y., Tsujimoto, M., Tsunemi, H., Tsuru, T.G., Uchida, H., Uchiyama, H., Uchiyama, Y., Ueda, S., Ueda, Y., Uno, S., Urry, C.M., Ursino, E., Watanabe, S., Werner, N., Wilkins, D.R., Williams, B.J., Yamada, S., Yamaguchi, H., Yamaoka, K., Yamasaki, N.Y., Yamauchi, M., Yamauchi, S., Yaqoob, T., Yatsu, Y., Yonetoku, D., Zhuravleva, I., Zoghbi, A., Uchida, Y., Hitomi, C., 2018. Detection of polarized gamma-ray emission from the Crab nebula with the Hitomi Soft Gamma-ray Detector. Publications of the Astronomical Society of Japan 70, 19.

6. Aird, S.D., Silva Jr., N.J., Qiu, L., Villar-Briones, A., Saddi, V.A., Campos Telles, M.P.d., Grau, M.L., Mikheyev, A.S., 2018. Addendum: Aird, S.D. et al. Coralsnake Venomics: Analyses of Venom Gland Transcriptomes and Proteomes of Six Brazilian Taxa. *Toxins* 10.
7. Akella, V.S., Bandi, M.M., Hentschel, H.G.E., Procaccia, I., Roy, S., 2018. Force distributions in frictional granular media. *Physical Review E* 98.
8. Alberola-Borras, J.-A., Vidal, R., Juarez-Perez, E.J., Mas-Marza, E., Guerrero, A., Mora-Sero, I., 2018. Relative impacts of methylammonium lead triiodide perovskite solar cells based on life cycle assessment. *Solar Energy Materials and Solar Cells* 179, 169-177.
9. Aoki, S., Coulon, P., Ruigrok, T.J.H., 2019. Multizonal cerebellar influence over sensorimotor areas of the rat cerebral cortex. *Cerebral Cortex* 29, 598-614.
10. Aoki, S., Liu, A.W., Akamine, Y., Zucca, A., Zucca, S., Wickens, J.R., 2018. Cholinergic interneurons in the rat striatum modulate substitution of habits. *European Journal of Neuroscience* 47, 1194-1205.
11. Apps, R., Hawkes, R., Aoki, S., Bengtsson, F., Brown, A.M., Chen, G., Ebner, T.J., Isope, P., Jorntell, H., Lackey, E.P., Lawrenson, C., Lumb, B., Schonewille, M., Sillitoe, R.V., Spaeth, L., Sugihara, I., Valera, A., Voogd, J., Wylie, D.R., Ruigrok, T.J.H., 2018. Correction to: Cerebellar Modules and Their Role as Operational Cerebellar Processing Units: A Consensus paper. *Cerebellum* 17, 683-684.
12. Apps, R., Hawkes, R., Aoki, S., Bengtsson, F., Brown, A.M., Chen, G., Ebner, T.J., Isope, P., Jorntell, H., Lackey, E.P., Lawrenson, C., Lumb, B., Schonewille, M., Sillitoe, R.V., Spaeth, L., Sugihara, I., Valera, A., Voogd, J., Wylie, D.R., Ruigrok, T.J.H., 2018. Cerebellar Modules and Their Role as Operational Cerebellar Processing Units. *Cerebellum* 17, 654-682.
13. Arbuthnott, G.W., Garcia-Munoz, M., 2018. A cortical substrate for Parkinsonism: A Personal journey. *International Journal of Clinical Research & Trials* 3.
14. Arimoto, A., Nishitsuji, K., Higa, Y., Arakaki, N., Hisata, K., Shinzato, C., Satoh, N., Shoguchi, E., 2019. A siphonous macroalgal genome suggests convergent functions of homeobox genes in algae and land plants. *DNA Research*.
15. Arimoto, A., Tagawa, K., 2018. Regeneration in the enteropneust hemichordate, *Ptychodera flava*, and its evolutionary implications. *Development, Growth and Differentiation* 60, 400-408.
16. Ashworth, W., Stoney, P.N., Yamamoto, T., 2019. States of Decay: The Systems Biology of mRNA Stability. *Current Opinion in Systems Biology*, 1-16.
17. Attig, J., Agostini, F., Gooding, C., Chakrabarti, A.M., Singh, A., Haberman, N., Zagalak, J.A., Emmett, W., Smith, C.W.J., Luscombe, N.M., Ule, J., 2018. Heteromeric RNP Assembly at LINEs Controls Lineage-Specific RNA Processing. *Cell* 174, 1067-+.

18. Augustinaite, S., Heggelund, P., 2018. Short-term synaptic depression in the feedforward inhibitory circuit in the dorsal lateral geniculate nucleus. *Neuroscience* 384, 76-86.
19. Ball, J.R., Yamashiro, Y., Sumiya, H., Onoda, S., Ohshima, T., Isoya, J., Konstantinov, D., Kubo, Y., 2018. Loop-gap microwave resonator for hybrid quantum systems (vol 112, 204102, 2018). *Applied Physics Letters* 113, 1.
20. Bandi, M., 2018. Tension grips the flow. *Journal of Fluid Mechanics* 846, 1-4.
21. Bandi, M.M., Hentschel, H.G.E., Procaccia, I., Roy, S., Zylberg, J., 2018. Training, memory and universal scaling in amorphous frictional granular matter. *Epl* 122.
22. Barato, A.C., Roldán, É., Martínez, I.A., Pigolotti, S., 2018. Arcsine Laws in Stochastic Thermodynamics. *Physical Review Letters* 121.
23. Barlow, J., França, F., Gardner, T.A., Hicks, C.C., Lennox, G.D., Berenguer, E., Castello, L., Economo, E.P., Ferreira, J., Guénard, B., Gontijo Leal, C., Isaac, V., Lees, A.C., Parr, C.L., Wilson, S.K., Young, P.J., Graham, N.A.J., 2018. The future of hyperdiverse tropical ecosystems. *Nature* 559, 517–526.
24. Barros, J.M., Schultz, M.P., Flack, K.A., 2018. Measurements of skin-friction of systematically generated surface roughness. *International Journal of Heat and Fluid Flow* 72, 1 to 7.
25. Baughman, K.W., 2018. The Crown-of-Thorns Starfish: From Coral Reef Plague to Model System. *Results and Problems in Cell Differentiation* 65, 547-568.
26. Beedessee, G., Hisata, K., Roy, M.C., Van Dolah, F.M., Satoh, N., Shoguchi, E., 2019. Diversified secondary metabolite biosynthesis gene repertoire revealed in symbiotic dinoflagellates. *Scientific Reports* 9.
27. Belcaid, M., Casaburi, G., McAnulty, S.J., Schmidbaur, H., Suria, A.M., Moriano-Gutierrez, S., Pankey, M.S., Oakley, T.H., Kremer, N., Koch, E.J., Collins, A.J., Nguyen, H., Lek, S., Goncharenko-Foster, I., Minx, P., Sodergren, E., Weinstock, G., Rokhsar, D.S., McFall-Ngai, M., Simakov, O., Foster, J.S., Nyholm, S.V., 2019. Symbiotic organs shaped by distinct modes of genome evolution in cephalopods. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 116, 3030-3035.
28. Benseny C., A., Reshodko, I., Busch, T., 2018. Entanglement in Spatial Adiabatic Processes for Interacting Atoms. *Few-Body Systems* 59.
29. Benton, O., Jaubert, L.D.C., Singh, R.R.P., Oitmaa, J., Shannon, N., 2018. Quantum spin ice with frustrated transverse exchange: from a pi-flux phase to a nematic quantum spin liquid. *Physical Review Letters* 121, 067201.

30. Bhalla, N., Chiang, H.-J., Shen, A.Q., 2018. Cell biology at the interface of nanobiosensors and microfluidics., *Microfluidics in Cell Biology Part C--Microfluidics on a Molecular Scale*, pp. 203-227.
31. Bhalla, N., Estrela, P., 2018. Exploiting the signatures of nanoplasmon-exciton coupling on proton sensitive insulator-semiconductor devices for drug discovery applications. *Nanoscale* 10, 13320-13328.
32. Bhalla, N., Jamshaid, A., Leung, M.H.M., Ishizu, N., Shen, A.Q., 2019. Electrical contact of metals at nanoscale overcomes the oxidative susceptibility of silver-based nanobiosensors. *ACS Applied Nano Materials*, 1-12.
33. Bohra, M., Chowdhury, D.R., Bobo, J.F., Singh, V., 2019. Anomalous electric transport across Verwey transition in nanocrystalline Fe₃O₄ thin films. *Journal of Applied Physics* 125.
34. Bourguignon, T., Dahlsjö, C.A.L., Salim, K., Evans, T.A., 2018. Termite diversity and species composition in heath forests, mixed dipterocarp forests, and pristine and selectively logged tropical peat swamp forests in Brunei. *Insectes Sociaux* 65, 439-444.
35. Bozek, K., Hebert, L., Mikheyev, A.S., Stephens, G.J., 2018. Towards dense object tracking in a 2D honeybee hive. *Computer Vision and Pattern Recognition*.
36. Brezin, E., Hikami, S., 2018. Random supermatrices with an external source. *Journal of High Energy Physics* 19, 138.
37. Bricogne, C., Fine, M., Pereira, P.M., Sung, J.L., Tijani, M., Wang, Y., Henriques, R., Collins, M.K., Hilgemann, D., 2019. TMEM16F activation by Ca²⁺ triggers plasma membrane expansion and directs PD-1 trafficking. *Scientific Reports* 9.
38. Brisbin, M.M., 2019. Differential gene expression supports a resource-intensive, defensive role for colony production in the bloom-forming haptophyte, *Phaeocystis globosa*. *Journal of Eukaryotic Microbiology*.
39. Brisbin, M.M., Mesrop, L.Y., Grossmann, M.M., Mitarai, S., 2018. Intra-host Symbiont Diversity and Extended Symbiont Maintenance in Photosymbiotic *Acantharea* (Clade F). *Frontiers in Marine Science*, 14.
40. Burshtein, N., Chan, S.T., Toda-Peters, K., Shen, A.Q., Haward, S.J., 2018. Microfluidic fabrication with selective laser-induced etching: New opportunities in fluid dynamics and rheology. *Current Opinion in Colloid and Interface Science*, 1-14.
41. Burshtein, N., Chan, S.T., Toda-Peters, K., Shen, A.Q., Haward, S.J., 2019. 3D-printed glass microfluidics for fluid dynamics and rheology. *Current Opinion in Colloid and Interface Science* 43, 1-14.
42. Burshtein, N., Shen, A.Q., Haward, S.J., 2019. Controlled symmetry breaking and vortex dynamics in intersecting flows. *Physics of Fluids* 31, 1-13.

43. Chakrabarti, A.M., Henser-Brownhill, T., Monserrat, J., Poetsch, A.R., Luscombe, N.M., Scaffidi, P., 2019. Target-Specific Precision of CRISPR-Mediated Genome Editing. *Molecular Cell* 73, 699-+.
44. Chan, S.T., Haward, S.J., Shen, A.Q., 2018. Microscopic investigation of vortex breakdown in a dividing T-junction flow. *Physical Review Fluids* 3, 072201 (072201-072208).
45. Chang, J., Shang, J., Sun, Y., Ono, L.K., Wang, D., Ma, Z., Huang, Q., Chen, D., Liu, G., Cui, Y., Qi, Y., Zheng, Z., 2018. Flexible and stable high-energy lithium-sulfur full batteries with only 100% oversized lithium. *Nature Communications* 9, 11.
46. Chen, J., Konstantinov, D., Molmer, K., 2019. Adiabatic preparation of squeezed states of oscillators and large spin systems coupled to a two-level system. *Physical Review A* 99.
47. Chen, J., Zadorozhko, A.A., Konstantinov, D., 2018. Strong coupling of a two-dimensional electron ensemble to a single-mode cavity resonator. *Physical Review B* 98, 9.
48. Chen, J.B., Konstantinov, D., Molmer, K., 2019. Adiabatic preparation of squeezed states of oscillators and large spin systems coupled to a two-level system. *Physical Review A* 99.
49. Chen, M., Ju, M.-G., Garces, H.F., Carl, A.D., Ono, L.K., Hawash, Z., Zhang, Y., Shen, T.-Y., Qi, Y., Grimm, R.L., Pacifici, D., Zeng, X.C., Zhou, Y.-Y., Padture, N.P., 2019. Highly stable and efficient all-inorganic lead-free perovskite solar cells with native-oxide passivation. *Nature Communications* 10.
50. Chen, Q., Wang, D., Baumgarten, M., Schollmeyer, D., Mullen, K., Narita, A., 2019. Regioselective Bromination and Functionalization of Dibenzo[hi,st]ovalene as Highly Luminescent Nanographene with Zigzag Edges. *Chem Asian J*, 1-6.
51. Chen, Y.-c., Fosdick, R., Fried, E., 2018. Isometric deformations of unstretchable material surfaces, a spatial variational treatment. *Journal of the Mechanics and Physics of Solids* 116, 290-322.
52. Chen, Y.-C., Fosdick, R., Fried, E., 2018. Issues Concerning Isometric Deformations of Planar Regions to Curved Surfaces. *Journal of Elasticity* 132, 1-42.
53. Cheung, M.P., Adaniya, H., Cassidy, C., Yamashita, M., Li, K.-L., Taba, S., Shintake, T., 2018. Improved sample dispersion in cryo-EM using "perpetually-hydrated" graphene oxide flakes. *Journal of Structural Biology* 204, 75-79.
54. Chimal, C.G.Z., De Schutter, E., 2018. Ca²⁺ Requirements for Long-Term Depression Are Frequency Sensitive in Purkinje Cells. *Frontiers in Molecular Neuroscience* 11, 12.

55. Chiuchiu, D., Lopez-Suarez, M., Neri, I., Diamantini, M.C., Gammaitoni, L., 2018. Cost of remembering a bit of information. *Physical Review A* 97, 6.
56. Chouhan, B.P., Maimaiti, S., Gade, M., Laurino, P., 2018. Rossmann-Fold Methyltransferases: Taking a "beta-Turn" around Their Cofactor, S-Adenosylmethionine. *Biochemistry*.
57. Chouthaiwale, P.V., Aher, R.D., Tanaka, F., 2018. Catalytic enantioselective formal (4+2) cycloaddition by aldol-aldol annulation of pyruvate derivatives with cyclohexane-1,3-diones to afford functionalized decalins. *Angewandte Chemie (International Edition/German Edition)* 57 (Int. Ed.), 130 (German Ed.), 13298-13301 (Int. Ed.), 13482-13485 (German Ed.).
58. Christopoulos, S., Moroshkin, P., Weller, L., Gerwers, B., Forge, R., Ockenfels, T., Vewinger, F., Weitz, M., 2018. Rubidium spectroscopy at high-pressure buffer gas conditions: detailed balance in the optical interaction of an absorber coupled to a reservoir. *Physica Scripta* 93, 124006.
59. Clavijo, S.P., Sarmiento Rodriguez, A.F., Espath, L.F.R., Dalcin, L., Cortes, A.M.A., Calo, V.M., 2019. Reactive n-species Cahn-Hilliard system: A thermodynamically-consistent model for reversible chemical reactions. *J Comput Appl Math* 350, 143-154.
60. Coquand, O., Essafi, K., Kownacki, J.P., Mouhanna, D., 2018. Glassy phase in quenched disordered crystalline membranes. *Phys Rev E* 97, 030102.
61. Costa, A.C., Ahamed, T., Stephens, G.J., 2019. Adaptive, locally linear models of complex dynamics. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 116, 1501-1510.
62. Darwell, C.T., Ayyampalayam, S., Leebens-Mack, J., Smith, C.I., Segraves, K.A., Althoff, D.M., 2018. Phylogenomic reconstruction of transcriptome data confirms the basal position of Prodoxidae moths within the order Lepidoptera. *Arthropod Systematics & Phylogeny* 76, 59–64.
63. Darwell, C.T., Segar, S.T., Cook, J.M., 2018. Conserved community structure and simultaneous divergence events in the fig wasps associated with *Ficus benjamina* in Australia and China. *BMC Ecology* 18, 1-16.
64. De Schutter, E., 2019. Fallacies of Mice Experiments. *Neuroinformatics*.
65. Del Giudice, F., Cunning, B.V., Ruoff, R.S., Shen, A.Q., 2018. Filling the gap between transient and steady shear rheology of aqueous graphene oxide dispersions. *Rheologica Acta* 57, 293-306.
66. Del Giudice, F., D'Avino, G., Maffetone, P.L., Shen, A.Q., 2018. Fluid viscoelasticity drives self-assembly of particle trains in a straight microfluidic channel. *Physical Review Applied* 10, 1-10.

67. Denton, J.A., Gokhale, C.S., 2019. Synthetic mutualism and the intervention dilemma. *Life* (Basel) 9.
68. Dhamodharan, V., Nomura, Y., Dwidar, M., Yokobayashi, Y., 2018. Optochemical control of gene expression by photocaged guanine and riboswitches. *Chemical Communications* 54, 6181-6183.
69. Dinets, V., 2018. *Enemy at the gates*, Biosphere.
70. Dingwall, R.J., Edmonds, M.J., Helm, J.L., Malomed, B.A., Öhberg, P., 2018. Non-integrable dynamics of matter-wave solitons in a density-dependent gauge theory. *New Journal of Physics* 20.
71. Dornburg, A., Warren, D.L., Zapfe, K.L., Morris, R., Iglesias, T.L., Lamb, A., Hogue, G., Lukas, L., Wong, R., 2018. Testing ontogenetic patterns of sexual size dimorphism against expectations of the expensive tissue hypothesis, an intraspecific example using oyster toadfish (*Opsanus tau*). *Ecology and Evolution* 8, 3609-3616.
72. Doya, K., 2019. *The Deep Learning Revolution* (Japanese (translated) Edition), 1 ed. Newton Press, Tokyo, p. 400.
73. Du, E., Hu, X., Li, G., Zhang, S., Mang, D., Roy, S., Sasaki, T., Zhang, Y., 2018. Self-Assembly-Directed Cancer Cell Membrane Insertion of Synthetic Analogues for Permeability Alteration. *Langmuir*, 1-7.
74. Ducloue, L., Casanellas, L., Haward, S.J., Poole, R.J., Alves, M.A., Lerouge, S., Shen, A.Q., Lindner, A., 2019. Secondary flows of viscoelastic fluids in serpentine microchannels. *Microfluidics and Nanofluidics* 23, 1-10.
75. Dwidar, M., Yokobayashi, Y., 2019. Riboswitch Signal Amplification by Controlling Plasmid Copy Number. *ACS Synthetic Biology* 8, 245-250.
76. Economo, E.P., Huang, J.P., Fischer, G., Sarnat, E.M., Narula, N., Janda, M., Guénard, B., Longino, J.T., Knowles, L.L., 2019. Evolution of the latitudinal diversity gradient in the hyperdiverse ant genus *Pheidole*. *Global Ecology and Biogeography* 0, 1–15.
77. Economo, E.P., Narula, N., Friedman, N.R., Weiser, M.D., Guénard, B., 2018. Macroecology and macroevolution of the latitudinal diversity gradient in ants. *Nature Communications* 9, 1-8.
78. Edmonds, M.J., Billam, T.P., Gardiner, S.A., Busch, T., 2018. Noise-free generation of bright matter-wave solitons. *Physical Review A* 98.
79. Edmunds, P.J., McIlroy, S.E., Adjero, M., Ang, P., Bergman, J.L., Carpenter, R.C., Coffroth, M.A., Fujimura, A.G., Hench, J.L., Holbrook, S.J., Leichter, J.J., Muko, S., Nakajima, Y., Nakamura, M., Paris, C.B., Schmitt, R.J., Sutthacheep, M., Toonen, R.J., Sakai, K., Suzuki, G., Washburn, L., Wyatt, A.S.J., Mitarai, S., 2018. Critical Information Gaps Impeding Understanding of the Role of Larval

Connectivity Among Coral Reef Islands in an Era of Global Change. *Frontiers in Marine Science*.

80. Eisenhut, F., Meyer, J., Kruger, J., Ohmann, R., Cuniberti, G., Moresco, F., 2018. Inducing the controlled rotation of single o-MeO-DMBI molecules anchored on Au(111). *Surface Science* 678, 177-182.
81. Erukonda, J., Johnson, S., Tanaka, F., 2018. C-Glycosidation of unprotected aldopentoses with ketones using proline-triethylamine as catalyst. *Heterocycles* 99.
82. Esporas, C.L., Tkachenko, G., Truong, V.g., Nic Chormaic, S., 2018. Ultrathin Optical Fiber: Guided Modes, Angular Momentum, and Applications. *The Review of Laser Engineering* 46, 196-199.
83. Fogarty, T., Ruks, L., Li, J., Busch, T., 2019. Fast control of interactions in an ultracold two atom system: Managing correlations and irreversibility. *SciPost Physics* 6.
84. Fujimoto, R., Uezono, K., Ishikura, S., Osabe, K., Peacock, W.J., Dennis, E.S., 2018. Recent research on the mechanism of heterosis is important for crop and vegetable breeding systems. *Breeding Science* 68, 145-158.
85. Funari, R., Bhalla, N., Chu, K.-Y., Soderstrom, B., Shen, A.Q., 2018. Nanoplasmonics for real-time and label-free monitoring of microbial biofilm formation. *ACS Sensors* 3, 1499-1509.
86. Funari, R., Bhalla, N., Chu, K.-Y., Söderström, B., Shen, A.Q., 2018. Nanoplasmonics for Real-Time and Label-Free Monitoring of Microbial Biofilm Formation. *ACS Sensors* 3, 1499-1509.
87. Furukawa, E., Alsop, B., Caparelli-Daquer, E.M., Barbante Casella, E., Qulmas Molina da Costa, R., de Maura Quelroz, P., Almeida Galvao, P., Benevides, L.R.d.S., Pinheiro Juca-Vasconcelos, H., Tripp, G., 2018. Behavioral adjustment to asymmetric reward availability among children with and without ADHD: effects of past and current reinforcement contingencies. *ADHD Attention Deficit and Hyperactivity Disorders*, 1-10.
88. Gavelis, G.S., Herranz, M., Wakeman, K.C., Ripken, C., Mitarai, S., Gile, G.H., Keeling, P.J., Leander, B.S., 2019. Dinoflagellate nucleus contains an extensive endomembrane network, the nuclear net. *Scientific Reports* 9, 839.
89. Giusteri, G.G., Seto, R., 2018. A theoretical framework for steady-state rheometry in generic flow conditions. *Journal of Rheology* 62, 713-723.
90. Grammatikopoulos, P., Sowwan, M., Kioseoglou, J., 2019. Computational Modeling of Nanoparticle Coalescence. *Advanced Theory and Simulations*.
91. Guest, J.R., Edmunds, P.J., Gates, R.D., Kuffner, I.B., Andersson, A.J., Barnes, B.B., Chollett, I., Courtney, T.A., Elahi, R., Gross, K., Lenz, E.A., Mitarai, S., Mumby, P.J., Nelson, H.R., Parker, B.A., Putnam, H.M., Rogers, C.S., Toth, L.T., 2018. A

framework for identifying and characterising coral reef “oases” against a backdrop of degradation. *Journal of Applied Ecology* 2018, 1-11.

92. Gutnick, T., Kuba, M.J., 2018. Animal Behavior: Socializing Octopus. *Current Biology* 28, R1147-R1149.
93. Guzman, C., Han, X., Shoguchi, E., Nic Chormaic, S., 2018. Fluorescence from a single *Symbiodinium* cell. *Methods and Applications in Fluorescence* 6, 035003.
94. Guzman, C., Shinzato, C., Lu, T.-M., Conaco, C., 2018. Transcriptome analysis of the reef-building octocoral, *Heliopora coerulea*. *Scientific Reports* 8, 8397.
95. Hagino, K., Nakazawa, K., Sato, G., Kokubun, M., Enoto, T., Fukazawa, Y., Hayashi, K., Kataoka, J., Katsuta, J., Kobayashi, S.B., Laurent, P., Lebrun, F., Limousin, O., Maier, D., Makishima, K., Mimura, T., Miyake, K., Mizuno, T., Mori, K., Murakami, H., Nakamori, T., Nakano, T., Noda, H., Odaka, H., Ohno, M., Ohta, M., Saito, S., Sato, R., Tajima, H., Takahashi, H., Takahashi, T., Takeda, S.i., Tanaka, T., Terada, Y., Uchiyama, H., Uchiyama, Y., Watanabe, S., Yamaoka, K., Yatsu, Y., Yuasa, T., 2018. In-orbit performance and calibration of the Hard X-ray Imager onboard Hitomi (ASTRO-H). *Journal of Astronomical Telescopes Instruments and Systems* 4, 15.
96. Halder, A., Kioseoglou, J., Yang, B., Kolipaka, K.L., Seifert, S., Ilavsky, J., Pellin, M., Sowwan, M., Grammatikopoulos, P., Vajda, S., 2019. Nanoassemblies of ultrasmall clusters with remarkable activity in carbon dioxide conversion into C1 fuels. *Nanoscale*, 4683-4687
97. Hamada, M., Schröder, K., Bathia, J., Kürn, U., Fraune, S., Khalturina, M., Konstantin, K., Shinzato, C., Satoh, N., Bosch, T.C.G., 2018. Metabolic co-dependence drives the evolutionarily ancient *Hydra-Chlorella* symbiosis. *eLIFE* 7.
98. Han, D., Xie, J., Hussain, A., Gao, B., Qu, C., Liao, W., Xu, X., Gao, F., Li, H., Lan, T., Liu, A., Zhuang, G., Liu, W., 2018. In situ relative self-dependent calibration of electron cyclotron emission imaging via shape matching. *Review of Scientific Instruments* 89, 5.
99. Han, P., Hou, I.C.-Y., Lu, H., Wang, X.-Y., Mullen, K., Bonn, M., Narita, A., Canovas, E., 2019. Chemisorption of Atomically Precise 42-Carbon Graphene Quantum Dots on Metal Oxide Films Greatly Accelerates Interfacial Electron Transfer. *Journal of Physical Chemistry Letters*, 1431-1436.
100. Han, X., Truong, V.G., Nic Chormaic, S., 2018. Efficient microparticle trapping with plasmonic annular apertures arrays. *Nano Futures* 2, 1-9.
101. Han, X., Truong, V.G., Thomas, P.S., Nic Chormaic, S., 2018. Sequential trapping of single nanoparticles using a gold plasmonic nanohole array *Photonics Research* 6, 981-986.

102. Hanada, M., Shimada, H., Tezuka, M., 2018. Universality in chaos: Lyapunov spectrum and random matrix theory. *Physical Review E* 97, 7.
103. Hartung, S., Sommer, F., Voelkel, S., Schönke, J., Rehberg, I., 2018. Assembly of eight spherical magnets into a dotriacontapole configuration. *Physical Review B* 98, 6.
104. Hashimoto, Y., Yoshimura, M., Huang, R.-N., 2019. Wasabi versus red imported fire ants: preliminary test of repellency of microencapsulated allyl isothiocyanate against *Solenopsis invicta* (Hymenoptera: Formicidae) using bait traps in Taiwan. *Applied Entomology and Zoology* 9, 1-4.
105. Haward, S.J., Kitajima, N., Toda-Peters, K., Takahashi, T., Shen, A.Q., 2019. Flow of wormlike micellar solutions around microfluidic cylinders with high aspect ratio and low blockage ratio *Soft Matter* 15, 1927-1941.
106. Haward, S.J., Page, J., Zaki, T.A., Shen, A.Q., 2018. Inertioelastic Poiseuille flow over a wavy surface. *Physical Review Fluids* 3, 091302 (091301-091309).
107. Haward, S.J., Page, J., Zaki, T.A., Shen, A.Q., 2018. "Phase diagram" for viscoelastic Poiseuille flow over a wavy surface. *Physics of Fluids* 30, 1-10.
108. Hawash, Z., Ono, L.K., Qi, Y., 2018. Recent Advances in Spiro-MeOTAD Hole Transport Material and Its Applications in Organic-Inorganic Halide Perovskite Solar Cells. *Advanced Materials Interfaces* 5, 22.
109. Hayashi, T., Teruya, T., Chaleckis, R., Morigasaki, S., Yanagida, M., 2018. S-Adenosylmethionine Synthetase Is Required for Cell Growth, Maintenance of G0 Phase, and Termination of Quiescence in Fission Yeast. *iScience* 5, 38-51.
110. Helmkamp, M., Bellinger, M.R., Frazier, M., Takabayashi, M., 2019. Symbiont type and environmental factors affect transcriptome-wide gene expression in the coral *Montipora capitata*. *Ecology and Evolution* 9, 378-392.
111. Hermes, D.J., Xu, C., Poklis, J.L., Niphakis, M.J., Cravatt, B.F., Mackie, K., Lichtman, A.H., Ignatowska-Jankowska, B.M., Fitting, S., 2018. Neuroprotective effects of fatty acid amide hydrolase catabolic enzyme inhibition in a HIV-1 Tat model of neuroAIDS. *Neuropharmacology*.
112. Hieulle, J., Wang, X., Stecker, C., Son, D.-Y., Qiu, L., Ohmann, R., Ono, L.K., Mugarza, A., Yan, Y., Qi, Y., 2019. Unraveling the impact of halide mixing on perovskite stability. *Journal of American Chemical Society*.
113. Higa, Y., Shinzato, C., Zayasu, Y., Nagata, T., Nakamura, R., Yokokura, A., Janado, S., Omori, M., 2018. Flexible development of techniques for coral reef restoration using asexual reproduction in the Coral Reef Preservation and Rehabilitation Project by Okinawa Prefectural Government, Japan, *Journal of Japanese Coral Reef Society*, pp. 21-37.

114. Hikami, S., 2018. Conformal bootstrap analysis for the Yang–Lee edge singularity. *Progress of Theoretical and Experimental Physics* 2018, 15.
115. Hikami, S., 2018. Conformal bootstrap analysis for single and branched polymers. *Progress of Theoretical and Experimental Physics* 2018, 11.
116. Horie, T., Hiroe, R., Chen, K., Cao, C., Nakagawa, M., Kuskabe, T.G., Satoh, N., Sasakura, Y., Levine, M., 2018. Regulatory cocktail for dopaminergic neurons in a protovertebrate identified by whole-embryo single-cell transcriptomics. *Gene Dev* 32, 19-20.
117. Idei, H., Murata, S., Chen, Y., Yamashita, Y., Tani, J., Ogata, T., 2018. A Neurorobotics Simulation of Autistic Behavior Induced by Unusual Sensory Precision. *Computational Psychiatry* 2, 164-182.
118. Igarashi, M., Wickens, J.R., 2018. Kinematic analysis of bimanual movements during food handling by headfixed rats. *Journal of Neurophysiology* 121, 490–499.
119. Iglesias, T.L., Boal, J.G., Frank, M.G., Zeil, J., Hanlon, R.T., 2019. Cyclic nature of the REM sleep-like state in the cuttlefish *Sepia officinalis*. *Journal of Experimental Biology*.
120. Iglesias, T.L., Dornburg, A., Warren, D.L., Wainwright, P.C., Schmitz, L., Economo, E.P., 2018. Eyes Wide Shut: the impact of dim-light vision on neural investment in marine teleosts. *Journal of Evolutionary Biology* 0, 1-11.
121. Im, H., Dwidar, M., Mitchell, R.J., 2018. *Bdellovibrio bacteriovorus* HD100, a predator of Gram-negative bacteria, benefits energetically from *Staphylococcus aureus* biofilms without predation. *ISME Journal* 12, 2090-2095.
122. Inoue, J., Satoh, N., 2018. ORTHOSCOPE: an automatic web tool for phylogenetically inferring bilaterian orthogroups with user-selected taxa. *Molecular Biology and Evolution*.
123. Inui, S., Tsubota, M., Moroshkin, P., Leiderer, P., Kono, K., 2018. Dynamics of fine particles due to quantized vortices on the surface of superfluid 4He. *Journal of Low Temperature Physics*, 1-7.
124. Iqbal, R., Majhy, B., Shen, A.Q., 2018. Evaporation and morphological patterns of bi-dispersed colloidal droplets on hydrophilic and hydrophobic surfaces *Soft Matter* 14, 9901-9909.
125. Iribarne, M., Masai, I., 2018. Do cGMP levels drive the speed of photoreceptor degeneration? *Advances in Experimental Medicine and Biology* 1074, 327-333.
126. Irie, N., Satoh, N., Kuratani, S., 2018. The phylum Vertebrata: a case for zoological recognition. *Zoological Letters* 4.

127. Irmiler, A., Burow, A.M., Pauly, F., 2018. Robust periodic Fock exchange with atom-centered Gaussian basis sets. *Journal of Chemical Theory and Computation* 14, 4567–4580.
128. Ishikawa, S.-n., Takahashi, T., Watanabe, S., Narukage, N., Miyazaki, S., Orita, T., Takeda, S.i., Nomachi, M., Fujishiro, I., Hodoshima, F., 2018. High-speed X-ray imaging spectroscopy system with Zynq SoC for solar observations. *Nuclear Instruments & Methods in Physics Research Section a-Accelerators Spectrometers Detectors and Associated Equipment* 912, 191-194.
129. Ivanov, Y., Kozlov, A.F., Galiullin, R.A., Tatur, V.Y., Ziborov, V.S., Ivanova, N.D., Pleshakova, T.O., Vesnin, S.G., Goryanin, I., 2018. Use of Microwave Radiometry to Monitor Thermal Denaturation of Albumin. *Frontiers in physiology* 9, 956.
130. Iwasaka, H., Koyanagi, R., Satoh, R., Nagano, A., Watanabe, K., Hisata, K., Satoh, N., Aki, T., 2018. A Possible Trifunctional beta-Carotene Synthase Gene Identified in the Draft Genome of *Aurantiochytrium* sp. Strain KH105. *Genes (Basel)* 9, 1-14.
131. Izadpanah, S., Shaban, P., Aghebati-Maleki, A., Baghbani, E., Baghbanzadeh, A., Fotouhi, A., Bakhshinejad, B., Aghebati-Maleki, L., Baradaran, B., 2019. Insights into the roles of miRNAs; miR-193 as one of small molecular silencer in osteosarcoma therapy. *Biomed Pharmacother* 111, 873-881.
132. Jaidar, O., Carrillo-Reid, L., Nakano, Y., Lopez-Huerta, V.G., Hernandez-Cruz, A., Bargas, J., Garcia-Munoz, M., Arbuthnott, G.W., 2019. Synchronized activation of striatal direct and indirect pathways underlies the behavior in unilateral dopamine-depleted mice. *European Journal of Neuroscience*.
133. Jana, R., Pareek, V., Khatua, P., Saha, P., Chandra, A., Mukherjee, G.D., 2018. Pressure induced anomalous magnetic behaviour in nanocrystalline YCrO₃ at room temperature. *Journal of Physics-Condensed Matter* 30, 8.
134. Jenkins, T.C., Fayzullin, R.R., Khaskin, E., 2018. Three-Component [1 + 1 + 1] Cyclopropanation with Ruthenium(II). *Organometallics* 37, 2609-2617.
135. Jayawardena, N., Burga, L.N., Easingwood, R.A., Takizawa, Y., Wolf, M., Bostina, M., 2018. Structural basis for anthrax toxin receptor 1 recognition by Seneca Valley Virus. *PNAS* 115, E10934-E10940.
136. Jordan, R., Fukunaga, I., Kollo, M., Schaefer, A.T., 2018. Active sampling state dynamically enhances olfactory bulb odor representation. *Neuron* 98, 1214-1228.e1215.
137. Juarez-Perez, E., Ono, L.K., Uriarte, I., Cocinero, E.J., Qi, Y., 2019. Degradation Mechanism and Relative Stability of Methylammonium Halide Based Perovskites Analyzed on the Basis of Acid-Base Theory. *ACS Appl Mater Interfaces* 11, 12586-12593.

138. Juarez-Perez, E.J., Ono, L.K., Maeda, M., Jiang, Y., Hawash, Z., Qi, Y., 2018. Photodecomposition and thermal decomposition in methylammonium halide lead perovskites and inferred design principles to increase photovoltaic device stability. *Journal of Materials Chemistry A* 6, 9604-9612.
139. Jung, M., Lee, H., Tani, J., 2018. Adaptive Detrending to Accelerate Convolutional Gated Recurrent Unit Training for Contextual Video Recognition. . *Neural Networks* 105, 356-370.
140. Kahnt, A., Vermeulen, R., Iinuma, Y., Shalamzari, M.S., Maenhaut, W., Claeys, M., 2018. High-molecular-weight esters in alpha-pinene ozonolysis secondary organic aerosol: structural characterization and mechanistic proposal for their formation from highly oxygenated molecules. *Atmospheric Chemistry and Physics* 18, 8453-8467.
141. Kamble, R.B., Chavan, S.S., Suryavanshi, G., 2019. An efficient heterogeneous copper fluorapatite (CuFAP)-catalysed oxidative synthesis of diaryl sulfone under mild ligand- and base-free conditions. *New J Chem* 43, 1632-1636.
142. Katsuragawa, M., Tampo, M., Hamada, K., Harayama, A., Miyake, Y., Oshita, S., Sato, G., Takahashi, T., Takeda, S.i., Watanabe, S., Yabu, G., 2018. A compact imaging system with a CdTe double-sided strip detector for non-destructive analysis using negative muonic X-rays. *Nuclear Instruments & Methods in Physics Research Section a-Accelerators Spectrometers Detectors and Associated Equipment* 912, 140-143.
143. Khalife, A., Keller, R.A., Billen, J., Hita Garcia, F., Economo, E.P., Peeters, C., 2018. Skeletomuscular adaptations of head and legs of *Melissotarsus* ants for tunnelling through living wood. *Frontiers in Zoology* 15, 1-11.
144. Khalturin, K., Billas, I.M.L., Chebaro, Y., Reitzel, A.M., Tarrant, A.M., Laudet, V., Markov, G.V., 2018. NR3E receptors in cnidarians: A new family of steroid receptor relatives extends the possible mechanisms for ligand binding. *Journal of Steroid Biochemistry & Molecular Biology* 184, 11-19.
145. Khandhawit, T., 2018. Unfolded Seiberg-Witten Floer spectra, II: Relative invariants and the gluing theorem. *arXiv*.
146. Khrameeva, E., Kurochkin, I., Bozek, K., Giavalisco, P., Khaitovich, P., 2018. Lipidome Evolution in Mammalian Tissues. *Molecular Biology and Evolution* 35, 1947.
147. Kien, F.L., Hejazi, S.S.S., Truong, V.G., Nic Chormaic, S., Busch, T., 2018. Chiral force of guided light on an atom. *Physical Review A* 97, 1-5.
148. Kien, F.L., Kornovan, D.F., Seyed Hejazi, S.S., Truong, V.G., Petrov, M., Nic Chormaic, S., Busch, T., 2018. Force of light on a two-level atom near an ultrathin optical fiber. *New Journal of Physics* 20, 1-21.

149. Kikkawa, A., 2018. Random Matrix Analysis for Gene Interaction Networks in Cancer Cells. *Scientific Reports* 8, 12.
150. Kim, O.T.P., Nguyen, P.T., Shoguchi, E., Hisata, K., Vo, T.T.B., Inoue, J., Shinzato, C., Le, B.T.N., Nishitsuji, K., Kanda, M., Nguyen, V.H., Nong, H.V., Satoh, N., 2018. A draft genome of the striped catfish, *Pangasianodon hypophthalmus*, for comparative analysis of genes relevant to development and a resource for aquaculture improvement. *BMC Genomics* 19, 1-16.
151. Kim, T., Leyden, M.R., Ono, L.K., Qi, Y., 2018. Stacked-graphene layers as engineered solid-electrolyte interphase (SEI) grown by chemical vapour deposition for lithium-ion batteries. *Carbon* 132, 678-690.
152. Kim, T., Ono, L.K., Fleck, N., Raga, S.R., Qi, Y., 2018. Transition metal speciation as a degradation mechanism with the formation of a solid-electrolyte interphase (SEI) in Ni-rich transition metal oxide cathodes. *Journal of Materials Chemistry A* 6, 14449-14463.
153. Kim, T., Song, W., Son, D.-Y., Ono, L.K., Qi, Y., 2019. Lithium-ion batteries: outlook on present, future, and hybridized technologies. *Journal of Materials Chemistry A* 7, 2942-2964.
154. Kinjo, Y., Bourguignon, T., Tong, K.J., Kuwahara, H., Lim, S.J., Yoon, K.B., Shigenobu, S., Park, Y.C., Nalepa, C.A., Hongoh, Y., Ohkuma, M., Lo, N., Tokuda, G., 2018. Parallel and Gradual Genome Erosion in the Blattabacterium Endosymbionts of *Mastotermes darwiniensis* and *Cryptocercus* Wood Roaches. *Genome Biology and Evolution* 10, 1622-1630.
155. Kinoshita-Kawada, M., Hasegawa, H., Hongu, T., Yanagi, S., Kanaho, Y., Masai, I., Mishima, T., Chen, X., Tsuboi, Y., Rao, Y., Yuasa-Kawada, J., Wu, J.Y., 2019. A crucial role for Arf6 in the response of commissural axons to Slit. *Development* 146, 1-41.
156. Kizilyaprak, C., Stierhof, Y.-D., Humbel, B.M., 2018. Volume microscopy in biology: FIB-SEM tomography. *Tissue Cell*.
157. Klima, K., Apt, J., Bandi, M.M., Happy, P., Loutan, C., Young, R., 2018. Geographic smoothing of solar photovoltaic electric power production in the Western USA. *Journal of Renewable and Sustainable Energy* 10, 1-10.
158. Klockner, J.C., Cuevas, J.C., Pauly, F., 2018. Transmission eigenchannels for coherent phonon transport. *Physical Review B* 97.
159. Kocsis, V., Penc, K., Room, T., Nagel, U., Vit, J., Romhányi, J., Tokunaga, Y., Taguchi, Y., Tokura, Y., Kezsmarki, I., Bordacs, S., 2018. Identification of antiferromagnetic domains via the optical magnetoelectric effect. *Physical Review Letters* 121, 057601.
160. Koizumi, S.-i., Sasaki, D., Hsien, T.-H., Taira, N., Arakaki, N., Yamasaki, S., Wang, K., Sarkar, S., Shirahata, H., Miyagi, M.M., Ishikawa, H., 2018. JunB regulates

homeostasis and suppressive functions of effector regulatory T cells. *Nature Communications* 9:5344, 1-14.

161. Koldaeva, A., Schaefer, A.T., Fukunaga, I., 2019. Rapid task-dependent tuning of the mouse olfactory bulb. *eLIFE*, 1-12.
162. Koludarov, I., Aird, S.D., 2019. Snake venom NAD glycohydrolases: primary structures, genomic location, and gene structure. *PeerJ* 2019, 1-14.
163. Komiya, R., 2018. Diverse function of various non-coding RNAs, *Seibutsu-kogaku Kaishi*
164. Komiya, R., Kurokawa, R., Oyosih, T., Matsuno, Y., Tani, H., Katahira, M., Hirtachi, K., Iwashita, Y., Yamashita, T., Kondo, K., Yoneda, R., Yamaoki, Y., Ueda, N., Mashima, T., Kobayashi, N., Nagata, T., Kiyoshi, A., Miyake, M., Kano, F., Murata, M., Hamad, N., Sasaki, K., Shoji, N., 2018. Multiplicity in Long Noncoding RNA in Living Cells. *Biomedical Sciences* 4, 18-23.
165. Kondo, C., Hara, T., Fukui, T., Inagaki, T., Takebe, H., Nakazawa, S., Fukami, K., Kawaguchi, Y., Kawaguchi, H., Otake, Y., Tanaka, H., 2018. A stable pulsed power supply for multi-beamline XFEL operations. *Review of Scientific Instruments* 89, 10.
166. Kondo, M., Matsuo, M., Igarashi, K., Haramoto, Y., Yamamoto, T., Yasuoka, Y., Taira, M., 2019. De novo transcription of multiple Hox cluster genes takes place simultaneously in early *Xenopus tropicalis* embryos. *Biology Open* 8.
167. Konno, T., Wakahara, T., Miyazawa, K.i., Marumoto, K., 2018. A dramatic improvement in the tensile strength of fullerene needle-like crystals. *New Carbon Materials* 33, 310-315.
168. Koo, J., Jang, Y., Martin, L., Kim, D., Jeong, H., Kang, K., Lee, W., Kim, J., Hwang, W.T., Xiang, D., Scheer, E., Kabdulov, M., Huhn, T., Pauly, F., Lee, T., 2019. Unidirectional real-time photoswitching of diarylethene molecular monolayer junctions with multilayer graphene electrodes. *ACS Applied Material Interfaces* 11, 11645-11653.
169. Kotani, N., Ida, Y., Nakano, T., Sato, I., Kuwahara, R., Yamaguchi, A., Tomita, M., Honke, K., Murakoshi, T., 2018. Tumor-dependent secretion of close homolog of L1 results in elevation of its circulating level in mouse model for human lung tumor. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 501, 982-987.
170. Krishna, M.B.M., Madeo, J., Urquizo, J.P., Zhu, X., Vinod, S., Tiwary, C., Ajayan, P.M., Dani, K.M., 2018. Terahertz photoconductivity and Photocarrier dynamics in few-layer hBN/WS2 van der waals heterostructure laminates. *Semiconductor Science and Technology* 33, 7.
171. Kuba, M., 2018. Vertebrate/Invertebrate – When do we start caring?, in: Andrew, B. (Ed.), *Animal Welfare in a Changing World*. CAB International, Oxfordshire, pp. 108-113.

172. Kubota, K., Kintsu, H., Matsuura, A., Tsuchihashi, Y., Takeuchi, T., Satoh, N., Suzuki, M., 2018. Functional analyses of MMPs for aragonite crystal formation in the ligament of *Pinctada fucata*. *Frontiers in Marine Science* 5, 1-9.
173. Kuck, A., Stegeman, D.F., van Asseldonk, E.H.F., 2019. Modeling Trans-Spinal Direct Current Stimulation in the Presence of Spinal Implants. *IEEE Transactions on Neural Systems and Rehabilitation Engineering*.
174. Kuljis, D., Kudo, T., Tahara, Y., Ghiani, C.A., Colwell, C.S., 2018. Pathophysiology in the suprachiasmatic nucleus in mouse models of Huntington's disease. *Journal of neuroscience research* 96, 1862-1875.
175. Lajbner, Z., Pnini, R., Camus, M.F., Miller, J., Dowling, D.K., 2018. Experimental evidence that thermal selection shapes mitochondrial genome evolution. *Sci Rep* 8, 9500.
176. Lamowski, S., Mann, C.-R., Hellbach, F., Mariani, E., Weick, G., Pauly, F., 2018. Plasmon polaritons in cubic lattices of spherical metallic nanoparticles. *Physical Review B* 97.
177. Lapointe, S., Khaskin, E., Fayzullin, R.R., Khusnutdinova, J., 2019. Stable nickel(i) complexes with electron-rich, sterically-hindered, innocent PNP pincer ligands. *Organometallics*, 1-14.
178. Le Gal, M., Violeauab, D., Ataab, R., Wang, X., 2018. Shallow water numerical models for the 1947 gisborne and 2011 Tohoku-Oki tsunamis with kinematic seismic generation. *Coastal Engineering* 139, 15.
179. Le Kien, F., Kornovan, D.F., S. Hejazi, S.S., Truong, V.G., Petrov, M.I., Nic Chormaic, S., Busch, T., 2018. Force of light on a two-level atom near an ultrathin optical fiber. *New Journal of Physics* 20, 1-21.
180. Le Kien, F., S. Hejazi, S.S., Truong, V.G., Nic Chormaic, S., Busch, T., 2018. Chiral force of guided light on an atom. *Physical Review A* 97, 1-5.
181. Lee, H., Jung, M., Tani, J., 2018. Recognition of Visually Perceived Compositional Human Actions by Multiple Spatio-Temporal Scales Recurrent Neural Networks. *IEEE Transactions on Cognitive and Developmental Systems* 10, 1058-1069.
182. Lepleux, C., Marie-Brasset, A., Temelie, M., Boulanger, M., Brotin, E., Goldring, M.B., Hirtz, C., Vares, G., Nakajima, T., Saintigny, Y., Savu, D., Chevalier, F., 2019. Bystander effectors of chondrosarcoma cells irradiated at different LET impair proliferation of chondrocytes. *Journal of Cell Commun Signal*.
183. Li, C., Lenhard, B., Luscombe, N.M., 2018. Integrated analysis sheds light on evolutionary trajectories of young transcription start sites in the human genome. *Genome Research* 28, 676-688.

184. Li, W., Du, J., Nic Chormaic, S., 2018. Tailoring a nanofiber for enhanced photon emission and coupling efficiency from single quantum emitters. *Optics Letters* 43, 1674-1677.
185. Liang, J., Liu, Z., Qiu, L., Hawash, Z., Meng, L., Wu, Z., Jiang, Y., Ono, L.K., Qi, Y., 2018. Enhancing Optical, Electronic, Crystalline, and Morphological Properties of Cesium Lead Halide by Mn Substitution for High-Stability All-Inorganic Perovskite Solar Cells with Carbon Electrodes. *Advanced Energy Materials* 8, 1-7.
186. Liénard, J.F., Achakulvisut, T., Acuna, D.E., David, S.V., 2018. Intellectual synthesis in mentorship determines success in academic careers. *Nature Communications* 9, 13.
187. Lin, J.-Y., Smorodin, A.V., Badrutdinov, A.O., Konstantinov, D., 2018. Sliding of an electron crystal of finite size on the surface of superfluid 4He confined in a microchannel. *Physical Review B* 98, 1-7.
188. Lin, J.-Y., Smorodin, A.V., Badrutdinov, A.O., Konstantinov, D., 2018. Transport Properties of a Quasi-1D Wigner Solid on Liquid Helium Confined in a Microchannel with Periodic Potential. *Journal of Low-Temperature Physics*, 1-11.
189. Lin, M.-F., Takahashi, S., Foret, S., Davy, S.K., Miller, D.J., 2019. Transcriptomic analyses highlight the likely metabolic consequences of colonization of a cnidarian host by native or non-native *Symbiodinium* species. *Biology Open* 8.
190. Liu, X.-F., Lei, F., Wang, T.-J., Long, G.-L., Wang, C., 2019. Gain lifetime characterization through time-resolved stimulated emission in a whispering-gallery mode microresonator. *Nanophotonics-Berlin* 8, 127-134.
191. Liu, Z., Qiu, L., Juarez-Perez, E.J., Hawash, Z., Kim, T., Jiang, Y., Wu, Z., Raga, S.R., Ono, L.K., Liu, S.F., Qi, Y., 2018. Gas-solid reaction based over one-micrometer thick stable perovskite films for efficient solar cells and modules. *Nature Communications*, 1-11.
192. Luisier, R., Tyzack, G.E., Hall, C.E., Mitchell, J.S., Devine, H., Taha, D.M., Malik, B., Meyer, I., Greensmith, L., Newcombe, J., Ule, J., Luscombe, N.M., Patani, R., 2018. Intron retention and nuclear loss of SFPQ are molecular hallmarks of ALS. *Nature Communications* 9, 15.
193. Lukoseviciute, M., Gavriouchkina, D., Williams, R.M., Hochgreb-Hagele, T., Senanayake, U., Chong-Morrison, V., Thongjuea, S., Repapi, E., Mead, A., Sauka-Spengler, T., 2018. From pioneer to repressor: Bimodal *foxd3* activity dynamically remodels neural crest regulatory landscape in vivo. *Developmental Cell* 47, 608-628.
194. Luzon, K.S., Lin, M.-F., Ablan Lagman, M.C.A., Licuanan, W.R.Y., Chen, C.A., 2018. Correction: Resurrecting a subgenus to genus: molecular phylogeny of

Euphyllia and Fimbriaphyllia (order Scleractinia; family Euphylliidae; clade V). PeerJ 6.

195. Maeda, K., Saeki, T., 2018. Revision of Species in *Sicyopterus* (Gobiidae: *Sicydiinae*) Described by de Beaufort (1912), with a First Record of *Sicyopterus longifilis* from Japan. *Species Diversity* 23, 253-262.
196. Maemura, T., Fukuyama, S., Sugita, Y., Lopes, T.J.S., Nakao, T., Noda, T., Kawaoka, Y., 2018. Lung-Derived Exosomal miR-483-3p Regulates the Innate Immune Response to Influenza Virus Infection. *Journal of Infectious Diseases* 217, 1372-1382.
197. Mahardini, A., Yamauchi, C., Takeuchi, Y., Rizky, D., Takekata, H., Takemura, A., 2018. Changes in mRNA abundance of insulin-like growth factors in the brain and liver of a tropical damselfish, *Chrysiptera cyanea*, in relation to seasonal and food-manipulated reproduction. *General and comparative endocrinology* 269, 112-121.
198. Mahmood, F., Överstedt, L.-G.W., Toots, M., Wilken, G., Skoglund, U., 2018. An extended field-based method for noise removal from electron tomographic reconstructions. *IEEE Access* 6, 17326 - 17339.
199. Mahmood, F., Shahid, N., Skoglund, U., Vandergheynst, P., 2018. Adaptive graph-based total variation for tomographic reconstructions. *IEEE Signal Processing Letters* 25, 700-704.
200. Mao, Y., Economo, E.P., Satoh, N., 2018. The roles of introgression and climate change in the rise to dominance of acropora corals. *Current Biology* 28, 3373-3382.
201. Mao, Y., Satoh, N., 2019. A likely ancient genome duplication in the speciose reef-building coral genus, *Acropora*. *iScience* 13, 20-32.
202. Mao, Y.F., 2019. GenoDup Pipeline: a tool to detect genome duplication using the dS-based method. *Peerj* 7.
203. Maram, L., Tanaka, F., 2019. Mannich reactions of carbohydrate derivatives with ketones to afford polyoxy-functionalized piperidines. *Organic Letters* 21, 1165-1169.
204. Margiolakis, A., Tsibidis, G.D., Dani, K.M., Tsironis, G.P., 2018. Ultrafast dynamics and subwavelength periodic structure formation following irradiation of GaAs with femtosecond laser pulses. *Physical Review B* 98.
205. Marin, F., Chmiel, A., Takeuchi, T., Bundelewa, I., Durlet, C., Samankassou, E., Medakovic, D., 2018. Skeletal Organic Matrices in Molluscs: Origin, Evolution, Diagenesis, in: Endo, K., Kogure, T., Nagasawa, H. (Eds.), *Biomineralization: From Molecular and Nano-structural Analyses to Environmental Science*. Springer, Singapore, pp. 325-332.

206. Mariserla, B.M.K., Madéo, J., Pérez-Urquizo, J., Zhu, X., Vinod, S., Tiwary, C.S., Ajayan, P.M., Dani, K.M., 2018. Terahertz photoconductivity and photocarrier dynamics in few-layer hBN/WS₂ van der Waals heterostructure laminates. *Semiconductor Science and Technology* 33, 1-7.
207. Marlétaz, F., Firbas, P.N., Maeso, I., Tena, J.J., Bogdanovic, O., Perry, M., Wyatt, C.R., de la Calle-Mustienes, E., Bertrand, S., Burguera, D., Acemel, R.D., van Heeringen, S.J., Naranjo, S., Herrera-Ubeda, C., Skvortsova, K., Jimenez-Gancedo, S., Aldea, D., Marquez, Y., Buono, L., Kozmikova, I., Permanyer, J., Louis, A., Albuixech-Crespo, B., Le Petillon, Y., Leon, A., Subirana, L., Balwierz, P.J., D'uckett, P.E., Andrea, Farahani, E., Aury, J.-M., Mangenot, S., Wincker, P., Albalat, R., Nbenito-Gutiérrez, È., Cañestro, C., Castro, F., D'Aniello, S., Ferrier, D.E.K., Huang, S., Laudet, V., Marais, G.A.B., Pontarotti, P., Schubert, M., Seitz, H., Somorjal, I., Takahashi, T., Mirabeau, O., Xu, A., Yu, J.-K., Carninci, P., Matinez-Morales, J.R., Roest Crollius, H., Kozmik, Z., Weirauch, M.T., Garcia-Fernandez, J., Lister, R., Lenhard, B., Holland, P.W.H., Escrive, H., Gómez-Skarmeta, J.L., Irimia, M., 2018. Amphioxus functional genomics and the origins of vertebrate gene regulation. *Nature* 564, 64–70.
208. Marlétaz, F., Peijnenburg, K.T.C.A., Goto, T., Satoh, N., Rokhsar, D.S., 2019. A new Spiralian phylogeny places the enigmatic arrow worms among Gnathiferans. *Current Biology* 29, 1-7.
209. Mars Brisbin, M., Mesrop, L.Y., Grossmann, M.M., Mitarai, S., 2018. Intra-host symbiont diversity and extended symbiont maintenance in photosymbiotic *Acantharea* (Clade F). *Frontiers in Microbiology* 9, 1998.
210. Mars Brisbin, M., Mitarai, S., 2019. Differential Gene Expression Supports a Resource-Intensive, Defensive Role for Colony Production in the Bloom-Forming Haptophyte, *Phaeocystis globosa*. *Journal of Eukaryotic Microbiology*.
211. Matsu-ura, T., Shirakawa, H., Suzuki, K.G.N., Miyamoto, A., Sugiura, K., Michikawa, T., Kusumi, A., Mikoshiba, K., 2019. Dual-FRET imaging of IP₃ and Ca²⁺ revealed Ca²⁺-induced IP₃ production maintains long lasting Ca²⁺ oscillations in fertilized mouse eggs. *Scientific Reports* 9.
212. Matsumoto, A., Del Giudice, F., Rotrattanadumrourng, R., Shen, A.Q., 2019. Rheological Scaling of Ionic-Liquid-Based Polyelectrolytes in Ionic Liquid Solutions. *Macromolecules*.
213. Matsumoto, A., Iacob, C., Noda, T., Urakawa, O., Runt, J., Inoue, T., 2018. Introducing Large Counteranions Enhances the Elastic Modulus of Imidazolium-Based Polymerized Ionic Liquids. *Macromolecules* 51, 4129-4142.
214. Matsuura, A., Yoshimura, K., Kintsu, H., Atsumi, T., Tsuchihashi, Y., Takeuchi, T., Satoh, N., Negishi, L., Sakuda, S., Asakura, T., Imura, Y., Yoshimura, E., Suzuki, M., 2018. Structural and functional analyses of calcium ion response

- factors in the mantle of *Pinctada fucata*. Journal of Structural Biology 204, 240-249.
215. Mattei, J.G., Grammatikopoulos, P., Zhao, J., Singh, V., Vernieres, J., Steinhauer, S., Porkovich, A., Danielson, E., Nordlund, K., Djurabekova, F., Sowwan, M., 2019. Gas-Phase Synthesis of Trimetallic Nanoparticles. Chemistry of Materials 31, 2151-2163.
 216. Mbanyana, N., Hita Garcia, F., Robertson, H.G., Le Roux, J.J., 2018. A taxonomic revision of seed harvester ants of the Tetramorium solidum group (Hymenoptera: Formicidae) in southern Africa. Eur. J. Taxon. 454, 1–59.
 217. Mekhail, S.P., Abudukeyoumu, N., Ward, J., Arbuthnott, G., Chormaia, S.N., 2018. Fiber-bundle-basis sparse reconstruction for high resolution wide-field microendoscopy. Biomedical Optics Express 9, 1843-1851.
 218. Meshcheryakov, V.A., Shibata, S., Tokoro Schreiber, M., Villar-Briones, A., Jarrell, K.F., Aizawa, S.-I., Wolf, M., 2019. High-resolution archaeum structure reveals a conserved metal-binding site. EMBO reports 63, 1-12.
 219. Metzis, V., Steinhauer, S., Pakanavicius, E., Gouti, M., Stamataki, D., Ivanovitch, K., Watson, T., Rayon, T., Gharavy, S.N.M., Lovell-Badge, R., Luscombe, N.M., Briscoe, J., 2018. Nervous system regionalization entails axial allocation before neural differentiation. Cell 175, 1105.
 220. Meuel, T., Coudert, M., Fischer, P., Bruneau, C.H., Kellay, H., 2018. Effects of rotation on temperature fluctuations in turbulent thermal convection on a hemisphere. Scientific Reports 8, 16513.
 221. Miao, R., Xu, H., Skripnik, M., Cui, L., Wang, K., Pedersen, K.G.L., Leijnse, M., Pauly, F., Warnmark, K., Meyhofer, E., Reddy, P., Linke, H., 2018. Influence of Quantum Interference on the Thermoelectric Properties of Molecular Junctions. Nano Letters, 1-7.
 222. Mikkelsen, M., Fogarty, T., Busch, T., 2018. Static and dynamic phases of a Tonks–Girardeau gas in an optical lattice. New Journal of Physics 20.
 223. Miryeganeh, M., Yamaguchi, M., Kudoh, H., 2018. Synchronisation of Arabidopsis flowering time and wholeplant senescence in seasonal environments. Scientific Reports 8.
 224. Miyake, T., Aihara, N., Maeda, K., Shinzato, C., Koyanagi, R., Kobayashi, H., Yamahira, K., 2019. Bloodmeal host identification with inferences to feeding habits of a fish-fed mosquito, *Aedes baisasi*. Scientific Reports 9.
 225. Miyazaki, K., Miyazaki, K.W., Yamanaka, A., Tokuda, T., Tanaka, K.F., Doya, K., 2018. Reward probability and timing uncertainty alter the effect of dorsal raphe serotonin neurons on patience. Nature Communications 9.

226. Mizoguchi, T., Jaubert, L.D.C., Moessner, R., Udagawa, M., 2018. Magnetic clustering, half-moons, and shadow pinch points as signals of a proximate Coulomb phase in frustrated Heisenberg magnets. *Physical Review B* 98, 1-8.
227. Mochizuki, T., Kojima, Y., Nishiwaki, Y., Harakuni, T., Masai, I., 2018. Endocytic trafficking factor VPS45 is essential for spatial regulation of lens fiber differentiation in zebrafish. *Development* 145, 1-14.
228. Moein, M., Grzyb, K., Goncalves Martins, T., Komoto, S., Peri, F., Crawford, A.D., Fouquier d'Herouel, A., Skupin, A., 2018. CaSiAn: a Calcium Signaling Analyzer tool. *Bioinformatics* 34, 3052-3054.
229. Momohara, Y., Aonuma, H., Nagayama, T., 2018. Tyraminergetic modulation of agonistic outcomes in crayfish. *Journal of Comparative Physiology A Neuroethology, Sensory, Neural, and Behavioral Physiology* 204, 465-473.
230. Monismith, S.G., Barkdull, M.K., Nunome, Y., Mitarai, S., 2018. Transport Between Palau and the Eastern Coral Triangle: Larval Connectivity or Near Misses. *Geophysical Research Letters* 45, 4974-4981.
231. Morandin, C., Brendel, V.P., Sundstrom, L., Helantera, H., Mikheyev, A.S., 2019. Changes in gene DNA methylation and expression networks accompany caste specialization and age-related physiological changes in a social insect. *Molecular Ecology*.
232. Mori, K., Kuhn, B., 2018. Imaging Ca²⁺ concentration and pH in nanopores/channels of protein crystals. . *The Journal of Physical Chemistry* 122, 9646–9653.
233. Morita, M., Siddiqui, N., Katsumura, S., Rouya, C., Larsson, O., Nagashima, T., Hekmatnejad, B., Takahashi, A., Kiyonari, H., Zang, M., St-Arnaud, R., Oike, Y., Giguere, V., Topisirovic, I., Okada-Hatakeyama, M., Yamamoto, T., Sonenberg, N., 2019. Hepatic posttranscriptional network comprised of CCR4-NOT deadenylase and FGF21 maintains systemic metabolic homeostasis. *Proceedings of the National Academy of Sciences USA*.
234. Moroshkin, P., Kono, K., 2019. Zero-phono lines in the spectra of dysprosium atoms in superfluid helium. *Physics Review B* 99.
235. Moroshkin, P., Konol, K., 2019. Zero-phonon lines in the spectra of dysprosium atoms in superfluid helium. *Physical Review B* 99.
236. Moroshkin, P., Leiderer, P., Kono, K., 2018. Perturbations of a Free Surface of Superfluid Helium by the Ion Wind Produced by a Corona Discharge Above the Liquid. *Journal of Low Temperature Physics*.
237. Moser, D., Lenzner, B., Weigelt, P., Dawson, W., Kreft, H., Pergl, J., Pyšek, P., van Kleunen, M., Winter, M., Capinha, C., Cassey, P., Dullinger, S., Economo, E.P., García-Díaz, P., Guénard, B., Hofhansl, F., Mang, T., Seebens, H., Essl, F., 2018. Remoteness promotes biological invasions on islands worldwide. *PNAS*.

238. Motone, K., Takagi, T., Aburaya, S., Aoki, W., Miura, N., Minakuchi, H., Takeyama, H., Nagasaki, Y., Shinzato, C., Ueda, M., 2018. Protection of coral larvae from thermally induced oxidative stress by redox nanoparticles. *Marine Biotechnology* 20, 542-548.
239. Moussa, M.M., Helal, N.S., Youssef, M.M., 2018. Significance of pSmad2/3 and Smad4 in hepatitis C virus-related liver fibrosis and hepatocellular carcinoma. *APMIS* 126, 477-485.
240. Munis, A.M., Tijani, M., Hassall, M., Mattiuzzo, G., Collins, M.K., Takeuchi, Y., 2018. Characterization of Antibody Interactions with the G Protein of Vesicular Stomatitis Virus Indiana Strain and Other Vesiculovirus G Proteins. *Journal of Virology* 92.
241. Nakagawa, Y.O., Sárosi, G., Ugajin, T., 2018. Chaos and relative entropy. *Journal of High Energy Physics*, 1-45.
242. Nakajima, Y., Chuang, P.-S., Ueda, N., Mitarai, S., 2018. First evidence of asexual recruitment of *Pocillopora acuta* in Okinawa Island using genotypic identification. *PeerJ*, 1-12.
243. Nakamura, M., Nakajima, Y., Watanabe, H.K., Sasaki, T., Yamamoto, H., Mitarai, S., 2018. Spatial variability in recruitment of benthos near drilling sites in the Iheya North hydrothermal field in the Okinawa Trough. *Deep-Sea Research Part I-Oceanographic Research Papers* 135, 65-73.
244. Nakano, H., Miyazawa, H., Maeno, A., Shiroishi, T., Kakui, K., Koyanagi, R., Kanda, M., Satoh, N., Omori, A., Kohtsuka, H., 2018. Correction to: A new species of *Xenoturbella* from the western Pacific Ocean and the evolution of *Xenoturbella*. *BMC Evolutionary Biology* 18, 83.
245. Nakashima, K., 2018. A comparative approach to decipher intestinal animal-microbe associations. *Microbial Cell* 5, 522-524.
246. Nakashima, K., Kikuchi, S., 2018. Chitin-based barrier immunity and its loss predated mucus-colonization by indigenous gut microbiota, *Experimental Medicine (Jikken Igaku)*, pp. 69-72.
247. Nakashima, K., Kimura, S., Ogawa, Y., Watanabe, S., Soma, S., Kaneko, T., Yamada, L., Sawada, H., Tung, C.-H., Lu, T.-M., Yu, J.-K., Villar-Brioners, A., Kikuchi, S., Satoh, N., 2018. Chitin-based barrier immunity and its loss predated mucus-colonization by indigenous gut microbiota. *Nature Communications* 9, 1-13.
248. Nakazawa, K., Sato, G., Kokubun, M., Enoto, T., Fukazawa, Y., Hagino, K., Hayashi, K., Kataoka, J., Katsuta, J., Kobayashi, S.B., Laurent, P., Lebrun, F., Limousin, O., Maier, D., Makishima, K., Mizuno, T., Mori, K., Nakamori, T., Nakano, T., Noda, H., Odaka, H., Ohno, M., Ohta, M., Saito, S., Sato, R., Tajima, H., Takahashi, H., Takahashi, T., Takeda, S.i., Tanaka, T., Terada, Y., Uchiyama, H., Uchiyama, Y., Watanabe, S., Yamaoka, K., Yatsu, Y., Yuasa, T., 2018. Hard

- x-ray imager onboard Hitomi (ASTRO-H). *Journal of Astronomical Telescopes Instruments and Systems* 4, 12.
249. Nakazawa, N., Arakawa, O., Ebe, M., Yanagida, M., 2019. Casein kinase II-dependent phosphorylation of DNA topoisomerase II suppresses the effect of a catalytic topo II inhibitor, ICRF-193, in fission yeast. *Journal of Biological Chemistry* 294, 3772-3782.
 250. Nakazawa, N., Teruya, T., Sajiki, K., Kumada, K., Villar-Briones, A., Arakawa, O., Takada, J., Saitoh, S., Yanagida, M., 2018. The putative ceramide-conjugation protein Cwh43 regulates G0 quiescence, nutrient metabolism and lipid homeostasis in fission yeast. *Journal of cell science* 131.
 251. Narasimha, S., Nagornov, K.O., Menin, L., Mucciolo, A., Rohwedder, A., Humbel, B.M., Stevens, M., Thum, A.S., Tsybin, Y.O., Vijendravarma, R.K., 2019. *Drosophila melanogaster* cloak their eggs with pheromones, which prevents cannibalism. *PLoS Biology* 17.
 252. Nayak, K.P., Sadgrove, M., Yalla, R., Le Kien, F., Hakuta, K., 2018. Nanofiber quantum photonics. *Journal of Optics* 20.
 253. Neiman, Y., 2018. Holographic quantization of linearized higher-spin gravity in the de Sitter causal patch. *Journal of High Energy Physics* 2018, 1-51.
 254. Nieddu, T., Ray, T., Subramonian Rajasree, K.P., Roy, R., Nic Chormaic, S., 2019. Simple, narrow, and robust atomic frequency reference at 993 nm exploiting the rubidium (Rb) 5S_{1/2} to 6S_{1/2} transition using one-color two-photon excitation *Optics Express* 27, 6528-6535.
 255. Nishimura, K., Johmura, Y., Deguchi, K., Jiang, Z., Uchida, K.S.K., Suzuki, N., Shimada, M., Chiba, Y., Hirota, T., Yoshimura, S.H., Kono, K., Nakanishi, M., 2019. Cdk1-mediated DIAPH1 phosphorylation maintains metaphase cortical tension and inactivates the spindle assembly checkpoint at anaphase. *Nature Communications* 10, 981.
 256. Nishitsuji, K., Arimoto, A., Higa, Y., Mekaru, M., Kawamitsu, M., Satoh, N., Shoguchi, E., FY2019. Draft genome of the brown alga, *Nemacystus decipiens*, Onna-1 strain: Fusion of genes involved in the sulfated fucan biosynthesis pathway. *Scientific Reports* 9.
 257. Noda, T., Satoh, N., Asami, T., 2019. Heterochirality results from reduction of maternal diaph expression in a terrestrial pulmonate snail. *Zoological Letters* 5, 1.
 258. Odaka, H., Asai, M., Hagino, K., Koi, T., Madejski, G., Mizuno, T., Ohno, M., Saito, S., Sato, T., Wright, D.H., Enoto, T., Fukazawa, Y., Hayashi, K., Kataoka, J., Katsuta, J., Kawaharada, M., Kobayashi, S.B., Kokubun, M., Laurent, P., Lebrun, F., Limousin, O., Maier, D., Makishima, K., Mimura, T., Miyake, K., Mori, K., Murakami, H., Nakamori, T., Nakano, T., Nakazawa, K., Noda, H.,

- Ohta, M., Ozaki, M., Sato, G., Sato, R., Tajima, H., Takahashi, H., Takahashi, T., Takeda, S.i., Tanaka, T., Tanaka, Y., Terada, Y., Uchiyama, H., Uchiyama, Y., Watanabe, S., Yamaoka, K., Yasuda, T., Yatsu, Y., Yuasa, T., Zoglauer, A., 2018. Modeling of proton-induced radioactivation background in hard X-ray telescopes: Geant4-based simulation and its demonstration by Hitomi's measurement in a low Earth orbit. *Nuclear Instruments & Methods in Physics Research Section a-Accelerators Spectrometers Detectors and Associated Equipment* 891, 92-105.
259. Oka, H., Okada, Y., Hitosugi, T., Fukumura, T., 2018. Two distinct surface terminations of SrVO₃ (001) ultrathin films as an influential factor on metallicity. *Applied Physics Letters* 113, 1-4.
260. Okada, Y., 2018. Broken symmetry and mass acquisition in topological crystalline insulators *Solid State Physics*, p. 11.
261. Okutani, A., Kida, T., Narumi, Y., Shimokawa, T., Honda, Z., Kindo, K., Nakano, T., Nozue, Y., Hagiwara, M., 2018. High-field Magnetism of the Honeycomb-lattice Antiferromagnet Cu₂(pymca)₃(ClO₄). *Journal of the Physical Society of Japan* 88, 1-5.
262. Ono, L.K., Hawash, Z., Juarez-Perez, E.J., Qiu, L., Jiang, Y., Qi, Y., 2018. Photodecomposition and thermal decomposition in methylammonium halide lead perovskites and inferred design principles to increase photovoltaic device stability. *Journal of Materials Chemistry A* 6, 9604-9612.
263. Ono, L.K., Hawash, Z., Juarez-Perez, E.J., Qiu, L., Jiang, Y., Qi, Y., 2018. The influence of secondary solvents on the morphology of a spiro-MeOTAD hole transport layer for lead halide perovskite solar cells. *Journal of Physics D: Applied Physics* 51, 1-13.
264. Ono, L.K., Qi, Y., Liu, S., 2018. Progress toward Stable Lead Halide Perovskite Solar Cells. *Joule* 2, 1961-1990.
265. Orita, T., Koyama, A., Yoshino, M., Kamada, K., Yoshikawa, A., Shimazoe, K., Sugawara, H., 2018. The current mode Time-over-Threshold ASIC for a MPPC module in a TOF-PET system. *Nuclear Instruments & Methods in Physics Research Section a-Accelerators Spectrometers Detectors and Associated Equipment* 912, 303-308.
266. Palmer, S.R., Ren, Z., Hwang, G., Liu, Y., Combs, A., Soderstrom, B., Vasquez, P.L., Khosravi, Y., Brady, L.J., Koo, H., Stoodley, P., 2019. Streptococcus mutans yidC1 and yidC2 Impact cell envelope biogenesis, the biofilm matrix, and biofilm biophysical properties. *J Bacteriol* 201.
267. Parisi, G.I., Tani, J., Weber, C., Wermter, S., 2018. Lifelong Learning of Spatiotemporal Representations With Dual-Memory Recurrent Self-Organization. *Frontiers in Neurorobotics* 12.

268. Park, N.-G., Huang, J., Qi, Y., 2018. Themed issue on perovskite solar cells: research on metal halide perovskite solar cells towards deeper understanding, upscalable fabrication, long-term stability and Pb-free alternatives. *Sustainable Energy & Fuels* 2, 2378-2380.
269. Patil, P., Filonenko, G., Lapointe, S., Fayzullin, R.R., Khusnutdinova, J., 2018. Interplay between the Conformational Flexibility and Photoluminescent Properties of Mononuclear Pyridinophanecopper(I) Complexes. *Inorganic Chemistry* 57, 10009-10027.
270. Pigolotti, S., Cencini, M., Molina, D., Munoz, M.A., 2018. Stochastic Spatial Models in Ecology: A Statistical Physics Approach. *Journal of Statistical Physics* 172, 44-73.
271. Poetsch, A.R., Boulton, S.J., Luscombe, N.M., 2018. Genomic landscape of oxidative DNA damage and repair reveals regioselective protection from mutagenesis. *Genome Biology* 19, 215.
272. Qi, Y., 2019. A redox shuttle imparts operational durability to perovskite solar cells. *Sci Bull* 64, 224-226.
273. Qiu, L., Liu, Z., Ono, L.K., Jiang, Y., Son, D.-Y., Hawash, Z., He, S., Qi, Y., 2018. Scalable fabrication of stable high efficiency perovskite solar cells and modules utilizing room temperature sputtered SnO₂ electron transport layer. *Advanced Functional Materials* 2018, 1-9.
274. Remeika, M., Qi, Y., 2018. Scalable solution coating of the absorber for perovskite solar cells. *Journal of Energy Chemistry* 27, 1101-1110.
275. Reshodko, I., Benseny C., A., Romhányi, J., Busch, T., 2019. Topological states in the Kronig–Penney model with arbitrary scattering potentials. *New Journal of Physics* 21.
276. Richter, A., Keller, R.A., Rosumekd, F.B., Economo, E.P., Hita Garcia, F., Beutel, R.G., 2019. The cephalic anatomy of workers of the ant species *Wasmannia affinis* (Formicidae, Hymenoptera, Insecta) and its evolutionary implications. *Arthropod Structure & Development* 49, 26-49.
277. Romhányi, J., 2019. Multipolar edge states in the anisotropic kagome antiferromagnet. *Physical Review B* 99, 014408.
278. Roome, C.J., Kuhn, B., 2018. Simultaneous dendritic voltage and calcium imaging and somatic recording from Purkinje neurons in awake mice. *Nature Communications* 9, 3388.
279. Ross, S.R.P.J., Hita Garcia, F., Fischer, G., Peters, M.K., 2018. Selective logging intensity in an East African rain forest predicts reductions in ant diversity. *Biotropica* 0, 1-11.

280. Sabuwala, T., Butcher, C., Gioia, G., Chakraborty, P., 2018. Ray Systems in Granular Cratering. *Physical Review Letters* 120, 1-5.
281. Sachdeva, R., Metz, F., Singh, M., Mishra, T., Busch, T., 2018. Two-leg-ladder Bose-Hubbard models with staggered fluxes. *Physical Review A* 98, 1-8.
282. Saeki, T., Maeda, K., Naruse, T., 2018. Taxonomy and morphology of *Macrobrachium placidulum* species-group (Crustacea: Decapoda: Caridea: Palaemonidae) from the Ryukyu Archipelago, *Fauna Ryukyuana*, pp. 33-53.
283. Saito, S., Ozawa, H., Fujioka, M., Hikishima, K., Hata, J., Kurihara, S., Okano, H.J., Ogawa, K., 2018. Visualization of nerve fibers around the carotid bifurcation with use of a 9.4 Tesla microscopic magnetic resonance diffusion tensor imaging with tractography. *Head Neck* 40, 2228-2234.
284. Sajiki, K., Tahara, Y., Uehara, L., Sasaki, T., Pluskal, T., Yanagida, M., 2018. Genetic regulation of mitotic competence in G0 quiescent cells. *Science Advances* 4.
285. Sarbajna, A., Patil, P.H., Dinh, M.H., Gladkovskaya, O., Fayzullin, R.R., Lapointe, S., Khaskin, E., Khusnutdinova, J.R., 2019. Facile and reversible double dearomatization of pyridines in non-phosphine Mn-I complexes with N,S-donor pyridinophane ligand. *Chemical Communications* 55, 3282-3285.
286. Sato, K.N., Andersson, A.J., Day, J.M.D., Taylor, J.R.A., Frank, M.B., Jung, J.-Y., McKittrick, J., Levin, L.A., 2018. Response of Sea Urchin Fitness Traits to Environmental Gradients Across the Southern California Oxygen Minimum Zone. *Frontiers in Marine Science* 5, 1-15.
287. Satoh, N., 2018. Transgenic Ascidians Foreword, in: Sasakura, Y. (Ed.), *Transgenic Ascidians*. Springer-Verlag Singapore Pte Ltd, Singapore, pp. V-VI.
288. Saze, H., 2018. Epigenetic regulation of intragenic transposable elements: A two-edged sword. *The Journal of Biochemistry*, 1-6.
289. Scheffrahn, R.H., Bourguignon, T., Akama, P.D., Sillam-Dussès, D., Šobotník, J., 2018. *Roisinitermes ebogoensis* gen. & sp. n., an outstanding drywood termite with snapping soldiers from Cameroon (Isoptera, Kalotermitidae). *ZooKeys* 787, 91-105.
290. Schloss, J., O’Riordan, L.J., 2018. GPUE: Graphics Processing Unit Gross–Pitaevskii Equation solver. *The Journal of Open Source Software* 3, 1-3.
291. Schnedler-Meyer, N.A., Pigolotti, S., Mariani, P., 2018. Evolution of Complex Asexual Reproductive Strategies in Jellyfish. *American Naturalist* 192, 72-80.
292. Schönke, J., Fried, E., 2018. Single degree of freedom everting ring linkages with nonorientable topology. *Proceedings of the National Academy of Science USA* 116, 90-95.

293. Schönke, J., Fried, E., 2019. Single degree of freedom everting ring linkages with nonorientable topology. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 116, 90-95.
294. Sekigami, Y., Kobayashi, T., Omi, A., Nishitsuji, K., Ikuta, T., Fujiyama, A., Satoh, N., Saiga, H., 2019. Note to: Hox gene cluster of the ascidian, *Halocynthia roretzi*, reveals multiple ancient steps of cluster disintegration during ascidian evolution. *Zoological Letters* 5, 1-3.
295. Shabani, P., Izadpanah, S., Aghebati-Maleki, A., Baghbani, E., Baghbanzadeh, A., Fotouhi, A., Bakhshinejad, B., Aghebati-Maleki, L., Baradaran, B., 2019. Role of miR-142 in the pathogenesis of osteosarcoma and its potential as therapeutic approach. *Journal of Cell Biochemistry* 120, 4783-4793.
296. Shah, P., Dissanayake, S.T.M., Fujita, Y., Nunes, P.A.L.D., 2019. Impact of a local, coastal community based management regime when defining marine protected areas: Empirical results from a study in Okinawa, Japan. *PLoS One*.
297. Shea, D.J., Shimizu, M., Itabashi, E., Miyaji, N., Miyazaki, J., Osabe, K., Kaji, M., Okazaki, K., Fujimoto, R., 2018. Genome re-sequencing, SNP analysis, and genetic mapping of the parental lines of a commercial F1 hybrid cultivar of Chinese cabbage. *Breeding Science* 68, 375-380.
298. Shibata, H., Chijiwa, T., Oda-Ueda, N., Nakamura, H., Yamaguchi, K., Hattori, S., Matsubara, K., Matsuda, Y., Yamashita, A., Isomoto, A., Mori, K., Tashiro, K., Kuhara, S., Yamasaki, S., Fujie, M., Goto, H., Koyanagi, R., Takeuchi, T., Fukumaki, Y., Ohno, M., Shoguchi, E., Hisata, K., Satoh, N., Ogawa, T., 2018. The habu genome reveals accelerated evolution of venom protein genes. *Scientific Reports* 8, 1-11.
299. Shimada, H., Takahashi, K., Ueda, H.T., 2018. Quantum interactions of topological solitons from electrodynamics. *Physical Review B* 97, 16.
300. Shindou, T., Ochi-Shindou, M., Murayama, T., Momohara, Y., Saita, E.-i., Wickens, J.R., Maruyama, I.N., 2019. Active propagation of dendritic electrical signals in *C. elegans*. *Scientific Reports*.
301. Shindou, T., Shindou, M., Watanabe, S., Wickens, J., 2018. A silent eligibility trace enables dopamine-dependent synaptic plasticity for reinforcement learning in the mouse striatum. *European Journal of Neuroscience*.
302. Shintake, T., 2018. *New Wave Energy, Clean Energy*, pp. 14-19.
303. Shirai, Y.-T., Mizutani, A., Nishijima, S., Horie, M., Kikuguchi, C., Elisseeva, O., Yamamoto, T., 2018. CNOT3 targets negative cell cycle regulators in non-small cell lung cancer development. *Oncogene*.
304. Shiraishi, A., Okuda, T., Miyasaka, N., Osugi, T., Okuno, Y., Inoue, J., Satake, H., 2019. Repertoires of G protein-coupled receptors for *Ciona*-specific

neuropeptides. Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America.

305. Shoemark, D.K., Adams, J.C., Ziegler, B., Strompen, J., Özbek, S., Watanabe, H., Tucker, R.P., 2019. Emergence of a thrombospondin superfamily at the origin of metazoans. *Molecular Biology and Evolution*.
306. Shoguchi, E., 2018. Molecular biology of diverse symbiotic dinoflagellate *Symbiodinium*, *The Japanese Journal of Phycology* (Sôrui), pp. 169-172.
307. Shoguchi, E., Beedessee, G., Tada, I., Hisata, K., Kawashima, T., Takeuchi, T., Arakaki, N., Fujie, M., Koyanagi, R., Roy, M.C., Kawachi, M., Hidaka, M., Satoh, N., Shinzato, C., 2018. Two divergent *Symbiodinium* genomes reveal conservation of a gene cluster for sunscreen biosynthesis and recently lost genes. *BMC Genomics* 19.
308. Sibille, R., Gauthier, N., Yan, H., Ciomaga Hatnean, M., Ollivier, J., Winn, B., Filges, U., Balakrishnan, G., Kenzelmann, M., Shannon, N., Fennell, T., 2018. Experimental signatures of emergent quantum electrodynamics in Pr₂Hf₂O₇. *Nature Physics*.
309. Sieveritz, B., Garcia-Munoz, M., Arbuthnott, G.W., 2019. Thalamic afferents to prefrontal cortices from ventral motor nuclei in decision-making. *European Journal of Neuroscience* 49, 646-657.
310. Smith, A.B., Godsoe, W., Rodríguez-Sánchez, F., Wang, H.-H., Warren, D., 2018. Niche estimation above and below the species level. *Trends in Ecology & Evolution* 34, 260-273.
311. Soderstrom, B., Badrutdinov, A., Chan, H., Skoglund, U., 2018. Cell shape-independent FtsZ dynamics in synthetically remodeled bacterial cells. *Nature Communications* 9, 4323.
312. Soderstrom, B., Chan, H., Daley, D.O., 2019. Super-resolution images of peptidoglycan remodelling enzymes at the division site of *Escherichia coli*. *Current genetics* 65, 99-101.
313. Soeda, S., Yamada-Nomoto, K., Michiue, T., Ohsugi, M., 2018. RSK-MASTL Pathway Delays Meiotic Exit in Mouse Zygotes to Ensure Paternal Chromosome Stability. *Developmental Cell* 47, 363-+.
314. Souto-Vilaros, D., Proffit, M., Buatois, B., Rindos, M., Sisol, M., Kuyaiva, T., Isua, B., Michalek, J., Darwell, C.T., Hossaert-McKey, M., Weiblen, G.D., Novotny, V., Segar, S.T., 2018. Pollination along an elevational gradient mediated both by floral scent and pollinator compatibility in the fig and fig-wasp mutualism. *Journal of Ecology* 106, 2256-2273.
315. Staab, M., Hita Garcia, F., Liu, C., Xu, Z.-H., Economo, E.P., 2018. Systematics of the ant genus *Proceratium* Roger (Hymenoptera, Formicidae, Proceratiinae) in

China – with descriptions of three new species based on micro-CT enhanced next-generation-morphology. *ZooKeys* 770, 137-192.

316. Steele, A.J., Denaxas, S.C., Shah, A.D., Hemingway, H., Luscombe, N.M., 2018. Machine learning models in electronic health records can outperform conventional survival models for predicting patient mortality in coronary artery disease. *PLoS One* 13, 20.
317. Stefani, D., Weiland, K.J., Skripnik, M., Hsu, C., Perrin, M.L., Mayor, M., Pauly, F., van der Zant, H.S.J., 2018. Large Conductance Variations in a Mechanosensitive Single-Molecule Junction. *Nano Letters* 18, 5981-5988.
318. Stoltenberg, H., 2018. Properties of the (un)complexity of subsystems. *Proceedings of the National Academy of Science USA* 98.
319. Stourm, E., Zhang, Y., Lepers, M., Guerout, R., Robert, J., Nic Chormaic, S., Molmer, K., Brion, E., 2019. Spontaneous emission of a sodium Rydberg atom close to an optical nanofibre. *Journal of Physics B: Atomic, Molecular and Optical Physics* 52, 045503.
320. Sugita, Y., Matsunami, H., Kawaoka, Y., Noda, T., Wolf, M., 2018. Cryo-EM structure of the Ebola virus nucleoprotein-RNA complex at 3.6 Å resolution. *Nature* 563, 137-140.
321. Suma, M., Kitagawa, T., Nakase, Y., Nakazawa, N., Yanagida, M., Matsumoto, T., 2018. Fission Yeast CENP-C (Cnp3) Plays a Role in Restricting the Site of CENP-A Accumulation. *G3: Genes, Genomes, Genetics* 8, 2723-2733.
322. Suzuki, K.G.N., Ando, H., Komura, N., Fujiwara, T., Kiso, M., Kusumi, A., 2018. Unraveling of lipid raft organization in cell plasma membranes by single-molecule imaging of ganglioside probes. *Advances in Experimental Medicine and Biology* 1104, 41-58.
323. Suzuki, T., Kikuguchi, C., Nishijima, S., Nagashima, T., Takahashi, A., Okada, M., Yamamoto, T., 2019. Postnatal liver functional maturation requires Cnot complex-mediated decay of mRNAs encoding cell cycle and immature liver genes. *Development* 146, 1-15.
324. Tajima, H., Watanabe, S., Fukazawa, Y., Blandford, R., Enoto, T., Goldwurm, A., Hagino, K., Hayashi, K., Ichinohe, Y., Kataoka, J., Katsuta, J.i., Kitaguchi, T., Kokubun, M., Laurent, P., Lebrun, F., Limousin, O., Madejski, G.M., Makishima, K., Mizuno, T., Mori, K., Nakamori, T., Nakano, T., Nakazawa, K., Noda, H., Odaka, H., Ohno, M., Ohta, M., Saito, S., Sato, G., Sato, R., Takeda, S.i., Takahashi, H., Takahashi, T., Tanaka, T., Tanaka, Y., Terada, Y., Uchiyama, H., Uchiyama, Y., Yamaoka, K., Yatsu, Y., Yonetoku, D., Yuasao, T., 2018. Design and performance of Soft Gamma-ray Detector onboard the Hitomi (ASTRO-H) satellite. *Journal of Astronomical Telescopes Instruments and Systems* 4, 14.

325. Takahashi, S., Osabe, K., Fukushima, N., Takuno, S., Miyaji, N., Shimizu, M., Takahashi-Yasuda, T., Suzuki, Y., Deniss, E.S., Seki, M., Ryo, F., 2018. Genome-wide characterization of DNA methylation, small RNA expression, and histone H3 lysine nine di-methylation in *Brassica rapa* L. *DNA Research*, 1-10.
326. Takahashi, T., Kokubun, M., Mitsuda, K., Kelley, R.L., Ohashi, T., Aharonian, F., Akamatsu, H., Akimoto, F., Allen, S.W., Anabuki, N., Angelini, L., Arnaud, K., Asai, M., Audard, M., Awaki, H., Axelsson, M., Azzarello, P., Baluta, C., Bamba, A., Bando, N., Bautz, M.W., Bialas, T., Blandford, R., Boyce, K., Brenneman, L.W., Brown, G.V., Bulbul, E., Cackett, E.M., Canavan, E., Chernyakova, M., Chiao, M.P., Coppi, P.S., Costantini, E., Dell, S.O., DiPirro, M., Done, C., Dotani, T., Doty, J., Ebisawa, K., Eckart, M.E., Enoto, T., Ezoe, Y., Fabian, A.C., Ferrigno, C., Foster, A.R., Fujimoto, R., Fukazawa, Y., Funk, S., Furuzawa, A., Galeazzi, M., Gallo, L.C., Gandhi, P., Gilmore, K., Giustini, M., Goldwurm, A., Gu, L.Y., Guainazzi, M., Haas, D., Haba, Y., Hagino, K., Hamaguchi, K., Harrus, I.M., Hatsukade, I., Hayashi, T., Hayashi, K., Hayashida, K., den Herder, J.W., Hiraga, J.S., Hirose, K., Hornschemeier, A., Hoshino, A., Hughes, J.P., Ichinohe, Y., Iizuka, R., Inoue, H., Inoue, Y., Ishibashi, K., Ishida, M., Ishikawa, K., Ishimura, K., Ishisaki, Y., Itoh, M., Iwai, M., Iwata, N., Iyomoto, N., Jewell, C., Kaastra, J., Kallman, T., Kamae, T., Kara, E., Kataoka, J., Katsuda, S., Katsuta, J., Kawaharada, M., Kawai, N., Kawano, T., Kawasaki, S., Khangulyan, D., Kilbourne, C.A., Kimball, M., King, A., Kitaguchi, T., Kitamoto, S., Kitayama, T., Kohmura, T., Konami, S., Kosaka, T., Koujelev, A., Koyama, K., Koyama, S., Kretschmar, P., Krimm, H.A., Kubota, A., Kunieda, H., Laurent, P., Lee, S.H., Leutenegger, M.A., Limousin, O., Loewenstein, M., Long, K.S., Lumb, D., Madejski, G., Maeda, Y., Maier, D., Makishima, K., Markevitch, M., Masters, C., Matsumoto, H., Matsushita, K., McCammon, D., McGuinness, D., McNamara, B.R., Mehdipour, M., Miko, J., Miller, E.D., Miller, J.M., Mineshige, S., Minesugi, K., Mitsuishi, I., Miyazawa, T., Mizuno, T., Mori, H., Mori, K., Moroso, F., Moseley, H., Muench, T., Mukai, K., Murakami, H., Murakami, T., Mushotzky, R.F., Nagano, H., Nagino, R., Nakagawa, T., Nakajima, H., Nakamori, T., Nakano, T., Nakashima, S., Nakazawa, K., Namba, Y., Natsukari, C., Nishioka, Y., Nobukawa, K.K., Nobukawa, M., Noda, H., Nomachi, M., Odaka, H., Ogawa, H., Ogawa, M., Ogi, K., Ohno, M., Ohta, M., Okajima, T., Okamoto, A., Okazaki, T., Ota, N., Ozaki, M., Paerels, F., Paltani, S., Parmar, A., Petre, R., Pinto, C., de Plaa, J., Pohl, M., Pontius, J., Porter, F.S., Pottschmidt, K., Ramsey, B., Reynolds, C., Russell, H., Safi-Harb, S., Saito, S., Sakai, K., Sakai, S., Sameshima, H., Sasaki, T., Sato, G., Sato, K., Sato, R., Sato, Y., Sawada, M., Schartel, N., Serlemitsos, P.J., Seta, H., Shibano, Y., Shida, M., Shidatsu, M., Shimada, T., Shinozaki, K., Shirron, P., Simionescu, A., Simmons, C., Smith, R.K., Sneiderman, G., Soong, Y., Stawarz, L., Sugawara, Y., Sugita, S., Sugita, H., Szymkowiak, A., Tajima, H., Takahashi, H., Takeda, S., Takei, Y., Tamagawa, T., Tamura, T., Tamura, K.,

- Tanaka, T., Tanaka, Y., Tanaka, Y.T., Tashiro, M.S., Tawara, Y., Terada, Y., Terashima, Y., Tombesi, F., Tomida, H., Tsuboi, Y., Tsujimoto, M., Tsunemi, H., Tsuru, T.G., Uchida, H., Uchiyama, H., Uchiyama, Y., Ueda, S., Ueda, Y., Ueno, S., Uno, S., Urry, C.M., Ursino, E., de Vries, C.P., Wada, A., Watanabe, S., Watanabe, T., Werner, N., Wik, D.R., Wilkins, D.R., Williams, B.J., Yamada, S., Yamada, T., Yamaguchi, H., Yamaoka, K., Yamasaki, N.Y., Yamauchi, M., Yamauchi, S., Yaqoob, T., Yatsu, Y., Yonetoku, D., Yoshida, A., Yuasa, T., Zhuravleva, I., Zoghbi, A., 2018. Hitomi (ASTRO-H) X-ray Astronomy Satellite. *Journal of Astronomical Telescopes Instruments and Systems* 4, 13.
327. Takashina, N., Beger, M., Kusumoto, B., Rathnayake, S., Possingham, H.P., 2018. A theory for ecological survey methods to map individual distributions. *Theoretical Ecology* 11, 213-223.
328. Takashina, N., Kusumoto, B., Beger, M., Rathnayake, S., Possingham, H.P., 2018. Spatially explicit approach to estimation of total population abundance in field surveys. *Journal of Theoretical Biology* 453, 88-95.
329. Takashina, N., Kusumoto, B., Kubota, Y., Economo, E.P., 2019. A geometric approach to scaling individual distributions to macroecological patterns. *Journal of Theoretical Biology* 461, 170-188.
330. Takayanagi, T., Ugajin, T., Umemoto, K., 2018. Towards an entanglement measure for mixed states in CFTs based on relative entropy. *Journal of High Energy Physics*, 31.
331. Takebe, H., Shirasawa, K., Fujita, J., Misumi, S., Shintake, T., 2018. Development of OIST Wave Energy Converter Monitoring System for Maldives Island Experiment. *Journal of Energy and Power Engineering* 12, 375-384.
332. Takeda, S.i., Katsuragawa, M., Orita, T., Moriyama, F., Arai, Y., Sugawara, H., Oshita, S., Yabu, G., Watanabe, S., Takahashi, T., Furenlid, L.R., 2018. A high-resolution CdTe imaging detector with multi-pinhole optics for in-vivo molecular imaging. *Nuclear Instruments & Methods in Physics Research Section a-Accelerators Spectrometers Detectors and Associated Equipment* 912, 57-60.
333. Takeuchi, T., Plasseraud, L., Ziegler-Devin, I., Brosse, N., Shinzato, C., Satoh, N., Marin, F., 2018. Biochemical characterization of the skeletal matrix of the massive coral, *Porites australiensis* – The saccharide moieties and their localization. *Journal of Structural Biology*.
334. Tang, Q., Bourguignon, T., Willenmse, L., De Coninck, E., Evans, T., 2019. Global spread of the German cockroach, *Blattella germanica*. *Biol Invasions* 21, 693-707.
335. Tani, J., 2018. Understanding of consciousness and free will from neurorobotics studies. , in: 平井靖史・藤田尚志・安孫子信 (Ed.), *Reconsidering "Material*

and memory" -- Development of the extended Bergson's thoughts Shoshi Shinsui, Tokyo, Japan.

336. Teruya, T., Chaleckis, R., Takada, J., Yanagida, M., Kondoh, H., 2019. Diverse metabolic reactions activated during 58-hr fasting are revealed by non-targeted metabolomic analysis of human blood. *Scientific Reports* 9, 854.
337. Tijani, M., Munis, A.M., Perry, C., Sanber, K., Ferraresso, M., Mukhopadhyay, T., Themis, M., Nisoli, I., Mattiuzzo, G., Collins, M.K., Takeuchi, Y., 2018. Lentivector Producer Cell Lines with Stably Expressed Vesiculovirus Envelopes. *Molecular Therapy - Methods & Clinical Development* 10, 303-312.
338. Tokuda, T., Yoshimoto, J., Shimizu, Y., Okada, G., Takamura, M., Okamoto, Y., Yamawaki, S., Doya, K., 2018. Identification of depression subtypes and relevant brain regions using a data-driven approach. *Scientific Reports* 8.
339. Tominaga, H., Satoh, N., Ueno, N., Takahashi, H., 2018. Enhancer activities of amphioxus Brachyury genes in embryos of the ascidian, *Ciona intestinalis*. *Genesis* 56, 1-12.
340. Tsai, H.-F., Gajdac, J., Sloan, T., Rarese, A., Shen, A.Q., 2019. Usiigaci: Label-free instance-aware cell tracking under phase contrast microscopy using machine learning. *SoftwareX* 9, 230-237.
341. Tsai, H.-F., Toda-Peters, K., Shen, A.Q., 2019. Glioblastoma adhesion in a quick-fit hybrid microdevice. *cell biology, engineering* 21, 1-14.
342. Tsai, H.-F., Toda-Peters, K., Shen, A.Q., 2019. Glioblastoma adhesion in a quick-fit hybrid microdevice. *Biomed Microdevices* 21, 30.
343. Tsunoyama, T.A., Watanabe, Y., Goto, J., Naito, K., Kasai, R.S., Suzuki, K.G.N., Fujiwara, T.K., Kusumi, A., 2018. Super-long single-molecule tracking reveals dynamic-anchorage-induced integrin function. *Nature Chemical Biology* 14, 497-506.
344. Tsutsumi, H., Katsuyama, Y., Izumikawa, M., Takagi, M., Fujie, M., Satoh, N., Shin-ya, K., Ohnishi, Y., 2018. Unprecedented Cyclization Catalyzed by a Cytochrome P450 in Benzastatin Biosynthesis. *Journal of American Chemical Society* 140, 6631-6639.
345. Tsvietkova, A., 2019. Simplicial volume of links from link diagrams. *Mathematical Proceedings Cambridge Philosophical Society* 166 75-81.
346. Tsvietkova, A., 2019. Determining isotopy classes of crossing arcs in alternating links. *Asian Journal of Mathematics* 22, 1005 – 1024.
347. Tupec, M., Buček, A., Janoušek, V., Vogel, H., Prchalová, D., Kindl, J., Pavlíčková, T., Wenzelová, P., Jahn, U., Valterová, I., Pichová, I., 2019. Expansion of the fatty acyl reductase gene family shaped pheromone communication in Hymenoptera. *eLife* 8, e39231.

348. Turkevych, I., Kazaoui, S., Belich, N.A., Grishko, A.Y., Fateev, S.A., Petrov, A.A., Urano, T., Aramaki, S., Kosar, S., Kondo, M., Goodilin, E.A., Graetzel, M., Tarasov, A.B., 2019. Strategic advantages of reactive polyiodide melts for scalable perovskite photovoltaics. *Nature Nanotechnology* 14, 57-63.
349. Uchiyama, Y., Odani, S., Kashima, M., Kamidaira, Y., Mitarai, S., 2018. Influences of the Kuroshio on Interisland Remote Connectivity of Corals Across the Nansei Archipelago in the East China Sea. *Journal of Geophysical Research-Oceans* 123, 9245-9265.
350. Ueki, T., Fujie, M., Rmaidi, Satoh, N., 2019. Symbiotic bacteria associated with ascidian vanadium accumulation identified by 16S rRNA amplicon sequencing. *Marine Genomics* 43, 33-42.
351. Usui, A., Buca, B., Mur-Petit, J., 2018. Quantum probe spectroscopy for cold atomic systems. *New Journal of Physics* 20, 10.
352. Villar Briones, A., Aird, S.D., 2018. Organic and Peptidyl Constituents of Snake Venoms: The Picture Is Vastly More Complex Than We Imagined. *Toxins* 10, 392.
353. Vrieler, N., Loyola, S., Yarden-Rabinowitz, Y., Hoogland, T.M., De Zeeuw, C.I., De Schutter, E., Torben-Nielsen, B., Uusisaari, M.Y., 2019. Variability and directionality of inferior olive neuron dendrites revealed by detailed 3D characterization of an extensive morphological library. *Brain Structure and Function*, 1-19.
354. Wang, B., Tanaka, K., Ninomiya, Y., Maruyama, K., Vares, G., Katsube, T., Murakami, M., Liu, C., Fujimori, A., Fujita, K., Liu, Q., Eguchi-Kasai, K., Neno, M., 2018. Increased Hematopoietic Stem Cells/Hematopoietic Progenitor Cells Measured as Endogenous Spleen Colonies in Radiation-Induced Adaptive Response in Mice (Yonezawa Effect). *Dose Response* 16.
355. Wang, M., Bucek, A., Sobotonik, J., Sillam-Dussès, D., Evans, T.A., Roisin, Y., Lo, N., Bourguignon, T., 2018. Historical biogeography of the termite clade Rhinotermitinae (Blattodea: Isoptera). *Molecular Phylogenetics and Evolution* 132, 100-104.
356. Wang, M., Huang, S., Li, M., McKey, D., Zhang, L., 2019. Staminodes influence pollen removal and deposition rates in nectar-rewarding self-incompatible *Phanera yunnanensis* (Caesalpinioideae). *J Trop Ecol* 35, 34-42.
357. Wang, Q., Jiang, S., Qiu, L., Qian, J., Ono, L.K., Leyden, M.R., Wang, X., Shi, Y., Zheng, Y., Qi, Y., Li, Y., 2018. Interfacial Flat-Lying Molecular Monolayers for Performance Enhancement in Organic Field-Effect Transistors. *ACS Applied Material Interfaces* 10, 22513-22519.
358. Wang, S., Sakurai, T., Wen, W., Qi, Y., 2018. Energy Level Alignment at Interfaces in Metal Halide Perovskite Solar Cells. *Advanced Materials Interfaces* 5, 30.

359. Wang, X., Yu, Y., Wang, S., Ward, J.M., Nic Chormaic, S., 2018. Single mode green lasing and multicolor luminescent emission from an Er^{3+} - Yb^{3+} co-doped compound fluorosilicate glass microsphere resonator *OSA Continuum* 1, 261-273.
360. Wang, Y., Rosenbaum, T.F., Palmer, A., Ren, Y., Kim, J.W., Mandrus, D., Feng, Y., 2018. Strongly-coupled quantum critical point in an all-in-all-out antiferromagnet. *Nature Communications* 9, 2953.
361. Wang, Z., Okada, Y., O'Neal, J., Zhou, W., Walkup, D., Dhital, C., Hogan, T., Clancy, P., Kim, Y.-J., Hu, Y.F., Santos, L.H., Wilson, S.D., Trivedi, N., Madhavan, V., 2018. Disorder induced power-law gaps in an insulator–metal Mott transition. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the USA* 115, 11198-11202.
362. Ward, J.M., Yang, Y., Lei, F., Yu, X.-C., Xiao, Y.-F., Nic Chormaic, S., 2018. Nanoparticle sensing beyond evanescent field interaction with a quasi-droplet microcavity. *Optica* 5, 674-677.
363. Warren, D.L., Beaumont, L.J., Dinnage, R., Baumgartner, J.B., 2019. New methods for measuring ENM breadth and overlap in environmental space. *Ecography* 42, 444-446.
364. Watson, B.N.J., Easingwood, R.A., Tong, B., Wolf, M., Salmond, G.P.C., Staals, R.H.J., Bostina, M., Fineran, P.C., 2019. Different genetic and morphological outcomes for phages targeted by single or multiple CRISPR-Cas spacers. *Philosophical Transactions of the Royal Society London B Biological Science* 374.
365. Watson, B.N.J., Easingwood, R.A., Tong, B., Wolf, M., Salmond, G.P.C., Staals, R.H.J., Bostina, M.a.F., P. C. , 2019. Different genetic and morphological outcomes for phages targeted by single or multiple CRISPR-Cas spacers. *The Royal Society Publishing* 374, 11.
366. Weber, C.P., Masten, M.G., Ogloza, T.C., Berggren, B.S., Man, M.K.L., Dani, K.M., Liu, J., Mao, Z., Klug, D.D., Adeleke, A.A., Yao, Y., 2018. Using coherent phonons for ultrafast control of the Dirac node of SrMnSb_2 . *Physical Review B* 98, 15515.
367. Weber, C.P., Schoop, L.M., Parkin, S.S.P., Newby, R.C., Neteprov, A., Lotsch, B., Mariserla, B.M.K., Kim, M.J., Dani, K.M., Bechtel, H.A., Ali, M., 2018. Directly photoexcited Dirac and Weyl fermions in ZrSiS and NbAs *Applied Physics Letters* 113.
368. White, J., 2018. Dreyfus on the “Fringe”: information processing, intelligent activity, and the future of thinking machines. *AI & Society* 33, 1-12.
369. Wong, E.L., Winchester, A.J., Pareek, V., Madéo, J., Man, M.K.L., Dani, K.M., 2018. Pulling apart photoexcited electrons by photoinducing an in-plane surface electric field. *Science Advances* 4, 1-7.

370. Wu, L.-W., Bourguignon, T., Šobotník, J., Wen, P., Liang, W.-R., Li, H.-F., 2018. Phylogenetic position of the enigmatic termite family Stylotermitidae (Insecta : Blattodea). *Invertebrate Systematics* 32, 1111-1117.
371. Wu, Z., Liu, Z., Hu, Z., Hawash, Z., Qiu, L., Jiang, Y., Ono, L.K., Qi, Y., 2019. Highly Efficient and Stable Perovskite Solar Cells via Modification of Energy Levels at the Perovskite/Carbon Electrode Interface. *Advanced Materials* 31.
372. Xu, X., Kanai, R., Nakazawa, N., Wang, L., Toyoshima, C., Yanagida, M., 2018. Suppressor mutation analysis combined with 3D modeling explains cohesin's capacity to hold and release DNA. *Proceedings of the National Academy of Science USA* 115, E4833-E4842.
373. Xu, X., Yanagida, M., 2019. Isolation of Fission Yeast Condensin Temperature-Sensitive Mutants with Single Amino Acid Substitutions Targeted to Hinge Domain. *G3 (Bethesda)*.
374. Yamada, I., Yoshino, N., Hikishima, K., Sakamoto, J., Yokokawa, M., Oikawa, Y., Harada, H., Kurabayashi, T., Saida, Y., Tateishi, U., Yukimori, A., Izumo, T., Asahina, S., 2018. Oral carcinoma: Clinical evaluation using diffusion kurtosis imaging and its correlation with histopathologic findings. *Magnetic Resonance Imaging* 51, 69-78.
375. Yamashina, F., Takeuchi, Y., Fukunaga, K., Udagawa, S., Suan Tan, E., Byun, J., Yamauchi, C., Takemura, A., 2019. Daily expression of a clock gene in the brain and pituitary of the Malabar grouper (*Epinephelus malabaricus*). *General and comparative endocrinology*.
376. Yan, H., Pohle, R., Shannon, N., 2018. Half moons are pinch points with dispersion. *Physical Review B* 98, 1-5.
377. Yanagihara, S., Yazaki-Sugiyama, Y., 2018. Social interaction with a tutor modulates responsiveness of specific auditory neurons in juvenile zebra finches. *Behavioural Processes*.
378. Yao, X.L., Wang, X.Y., Simpson, C., Paterno, G.M., Guizzard, M., Wagner, M., Cerullo, G., Scotognella, F., Watson, M.D., Narita, A., Mullen, K., 2019. Regioselective hydrogenation of a 60-carbon nanographene molecule toward a circumbiphenyl core. *Journal of the American Chemical Society* 141, 4230-4234.
379. Yasuoka, Y., Taira, M., 2018. The Molecular Basis of the Gastrula Organizer in Amphibians and Cnidarians, in: Kobayashi, K., Kitano, T., Iwao, Y., Kondo, M. (Eds.), *Reproductive and Developmental Strategies*. Springer, Tokyo, Tokyo, pp. 667-708.
380. Yasuoka, Y., Taira, M., 2019. Microinjection of DNA constructs into *Xenopus* embryos for gene misexpression and cis-regulatory module analysis. *Cold Spring Harb Protoc* 2019, 097279.

381. Yazaki-Sugiyama, Y., 2018. Neuronal mechanisms regulating the critical period of sensory experience-dependent song learning. *Neuroscience Research*.
382. Yin, F., Garifullina, A., Tanaka, F., 2018. Correction: Synthesis of pyrrolidine-3-carboxylic acid derivatives via asymmetric Michael addition reactions of carboxylate-substituted enones. *Organic & Biomolecular Chemistry* 16, 3052-3053.
383. Yokobayashi, Y., 2018. Small Molecule-Responsive RNA Switches (Bacteria): Important Element of Programming Gene Expression in Response to Environmental Signals in Bacteria, in: Smolke, C., Lee, S.Y., Nielsen, J., Stephanopoulos, G. (Eds.), *Synthetic Biology: Parts, Devices and Applications*. Wiley-VCH Verlag GmbH & Co. KGaA, Weinheim, Germany, pp. 181-188.
384. Yokobayashi, Y., 2019. Applications of high-throughput sequencing to analyze and engineer ribozymes. *Methods*.
385. Yoshimura, M., 2019. RIFA - The current crisis and the beginning of a new battle. Chapter 3. Countermeasure strategy to the invasion of RIFA under the collaborations with citizen science, *Seibutsu no Kagaku Iden*, pp. 168-172.
386. Zamora Chimal, C.G., De Schutter, E., 2018. Ca²⁺ Requirements for Long-Term Depression Are Frequency Sensitive in Purkinje Cells. *Frontiers in Molecular Neuroscience* 11, 12.
387. Zang, Y., Dieudonne, S., De Schutter, E., 2018. Voltage- and Branch-Specific Climbing Fiber Responses in Purkinje Cells. *Cell Reports* 24, 1536-1549.
388. Zayasu, Y., Suzuki, G., 2018. Comparisons of population density and genetic diversity in artificial and wild populations of an arborescent coral, *Acropora yongei*: implications for the efficacy of "artificial spawning hotspots". *Restoration Ecology*, 1-7.
389. Zhang, D., Chuang, P.-S., Cao, D., Yarkali, K., Kola, S., Tanaka, F., 2018. Detection of enantiomers of chiral primary amines by ¹H NMR analysis via enamine formation with an enantiopure γ -position aldol product of a β -keto ester. *Tetrahedron Letters* 59, 2248-2250.
390. Zhang, X., Nagai, T., Ahammad, R.U., Kuroda, K., Nakamuta, S., Nakano, T., Yukinawa, N., Funahashi, Y., Yamahashi, Y., Amano, M., Yoshimoto, J., Yamada, K., Kaibuchi, K., 2019. Balance between dopamine and adenosine signals regulates the PKA/Rap1 pathway in striatal medium spiny neurons. *Neurochemistry International* 122, 8-18.
391. Zhao, R., Takeuchi, T., Luo, Y.-J., Ishikawa, A., Kobayashi, T., Koyanagi, R., Villar-Brioners, A., Yamada, L., Sawada, H., Iwanaga, S., Nagai, K., Satoh, N., Endo, K., 2018. Dual gene repertoires for larval and adult shells reveal molecules essential for molluscan shell formation. *Molecular Biology and Evolution*, 1-11.

392. Zhong, J., Peniak, M., Tani, J., Ogata, T., Cangelosi, A., 2018. Sensorimotor input as a language generalisation tool: a neurorobotics model for generation and generalisation of noun-verb combinations with sensorimotor inputs. *Autonomous Robots*, 1-20.
393. Zucca, A., Zucca, S., Wickens, J.R., 2018. Cholinergic mechanisms in adaptive behaviour. *European Journal of Neuroscience* 47, 1146-1147.

添付資料 1. 2-2 平成30年度研究に関する受賞実績

No	研究ユニット名	賞のタイトル	URL	受賞日
1	OIST	OSA (Optical Society) 米国光学会において、OIST 「Diversity and Inclusion Advocacy Recognition Award (ダイバーシティとインクルージョンの擁護に対する功績賞) を大学として受賞した。	https://www.osa.org/en-us/get_involved/diversity_inclusion_in_osa/diversity_inclusion_advocacy_rec/2018_recipients/	平成30年9月17日
2	ジャンユニット マン・ディンセ博士	マン・ディンセ (ポストドクトラルスカラー) が、第10回国際ペプチドシンポジウム／第55回ペプチド討論会にて、トラベルアワードを受賞した。	https://www.aeplan.co.jp/10thips/index.html	平成30年11月7日
3	ジャンユニット 湯川幸江	湯川幸江 (博士課程学生) が、第10回国際ペプチドシンポジウム／第55回ペプチド討論会にて、トラベルアワードを受賞した。	https://www.aeplan.co.jp/10thips/index.html	平成30年11月7日
4	佐藤ユニット 佐藤教授	マリンゲノミックスユニット・佐藤矩行教授 (京都大学名誉教授) は、京都大学在任中における教育研究功勞により、秋の勲章・瑞宝中綬章を受章されました。	http://www8.cao.go.jp/shokun/hatsurei/30aki.html	平成30年11月3日
5	佐藤ユニット 座安佑奈	マリンゲノミックスユニット ポストドクトラルスカラーの座安佑奈博士は、日本サンゴ礁学会より論文賞を授与された。これは、2011年から2017年の間に発表された論文の中から優秀な論文を研究の独創性・革新性・波及効果の観点から選定されたものである。	http://www.jcrs.jp/wp/?page_id=2728	平成30年11月23日
6	ニコーマックユニット Ivan Toftul	ヴィジティング・リサーチ学生のIvan Toftul が、JSAP (日本応用物理学会) の年次会合にて、フォトニクス部門でポスター賞を受賞した。		
7	ニコーマックユニット トカチェンコ・ゲオルギ博士	トカチェンコ・ゲオルギ博士 (ポストドクトラル・スカラー) はJSPSポストドクトラル・フェローシップを受賞した (ユニット在籍中)。		
8	シャノン ユニット 博士課程学生	OIST、Shannon Unitに在籍する博士課程学生のHan Yan氏は、2018年から2020年の日本学術振興会 (JSPS) 若手研究者奨学金を受賞した。優秀な若手研究者に授与され、これらのフェローシップは、受賞者独自の革新的なアイデアに基づき、自由に選択された研究テーマに焦点を当てる機会を提供する。	https://www.jsps.go.jp/j-pd/index.html	平成30年4月1日
9	シャノン ユニット シャノン教授	シャノン教授が、ミュンヘン工科大学にて、August-Wilhelm Scheer Visiting Professor 2018に選ばれた。	https://www.ias.tum.de/en/members/tum-august-wilhelm-scheer-visiting-professors/	平成30年6月7日
10	ウーシサーリユニット ボグナ・イグナトフスカ ヤンコフスカ博士	OISTウーシサーリユニットJSPSリサーチフェローであるボグナ・イグナトフスカ・ヤンコフスカ博士は、オランダ国ライデンで開催された第28回国際カンナビノイド研究協会 (ICRS) 主催のカンナビノイドに関するシンポジウムにおいて、今年 (2018年) のポストドク研究成果賞を受賞した (毎年5人に贈られる)。ICRSはカンナビノイド研究をリードする国際的な学会である。	http://icrs.co/	平成30年7月5日

No	研究ユニット名	賞のタイトル	URL	受賞日
11	ウーシサーリ ユニット アレキサンダー・タン博士	OISTウーシサーリユニット ポスドク研究員アレキサンダー・タン博士は、台湾で開催された2018小脳と運動失調研究学会において、ポスター発表にて「伊藤正男賞」を受賞した。伊藤正男賞とは、その一年で最も優秀なポスター発表に贈られる賞である。	http://www.thesrca.org/?q=80	平成30年5月19日
12	クスヌディノワユニット オレステス・リバーダ ウィーラハン博士	クスヌディノワユニットのスタッフサイエンティストであるオレステス・リバーダ・ウィーラハン博士（受賞当時JSPSフェロー）は、日本化学会（CSJ）第98春季年会（2018）優秀講演賞を受賞した。この賞は、年会において優れた発表および質疑応答を行った36歳未満のCSJ会員の研究グループに贈られる賞である。	https://www.csj.jp/nenkai/98haru/data/vol71-06.pdf	平成30年4月16日
13	バンディユニット バンディ教授	バンディ教授は、日本流体力学会が発行する英文論文誌 Fluid Dynamics Research (FDR) および流体力学の発展と学術的向上を目的として、FDRに掲載された優秀な論文に与えられるFDR賞を受賞した。	http://iopscience.iop.org/article/10.1088/1873-7005/aa9280	

添付資料 1. 2-3 平成30年度 アウトリーチ活動実績

日付 Date	研究ユニット Unit, Section	プログラム名/参加者 Program, participants	内容 Contents	会場 Venue	学校	人数 Number of people
2018/4/17	Student/ Shen Unit	SGH Ochanomizu University Senior High School 3rd Grade, General Course SGH お茶の水女子大学付属高校 普通科2年	Research Outline 研究概要	Auditorium 講堂	H	74
2018/4/19	Information Services Section	Sendai Ikuei Gakuin High School Computer Science Couse 仙台育英学園高校 情報科学コース	Career Introduction 職業紹介	Auditorium 講堂	H	77
2018/4/21	Economo Unit	Kagakujikan 2018 カガクジカン2018	Event イベント	Okinawa Prefectural Museum 沖縄県立博物館		80
	Economo Unit					
	Graduate School					
	Science and Technology Group					30
2018/4/27	Chakraborty Unit	Kyuyo Junior High School 1st Graders 沖縄県立球陽中学校 1年生	Research Outline 研究概要	B250	OJ	40
2018/4/27	Bourguignon Unit					
2018/5/14	Community Relations CPR	E.C. Killin School	Research Outline 研究概要	C210	BE	32
2018/5/22	PD project (Coral Scientists) OIST students	Japan Wellness High School Okinawa 日本ウェルネス高等学校沖縄キャンパス	Research Outline 研究概要	B250	OH	33
	Rohkhsar Unit			Rohkhsar Unit Lab		
2018/5/23	PD project (Coral Scientists) OIST students	Kyuyo High School 1st-3rd Graders 沖縄県立球陽高等学校 1～3年生	Lecture, Science Activity 講義、アクティビティ	Kyuyo High School 球陽高等学校	OH	50
2018/5/29	Takahashi Unit	Kubasaki High School	Research Outline 研究概要	B250	BH	14
2018/6/8	Qi unit	Misato High School 2nd Graders 沖縄県立美里高校 2年生	Research Outline 研究概要	Auditorium 講堂	OH	51
2018/6/12	Economo unit	Toshima Gakuin High School 2nd Graders 豊島学院高等学校 2年生	Research Outline 研究概要	C210	H	37
2018/6/14	Takahashi Unit	Toshima Gakuin High School 2nd Graders 豊島学院高等学校 2年生	Research Outline 研究概要	C209	H	36
2018/6/14	Community Relations CPR	Makiminato Elementary School 浦添市立牧港小学校	Research Outline 研究概要	Auditorium 講堂	OE	90
2018/6/15	De Schutter unit	Toshima Gakuin High School 2nd Graders 豊島学院高等学校 2年生	Research Outline 研究概要	C209	H	41
2018/6/20	Dani Unit	International University of Japan 学校法人国際大学	Research Outline 研究概要	Auditorium 講堂	U	45
2018/6/26	Media CPR	Work experience for Junior High Schools in Onna 恩納村 中学校職場体験プログラム@OIST	Career Introduction 職業紹介	A151	OJ	8
	Admissions and Records Section		Career Introduction 職業紹介	A151		
	Research Specialist/Imaging section		Career Introduction 職業紹介	A151		
	Facility Managing Section		Career Introduction 職業紹介	Bosai Center and Machine room 防災センター・機械室		
	OBM		Career Introduction 職業紹介			
2018/6/26	Mikheyev Unit	Ena High School 岐阜県立恵那高等学校	Research Outline 研究紹介	Campus tour キャンパス ツアー	H	4
2018/6/27	IT Section	Work experience for Junior High Schools in Onna 恩納村 中学校職場体験プログラム@OIST	Career Introduction 職業紹介	A151	OJ	8
	Kitano Unit		Research Outline 研究紹介	B617		
	Economo Unit		Research Outline 研究紹介	Ecomono Unit Lab		
	Doya Unit		Research Outline 研究紹介	Doya Unit Lab		
2018/6/27	Community Relations CPR	Hiroshima Gakuin High School 広島学院高等学校	Research Outline 研究紹介	Campus tour キャンパス	H	4
2018/6/28	PD project (Coral Scientists) OIST students	Work experience for Junior High Schools in Onna 恩納村 中学校職場体験プログラム@OIST	Career Introduction 職業紹介	Campus tour キャンパス	OJ	8
	Community Relations CPR		Making presentaion プレゼン発表	C210		
2018/7/5	Community Relations CPR	Matsuhima Elementary School 那覇市立松島小学校	Research Outline 研究紹介	B250	OE	120
2018/7/6	Community Relations CPR	Nago Indusrial Senior High school 沖縄県立名護商工高校 1年生	Research Outline 研究紹介	Campus tour キャンパス	OH	33

2018/7/6	Economo Unit	Science Trip in Iheya with Okinawa Prefectural Library サイエンストリップin伊平屋with空飛ぶ図書館	Research Outline 研究紹介	Iheya Island 伊平屋島		20
2018/7/7						15
2018/7/11	PD project (Coral Scientists) OIST students	Yamada Junior High School 恩納村立山田中学校	Research Outline 研究紹介	C210	OJ	22
2018/7/17	Community Relations CPR	Yara Elementary School 嘉手納町立屋良小学校	Research Outline 研究紹介	B250	OE	50
2018/7/17	Nic Chormaic Unit	Ishikawa High Schol 沖縄県立石川高等学校	Research Outline 研究紹介	B250	OH	30
2018/7/18	Community Relations CPR	Maji Elementary school 那覇市立真地小学校	Research Outline 研究紹介	B250	OE	78
2018/7/28	PD project (Coral Scientists) OIST students	Unna Mtsuri うんな祭り	Event イベント	Onna Community Center 恩納コミュニティーセンター		200
	Watanabe Unit					
2018/7/29	PD project (Coral Scientists) OIST students					
	Watanabe Unit					
	Masai Unit					
2018/7/30	PD project (Coral Scientists) OIST students	University of Rykyus Faculty of Education, Junior High School 琉球大学附属中学校 3年生	Research Outline 研究紹介	C700	OJ	40
2018/7/31	Goryanin Unit	Yokatsu High School and Yokatsu Midorigaoka Junior High School 与勝高等学校・与勝緑が丘中学校	Research Outline 研究紹介	C700	OJ OH	40
2018/8/4	PD project (Coral Scientists) OIST students	QAB Summer Holiday Research Program QAB夏休み自由研究	Research Outline 研究紹介	Okinawa Convention Center 沖縄コンベンションセンター		200
2018/8/10	Community Relations CPR	沖縄市教育委員会主催 英語でお仕事プログラム Okinawa City Bord of Education sponsored Summer English Course	Career Introduction 職業紹介	OIST		308
2018/9/7	Community Relations CPR	Yogi Elementary School 那覇市立与儀小学校	Research Outline 研究紹介	B250	OE	58
2018/9/11	Community Relations CPR	Haneji Junior High School 名護市立羽地中学校	Research Outline 研究紹介	B250	OJ	77
2018/9/12	Community Relations CPR	Maeda Elementary School 浦添市立前田小学校	Research Outline 研究紹介	B250	OE	93
2018/9/13	Community Relations CPR	Josei Elementary School 那覇市立城西小学校	Research Outline 研究紹介	B250	OE	103
2018/9/14	Community Relations CPR	Jonan Elementary School 那覇市立城南小学校	Research Outline 研究紹介	B250	OE	74
2018/9/14	PD project (Coral Scientists) OIST students	Onna Elementary School Science Club 恩納小学校サイエンスクラブ	Research Outline 研究紹介	Fureai Taiken center ふれあい体験センター	OE	14
2018/9/18	Community Relations CPR	Toyama Elementary School 浦添市立当山小学校	Research Outline 研究紹介	B250	OE	208
2018/9/25	Community Relations CPR	Awa Elementary School 国頭村立安波小学校	Research Outline 研究紹介	C210	OE	10
2018/9/28	Takahashi Unit	Shukutoku High School 淑徳高等学校	Research Outline 研究紹介	C209	H	33
2018/10/3	Qi Unit	Ibaraki Prefectural Takezono High School 茨城県立竹園高等学校	Research Outline 研究紹介	Auditorium 講堂	H	82
	Maruyama Unit					81
2018/10/4	Takahashi Unit	Seishin Girls Senior High School 清心女子高等学校	Research Outline 研究紹介	C700	H	24
2018/10/9	Community Relations CPR	Nago Elementary School Science Club 名護市立名護小学校 サイエンスクラブ	Research Outline 研究紹介	Nago Elementary School 名護小学校	OE	17
2018/10/10	Community Relations CPR	Haebaru Elementary School 南風原町立南風原小学校	Research Outline 研究紹介	B250	OE	138
2018/10/10	Economo Unit	Japan-Asia Youth Science Exchange Project 日本・アジア青少年サイエンス交流事業	Research Outline Lab tour 研究紹介・ラボツアー	C210		12
	Doya Unit					
	Ishikawa Unit					
2018/10/11	施設管理セクション	Urasoe Industrial High School 沖縄県立浦添工業高校	Career Intruduction 職業紹介	MTG1	OH	62
2018/10/12	Community Relations CPR	Yomitan Elementary School 読谷村立読谷小学校	Research Outline 研究紹介	B250	OE	105

2018/10/12	Science and Technology Group	OIST Science Talk in Junkdo Bookstore OIST科学者による衣食住にまつわるサイエンストーク inジュンク堂	Research Outline 研究紹介	Junkdo Bookstore ジュンク堂書店那覇店		50
2018/10/16	Maruyama Unit	Tonaki Elementary School 渡名喜村立渡名喜小学校	Research Outline 研究紹介	B130	OE	6
2018/10/18	Community Relations CPR	Bito Elementary School 沖縄市立美東小学校	Research Outline 研究紹介	講堂	OE	150
2018/10/18	施設管理セクション	Urasoe Industrial High School 沖縄県立浦添工業高校	Research Outline 研究紹介	B250	OH	79
2018/10/19	PD project (Coral Scientists) OIST students	Sagamihara Scondary School 相模原中等教育学校 5年生	Research Outline 研究紹介	C210	H	40
2018/10/19	Business Development Section	Okinawan Indutry Festival 沖縄の産業まつり	Research Outline 研究紹介	Okinawa Prefectural Budokan 沖縄県立武道館		400
2018/10/20	Okinawa Prefectural Government Office					
2018/10/21						
2018/10/23	Miller Unit	Okinawa Prefectural Technical Senior High School 長野県立飯山高校	Research Outline 研究紹介	C210	H	38
2018/10/24	Community Relations CPR	Nakazato Elementary School 久米島町立仲里小学校	Research Outline 研究紹介	C700	OE	17
2018/10/26	Community Relations CPR	Nishihara Minami Elementary School 西原町立西原南小学校	Research Outline 研究紹介	B503	OE	56
2018/11/1	Community Relations CPR	Shiromae Elementary School うるま市立城前小学校	Research Outline 研究紹介	Auditorium 講堂	OE	83
2018/11/2	PD project (Coral Scientists) OIST students	Onna Elementary School Science Club 恩納小学校サイエンスクラブ	Research Outline 研究紹介	Fureai Taiken Center ふれあい体験センター	OE	14
2018/11/8	Community Relations CPR	Furugen Minami Elementary School 読谷村立古堅南小学校	Research Outline 研究紹介	C700	OE	102
2018/11/9	Science and Technology Group	OIST Science Talk in Junkdo Bookstore OIST科学者による衣食住にまつわるサイエンストーク inジュンク堂	Research Outline 研究紹介	Junkdo Bookstore ジュンク堂書店那覇店		80
2018/11/27	Community Relations CPR	Ginoza Junior High School 宜野座村立宜野座中学校 1年生	Research Outline 研究紹介	B250	OJ	61
2018/11/28	De Schutter unit	Kadena High School	Research Outline 研究紹介	C210	H	40
2018/11/28	Community Relations CPR	Shimizu Elementary School 久米島町立清水小学校	Research Outline 研究紹介	C700	OE	23
2018/11/29	Community Relations CPR	Yagaji Hirugi Elementary School Science Club 屋我地ひるぎ学園 サイエンスクラブ	Research Outline 研究紹介	Yagaji Hirugi Elementary School 屋我地ひるぎ 学園	OE	10
2018/12/8	Shen Unit	SCORE! スコア！	Event イベント	Auditorium 講堂		200
2018/12/10	IT Section	Okinawa Industrial High School 沖縄県立沖縄工業高校	Research Outline 研究紹介	B250	OH	80
2018/12/10	Community Relations CPR	Junior and Senior High school students in Taiwan tour 台湾高雄市中高生ツアー	Campus tour キャンパスツアー			35
2018/12/11	Bourguignon Unit	Ryukyu Middle School 6-8 grades	Research Outline 研究紹介	B250		50
2018/12/13	Bandi Unit	Kofu Higashi High School 山梨県立甲府東高校	Research Outline 研究紹介	C209	H	40
2018/12/14	Goryanin Unit	OIST Science Talk in Junkdo Bookstore OIST科学者による衣食住にまつわるサイエンストーク inジュンク堂	Research Outline 研究紹介	Junkdo Bookstore ジュンク堂書店那覇店		60
2018/12/17	PD project (Coral Scientists) OIST students	Onna Elementary School Science Club 恩納小学校サイエンスクラブ	Research Outline 研究紹介	C210	OE	14
2018/12/21	施設管理セクション	Okinawa Industrial High School 沖縄県立沖縄工業高校	Career Introduction 職業紹介	B250	OH	78
2018/12/21	施設管理セクション	Misato Industrial High School 沖縄県立美里工業高校	Research Outline 研究紹介	B250	OH	78
2018/12/26	Community Relations CPR	Akancha School (After school program) あかんちゃ学校（学童）1年生~4年生	Research Outline 研究紹介	C210	OE	50
2019/1/11	Yanagida Unit	OIST Science Talk in Junkdo Bookstore OIST科学者による衣食住にまつわるサイエンストーク inジュンク堂	Research Outline 研究紹介	Junkdo Bookstore ジュンク堂書店那覇店		60
2019/1/22	Research Specialist/Imaging section	Okinawa Prefectural Kaiho Junior High School 2nd graders 沖縄県立開邦中学校 2年生	Research Outline 研究紹介	B250	OJ	40

2019/1/26	IT Section	Nago Science festa 2019 名護サイエンスフェスタ2019	Event イベント	21st Century Gym 21世紀の森 体育館	150	
	Doya Unit					
	Yokobayashi Unit					
2019/1/29	Bandi Unit	Okinawa Christian School 9-12 graders 沖縄クリスチャンスクール	Research Outline 研究紹介	B250		83
2019/1/29	Doya Unit	Kisenbaru Junior High School 恩納村立喜瀬武原中学校	Research Outline 研究紹介	MTG1	OJ	7
2019/1/31	Economo Unit	Cabinet Office Ship for world Youth 内閣府 世界青年の船	Research Outline 研究紹介	B250		36
2019/2/1	Community Relations CPR	Izena Elementary School 伊是名小学校	Research Outline 研究紹介	C700	OE	14
2019/2/6	Rohkhsar Unit	Okinawa Prefectural Yomitan High School 沖縄県立読谷高校	Research Outline 研究紹介	B250	OH	80
2019/2/8	Sato Unit	OIST Science Talk in Junkdo Bookstore OIST科学者による衣食住にまつわるサイエンストーク inジュンク堂	Research Outline 研究紹介	Junkdo Bookstore ジュンク堂書店那覇店		60
2019/2/9	De Shutter Unit	Okinawan Youth Science Works Exhibition 沖縄青少年科学作品展	Event イベント	Urasoe Civic Gym 浦添市民体育館	60	
	施設管理セクション					
2019/2/10	De Shutter Unit	Okinawan Youth Science Works Exhibition 沖縄青少年科学作品展	Event イベント	Urasoe Civic Gym 浦添市民体育館	120	
	Wickens Unit					
	Nic Chormaic Unit					
2019/2/13	Community Relations CPR	Chubu Norin High School 沖縄県立中部農林高校	Research Outline 研究紹介	C210	OH	37
2019/2/14	Community Relations CPR	Motobu High School 沖縄県立本部高校	Campus tour キャンパスツアー		OH	11
2019/2/15	Economo Unit	Science Trip in Miyako サイエンストリップin宮古	Research Outline 研究紹介	Miyako High School 宮古高校	OH	40
2019/2/16			Science program for Kids 科学プログラム	Miyako Prefectural Office 宮古合同庁舎	小中 校生	100
2019/2/19	Miller Unit	Okinawa Prefectural Gushikawa High School 沖縄県立具志川高校	Research Outline 研究紹介	Auditorium 講堂	OH	240
2019/2/20	Economo Unit	Okinawa Prefectural Itoman High School 沖縄県立糸満高校	Research Outline 研究紹介	B250	OH	80
2019/2/20	Watanabe Unit	Okinawa Prefectural Nago High School 沖縄県立名護高校	Research Outline 研究紹介	B250	OH	56
2019/2/22	施設管理セクション	Okinawa Prefectural Naha Industrial High School 沖縄県立那覇工業高校	Research Outline 研究紹介	B250	OH	66
2019/3/8	Shintake Unit	OIST Science Talk in Junkdo Bookstore OIST科学者による衣食住にまつわるサイエンストーク inジュンク堂	Research Outline 研究紹介	Junkdo Bookstore ジュンク堂書店那覇店		80
2019/3/13	Economo Unit	Okinawa Prefectural Naha Kokusai High School 沖縄県立那覇国際高校	Research Outline 研究紹介	B250	OH	52
2019/3/19	Community Relations CPR	Okinawa Prefectural Hokubu Norin High School 沖縄県立北部農林高校 定時制	Campus tour キャンパスツアー		OH	9
2019/3/20	Qi Unit	Republic Polytechnic SG シンガポール ポリテク学校	Research Outline 研究紹介	MTG1		24
2019/3/22	Miller Unit	Science Trip in Ishigaki サイエンストリップin石垣	Research Outline 研究紹介	Yaeyama High School 八重山高校	OH	450
2019/3/23	Mikheyev Unit		Science program for Kids 科学プログラム	Yaeyama Prefectural Office 八重山合同庁舎	小中 校生	40
2019/3/28	Wickens Unit	Okinawa Shogaku Junior High School 沖縄尚学附属中学校	Research Outline 研究紹介	B250	OJ	30

添付資料 1. 2-4 平成30年度OIST 研究施設の外部利用者

利用概要	利用者区分	団体数	利用人数	利用期間
クライオ電子顕微鏡の利用	民間企業（OISTスタートアップ企業）	1	4	2018/4/1- 2019/3/31

Attachiment 1. 2-4 FY2018 The number of use of our research facilities by external organizations

Office of the Dean of Research
研究担当ディーンオフィス

Outline of Use	User Classification	# of Organizations	# of participants	Duration of Use
Use of Cryo Electron Microscopes	Private company (OIST Start-up)	1	4	2018/4/1- 2019/3/31

添付資料1. 4-1 学術交流協定一覧

No.	大学・機関	国	締結日	満了日	協定のタイプ
1	京都大学大学院・情報学研究科	日本	2010/3/31	満了日未定	連携協力に関する協定書
2	琉球大学	日本	2012/4/1	2022/3/31	連携協力に関する協定書
3	沖縄工業高等専門学校	日本	2012/5/22	2022/5/21	連携協力に関する協定書
4	九州大学・博士課程リーディングプログラム	日本	2012/10/22	2019/10/21	覚書
5	大阪大学大学院医学系研究科	日本	2012/9/1	2018/3/31	特別研究学生
6	京都大学大学院情報学研究科	日本	2013/4/1	2018/3/31	特別研究学生
7	東京大学医科学研究所	日本	2013/7/2	2024/1/28	学術交流協定
8	沖縄美ら島財団	日本	2013/8/29	満了日未定	科学・学術協力に関する基本協定書
9	カリフォルニア大学 ・ パークレー校	米国	2013/10/11	2018/10/10	科学・学術協力に関する基本協定書
10	国立台湾大学	台湾	2014/1/17	2019/1/16	科学・学術協力に関する基本協定書
11	東京大学	日本	2014/1/28	2024/1/28	科学・学術協力に関する基本協定書
12	東京大学 ・ 理学部	日本	2014/1/28	2023/7/2	学生交流に関する覚書
13	テキサス テック 大学	米国	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
14	テキサス テック 大学 ・ 環境・トキシコロジー学部	米国	2013/4/1	2018/3/31	学生交流に関する協定書 特別研究学生
15	アレキサンドリア大学	エジプト	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
16	アレキサンドリア大学 ・ 理学部	エジプト	2014/2/1	2019/1/31	学生交流に関する協定書 特別研究学生
17	ザ・フリーステイト大学	南アフリカ	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
18	クレタ大学	ギリシャ	2014/3/28	2019/3/27	科学・学術協力に関する基本協定書
19	クレタ大学 ・ 理学・工学部	ギリシャ	2013/10/1	2018/9/30	学生交流に関する協定書 特別研究学生
20	クワズール大学ーネイトル	南アフリカ	2014/6/8	2019/6/7	科学・学術協力に関する基本協定書
21	クワズール大学ーネイトル ・ 化学・物理学部	南アフリカ	2014/8/1	2019/7/30	学生交流に関する協定書
22	ハワイ大学ーマノア校	米国	2015/7/10	2020/7/9	科学・学術協力に関する基本協定書
23	ヒューストン大学・機械工学科 カレンカレッジ工学部	米国	2016/4/1	2018/8/31	学生交換に関する合意書
24	ラトガース大学・工学部	米国	2016/5/1	2017/5/1	学生交換に関する合意書
25	京都大学大学院医学研究科	日本	2016/8/1	2018/3/31	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生
26	国際電気通信基礎技術研究所	日本	2017/3/1	2019/2/28	インターンシップ協定書
27	韓国科学技術院 電気工学部	韓国	2017/9/1	2019/2/28	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生
28	タフツ大学 工学部	米国	2017/8/24	2018/3/30	学生受け入れに関する依頼及び標準規約
29	ストラスカイド大学グラスゴー校・物理学部	英国	2018/3/3	2018/6/10	学生受け入れに関する依頼及び標準規約
30	カリフォルニア大学サンタバーバラ校・海洋科学研究所	米国	2018/5/25	2018/8/8	学生受け入れに関する依頼及び標準規約
31	プリンストン大学・分子生物学科	米国	2018/6/1	2018/10/31	学生受け入れに関する依頼及び標準規約
32	東京大学大学院生物科学専攻	日本	2018/9/1	2018/12/12	学生受け入れに関する依頼及び標準規約
33	Earlham Institute, Organisms and Ecosystems Department	英国	2018/9/24	2018/11/22	学生受け入れに関する依頼及び標準規約
34	パリ市立工業物理化学高等専門学校	フランス	2019/1/1	2019/12/31	学生受け入れに関する依頼及び標準規約
35	理化学研究所 革新知能統合研究センター	日本	2019/4/1	2019/7/26	学生受け入れに関する依頼及び標準規約
36	ハイデラバード大学 School of Physics	インド	2018/7/1	2019/6/30	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生
37	武漢大学 化学分子科学科	中国	2018/10/1	2020/3/31	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生
38	サルゴダ大学 Department of Chemistry	パキスタン	2018/10/1	2021/9/13	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生
39	韓国科学技術院 Graduate School of Knowledge Service Engineering	韓国	2018/10/1	2019/2/28	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生
40	サウスカロライナ大学 Department of Physics and Astronomy	米国	2018/11/1	2018/12/31	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生
41	ハイデルベルグ大学 Interdisciplinary Center for Neuroscience	ドイツ	2019/5/1	2019/10/31	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生
42	ミュンヘン工科大学	ドイツ	2018/11/2	2021/8/31	学外副研究指導に関する合意書

添付資料1. 4-2 平成30年度 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム

平成30年度OIST主催によるワークショップ

	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数	内海外参加者
1	2018年4月16日	2018年4月21日	複雑量子系のコヒーレント制御	OISTシーサイドハウス	81 名	52 名
2	2018年5月25日	2018年5月28日	3次元多様体の幾何とトポロジー	OISTシーサイドハウス	76 名	50 名
3	2018年6月11日	2018年6月14日	嗅覚：刺激値空間、神経発現そして行動関連	OISTシーサイドハウス	47 名	32 名
4	2018年6月25日	2018年7月12日	OIST計算神経科学コース 2018	OISTシーサイドハウス	74 名	42 名
5	2018年7月30日	2018年8月13日	OIST神経科学コース2018	OISTメインキャンパス	59 名	31 名
6	2018年8月16日	2018年8月24日	OISTワークショップ「シーダ 2018」	OISTメインキャンパス	43 名	23 名
7	2018年9月25日	2018年10月4日	物理サマースクール おきなわ: コヒーレント量子ダイナミックス (2018)	OISTシーサイドハウス	78 名	39 名
8	2019年2月18日	2019年2月20日	ダイナミック神経回路と運動遂行	OISTシーサイドハウス & OISTメインキャンパス	52 名	38 名
合計					510 名	307 名

平成30年度開催のOIST主催によるミニシンポジウム

	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数	内海外参加者
1	2018年9月12日	2018年9月14日	自己会合性液体の流動と不安定性	OISTメインキャンパス	16 名	8 名
2	2018年10月19日	2018年10月21日	膜電位イメージングシンポジウム	OISTメインキャンパス	15 名	4 名
3	2018年10月31日	2018年11月2日	ホログラフィック テンサー	OISTカンファレンス・センター&OISTシーサイドハウス	35 名	18 名
合計					66 名	30 名

平成30年度開催のOIST共催ワークショップ

	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数	内海外参加者
1	2018年6月25日	2018年6月29日	Strings 2018	OISTカンファレンス・センター	400 名	304 名
2	2018年8月20日	2018年8月20日	Joint symposium in Nano/Bio Science and Technology between OIST and KAIST	OISTメインキャンパス	12 名	6 名
3	2019年1月15日	2019年1月17日	アイランドチャレンジ: 地域間の観点から見たサンゴ礁の構造と機能	OISTシーサイドハウス	19 名	9 名
4	2019年3月1日	2019年3月4日	第11回国際ワークショップ「原子を用いた基礎物理学」	OISTカンファレンス・センター&OISTメインキャンパス	101 名	18 名
5	2019年3月18日	2019年3月20日	The 16th International Membrane Research Forum	OISTメインキャンパス	75 名	14 名
合計					607 名	351 名

添付資料 2. 4-1 平成30年度 職位毎・国籍別職員数

2019/03/31現在

		定年制				任期制					非常勤				派遣				総計			
所属予備コード	役職名称	女	男	うち 外国人	定年制 集計	女	男	うち 出向者	うち 外国人	任期制 集計	女	男	うち 外国人	非常勤 集計	女	男	うち 外国人	派遣 集計	女	男	うち 外国人	合計
Admin	副学長					2	6		6	8									2	6	6	8
	チーフ オペレーティング オフィサー						1			1										1		1
	准副学長					2	3	1	2	5									2	3	2	5
	ディーン						1		1	1										1	1	1
	プロボスト					1			1	1									1		1	1
	シニアマネジャー		2		2	3	5	1	2	8									3	7	2	10
	マネジャー	2	3		5	4	6	2	1	10									6	9	1	15
	リサーチサポートスペシャリスト					1	4		5	5									1	4	5	5
	アシスタントマネジャー		1		1	3	4			7									3	5		8
	スペシャリスト					20	26	1	18	46									20	26	18	46
	情報技術エンジニア						10		6	10										10	6	10
	アドミニストレイティブスタッフ	3	1		4	112	36	1	14	148									115	37	14	152
	非常勤										7	4	6	11					7	4	6	11
	派遣職員														51	11	8	62	51	11	8	62
Admin集計		5	7		12	148	102	6	56	250	7	4	6	11	51	11	8	62	211	124	70	335
DoR	准副学長		1		1															1		1
	シニアマネジャー						1			1										1		1
	マネジャー						2			2										2		2
	リサーチサポートスペシャリスト		2		2	3	23		9	26									3	25	9	28
	アシスタントマネジャー					1	1			2									1	1		2
	スペシャリスト		1		1	1	3			4									1	4		5
	リサーチサポートリーダー	1			1		6		3	6									1	6	3	7
	リサーチサポートテクニシャン					3				3									3			3
	アドミニストレイティブスタッフ					15	4		1	19									15	4	1	19
	非常勤										3			3					3			3
	派遣職員														3	3		6	3	3		6
DoR集計		1	4		5	23	40		13	63	3			3	3	3		6	30	47	13	77
Faculty	教授					3	23		15	26									3	23	15	26
	准教授					10	22		20	32									10	22	20	32
	サイエンス・テクノロジーアソシエイト					7	5		8	12									7	5	8	12
	リサーチスペシャリスト						1		1	1										1	1	1
	グループリーダー					6	9		7	15									6	9	7	15
	スタッフサイエンティスト					12	52		37	64									12	52	37	64
	ポストドクトラルスカラー					40	127		141	167									40	127	141	167
	リサーチユニットテクニシャン					55	56		51	111									55	56	51	111
	リサーチユニットアドミニストレーター					46				46									46			46
	アドミニストレイティブスタッフ					1				1									1			1
RUA																						
Administrative Staff	非常勤										12	8	3	20					12	8	3	20
Agency Temp Staff	派遣職員														14	7	3	21	14	7	3	21
研究ユニット集計						180	295		280	475	12	8	3	20	14	7	3	21	206	310	286	516
総計		6	11		17	351	437	6	349	788	22	12	9	34	68	21	11	89	447	481	369	928

2019/03/31現在

		国籍	アドミ	DoR	研究部門 (Faculty/Researcher)	研究部門 (左記以外)	合計
1	AR	アルゼンチン			2		2
2	AT	オーストリア			2		2
3	AU	オーストラリア	5		6		11
4	BD	バングラデシュ		1		1	2
5	BE	ベルギー	1		3		4
6	BG	ブルガリア	1			1	2
7	BR	ブラジル			4		4
8	CA	カナダ	3		3		6
9	CH	スイス		1	1	1	3
10	CN	中国	2		29	5	36
11	CO	コロンビア			3		3
12	CR	コスタリカ			1		1
13	CZ	チェコ			1	1	2
14	DE	ドイツ			12	1	13
15	DZ	アルジェリア				1	1
16	EG	エジプト			1	1	2
17	ES	スペイン	1		4	1	6
18	FI	フィンランド	1		1		2
19	FR	フランス		1	13	4	18
20	GB	イギリス	12		17	5	34
21	GR	ギリシャ			2		2
22	HU	ハンガリー			1		1
23	ID	インドネシア	1		2		3
24	IE	アイルランド		1	4		5
25	IL	イスラエル			2	1	3
26	IN	インド	2		30	1	33
27	IR	イラン			2		2
28	IT	イタリア	2	1	7	1	11
29	JP	日本	265	64	88	142	559
30	KE	ケニア			1		1
31	KR	韓国		2	4	1	7
32	LK	スリランカ				1	1
33	LT	リトアニア			1		1
34	LY	リビア			1		1
35	MX	メキシコ		1	2	1	4
36	MY	マレーシア			3		3
37	NL	オランダ			1		1
38	NZ	ニュージーランド			4		4
39	PH	フィリピン	2		1		3
40	PK	パキスタン			1		1
41	PL	ポーランド	1		2		3
42	PS	パレスチナ			1		1
43	RO	ルーマニア			1		1
44	RS	セルビア			1		1
45	RU	ロシア連邦	1	2	10	5	18
46	SE	スウェーデン	1	1	3	3	8
47	SK	スロバキア			2		2
48	TG	トーゴ			1		1
49	TH	タイ			2		2
50	TN	チュニジア		1			1
51	TR	トルコ				2	2
52	TW	台湾	2		3	5	10
53	UA	ウクライナ	1		3	1	5
54	US	アメリカ	29	1	25	11	66
55	VN	ベトナム	1		3	1	5
56	ZA	南アフリカ	1			1	2
		総計	335	77	317	199	928

添付資料 2. 4-2 平成30年度 職員の給与水準

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任を鑑み、国際的水準を加味した報酬支給水準を設定した。

② 平成29年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

国際的に卓越した科学的な教育研究における経験、職務の困難度、過去の実績等を勘案して特に必要と認める場合に、常勤役員に対して特別調整手当を支給することができるものとしている。

③ 役員報酬基準の内容及び平成29年度における改定内容

法人の長

1. 役員報酬基準の内容
役員報酬は本俸(年額)、特別調整手当、通勤手当及び住居手当であり、本俸の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、理事会において決定する。
2.平成29年度の改定内容
改定なし。

理事

1. 役員報酬基準の内容
役員報酬は本俸(年額)、特別調整手当、通勤手当及び住居手当であり、本俸の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、理事会において決定する。
2.平成29年度の改定内容
改定なし。

理事(非常勤)

1.役員報酬基準の内容
非常勤役員の報酬はその勤務形態を考慮し、職に応じて、理事会によって定められる。
2.平成29年度の改定内容
改定なし

監事

1. 役員報酬基準の内容

役員報酬は本俸(年額)、特別調整手当、通勤手当及び住居手当であり、本俸の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、理事会において決定する。

2. 平成29年度の改定内容

改定なし。

監事(非常勤)

1. 役員報酬基準の内容

非常勤役員の報酬はその勤務形態を考慮し、職に応じて、理事会によって定められる。

2. 平成29年度の改定内容

改定なし

2 役員の報酬等の支給状況

役名	平成29年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
		報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
法人の長	千円 75,024	千円 30,000	千円	千円 45,024 (特別調整手当・通勤手当)			
A理事	千円 31,224	千円 20,000	千円	千円 11,224 (特別調整手当・通勤手当)			
B理事 (非常勤)	千円 1,626	千円	千円	千円 ()	5月24日		
C理事 (非常勤)	千円 1,700	千円	千円	千円 ()			
D理事 (非常勤)	千円 1,700	千円	千円	千円 ()			
E理事 (非常勤)	千円 1,300	千円	千円	千円 ()			
F理事 (非常勤)	千円 1,300	千円	千円	千円 ()			
G理事 (非常勤)	千円 208	千円	千円	千円 ()	11月1日		
H理事 (非常勤)	千円 1,700	千円	千円	千円 ()			
I理事 (非常勤)	千円 1,700	千円	千円	千円 ()			
E理事 (非常勤)	千円 1,700	千円	千円	千円 ()			
K理事 (非常勤)	千円 900	千円	千円	千円 ()			
L理事 (非常勤)	千円 1,300	千円	千円	千円 ()			
M理事 (非常勤)	千円 900	千円	千円	千円 ()			
N理事 (非常勤)	千円 1,300	千円	千円	千円 ()			
O理事 (非常勤)	千円 1,700	千円	千円	千円 ()			*
P理事 (非常勤)	千円 1,658	千円	千円	千円 ()		2月28日	
Q理事 (非常勤)	千円 1,091	千円	千円	千円 ()		10月31日	

R理事 (非常勤)	千円 1,700	千円	千円	千円 ()			
A監事	千円 8,840	千円 8,750	千円	千円 90 (特別調整手当・通勤手当)		10月31日	◇
B監事	千円 6,311	千円 6,250	千円	千円 61 (特別調整手当・通勤手当)	11月1日		◇
C監事 (非常勤)	千円 994	千円 994	千円	千円 ()		10月31日	
D監事 (非常勤)	千円 710	千円 710	千円	千円 ()	11月1日		

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

3 役員の報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性・職務の困難度、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性・職務の困難度、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性、ノーベル賞受賞者等その識見に照らし妥当である。

監事

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

監事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

【主務大臣の検証結果】

学園の理事(法人の長を含む。)は、人格が高潔で学識に優れ、学園の業務を適切かつ効果的に運営することができる能力を有する者であることが求められていることから、その報酬については、国際的な水準との均衡等を考慮した結果、妥当なものであると考えられる。

4 役員の退職手当の支給状況(平成29年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	前職
法人の長	該当者なし					
理事	該当者なし					
監事A	該当者なし					

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	該当者なし
理事	該当者なし
監事	該当者なし

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

業績給に類似のものとして、国際的に卓越した科学的な教育研究における経験、職務の困難度、過去の実績等を勘案して特に必要と認める場合に、常勤役員に対して特別調整手当を支給することができる仕組みを導入済みである。今後も同仕組みを継続する。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

職種毎に、国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準の動向等を踏まえた適切な年俸範囲を定め、その範囲内で個々の業績を反映した給与水準を決定する。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方 (業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させる。

③ 給与制度の内容及び平成29年度における主な改定内容

1. 給与制度の内容

給与の種類: 年俸、超過勤務手当、その他の手当(通勤、住居手当等)

給与体系: 年俸制(職種(教員、研究者、事務スタッフ等)と職層に基づく給与レンジを設定)

2. 平成29年度における主な改定内容

引き続き、以下の措置を講じた。

(1) 給与水準の適正化

業績評価を徹底し、昇給への反映を厳格に行うとともに、今後、定年制職員を採用する場合において、能力に遜色ないときは、若年層から積極的に採用する。

(2) 法人全体の職員の給与水準の抑制

上記(1)の取組に加え、任期制職員についても、若年層の採用を促進し、法人全体の給与水準の抑制を図る。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成29年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内	うち通勤手当	うち賞与
常勤職員	人 15	歳 46.6	千円 9,606	千円 9,606	千円 154	千円
研究職種	人 3	歳 37.8	千円 6,425	千円 6,425	千円 97	千円 0
事務・技術	人 12	歳 48.8	千円 10,401	千円 10,401	千円 168	千円
在外職員	人 1	歳 -	千円 -	千円 -	千円 -	千円
任期付職員	人 513	歳 41.5	千円 6,991	千円 6,991	千円 86	千円
教員	人 44	歳 52	千円 15,173	千円 15,173	千円 44	千円
研究職種	人 185	歳 38.9	千円 6,658	千円 6,658	千円 56	千円
事務・技術	人 284	歳 41.6	千円 5,941	千円 5,941	千円 113	千円

注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

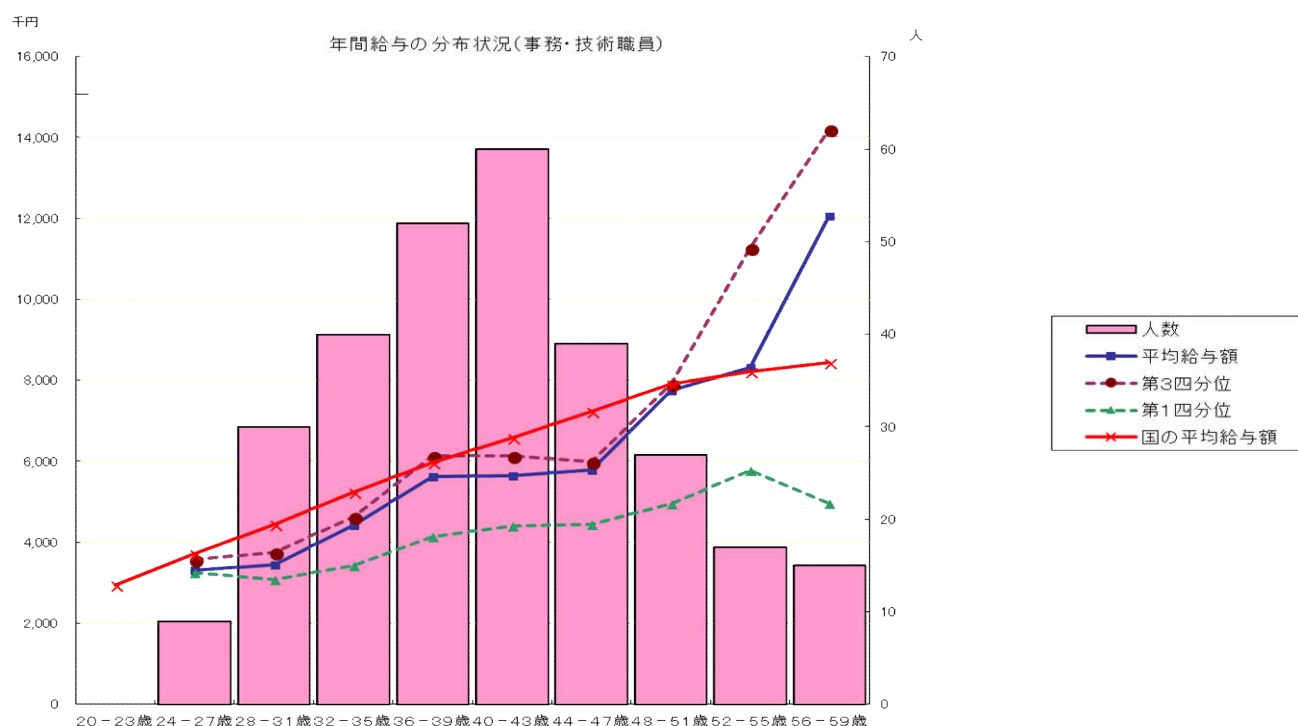
注2: 該当者が1人の場合、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから年齢、年間給与額については記載を省略。

注3: 常勤職員、任期付職員の該当者がいない職種については記載を省略。

注4: 再任用職員及び非常勤職員は該当者がいないため記載を省略。

注5: 常勤職員、在外職員、任期付職員は全て年俸制適用者である。

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員)〔在外職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2:[20-23歳]の該当者なし。

注3:年俸制適用者を含む。以下、④まで同じ。

③ 職位別年間給与の分布状況
(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額	
			平均	最高～最低
	人	歳	千円	千円
部長相当	17	53.9	17,755	45,000～11,966
課長相当	24	49.9	9,705	12,260～7,887
課長補佐相当	39	44.2	6,966	8,873～5,566
主任相当	70	43.1	5,585	9,107～4,247
係員	146	38.0	3,977	9,044～1,458

④ 賞与(該当者なし)

区分		夏季	冬季	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～

3 給与水準の妥当性の検証等

○事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	・年齢勘案 92.1 ・年齢・地域勘案 102.4 ・年齢・学歴勘案 90.6 ・年齢・地域・学歴勘案 101.9
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	本学園は、沖縄科学技術大学院大学(以下「大学院大学」という。)において国際的に卓越した科学技術に関する教育研究を行うことを目的とする学校法人である。 大学院大学においては研究・教育は英語で行われ、また、教員・学生の半数以上を外国人が占めるなど国際的な環境の下、①沖縄の振興と自立的発展、②世界の科学技術の向上に資するため、世界最高水準の教育研究を行う研究者の支援等を担う職員が採用されている。すなわち事務職員にも高度な専門性及び高い英語能力を求められているため、指数が高くなる傾向にある。 (参考:ラス対象職員(289名)の専門能力) ・修士以上118名(40.8%)、うち博士45名(15.6%) ・大学卒以上232名(80.3%) (国家公務員(行(一)):56.8%) ・英語の読み書きに関しては全職員がビジネスレベル以上 なお、平成29年度の年齢勘案指数は、92.1となっている。
給与水準の妥当性の 検証	(法人の検証結果) 年齢勘案で、平成28年度94.2、平成29年度92.1と対国家公務員指数は100以下となっている。これまで講じてきた給与水準の引下げに向けた種々の取組により、給与水準の適正化が図られている。 (主務大臣の検証結果) 学園においては研究・教育が英語で行われ、また、教員・学生の半数以上を外国人が占めるなど国際的な環境の下、世界最高水準の教育研究を行っており、そのような研究者の支援等を担う事務職員も高度な専門性を有することが求められ、優秀な人材の確保を必要としていると認識している。こうした中、学園の給与水準の適正化のための取組が行われてきた結果、対国家公務員指数については、おおむね妥当な水準となっており、これらの取組が引き続き着実に実施されるよう、今後とも注視していく。
講ずる措置	今後とも引き続き、 ①能力に遜色がない場合は、中堅・若年層を計画的に採用 ②業務評価を徹底し、昇給反映の厳格化を行うことで適正な給与水準を保つ。

4 モデル給与

注:年俸制のみのため、記載を省略。

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させる。今後も同仕組みを継続する。

Ⅲ 総人件費について

区 分	前年度 (平成28年度)	当年度 (平成29年度)
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 5,086,299	千円 5,629,323
退職手当支給額 (B)	千円 26,220	千円 5,167
非常勤役職員等給与 (C)	千円 86,222	千円 80,760
福利厚生費 (D)	千円 552,304	千円 608,297
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 5,751,045	千円 6,323,547

総人件費について参考となる事項

- ・職員等が前年比69名増加したため、総人件費が増額になっている。
- ・「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)を踏まえ、役職員の退職手当について、平成25年4月1日から、国家公務員の退職手当の改正に準じて、退職手当の算定額に調整率(平成25年10月から平成26年6月まで92/100、平成26年7月以降は87/100)を乗じた額を支給することにより減額し、平成30年1月以降は、平成29年11月17日閣議決定に基づき、さらに83.7/100へ引き下げた。

Ⅳ その他

特になし。

添付資料 2. 4-3-1 平成30年度 研修実績・人事

コース名	実施方法	回数	参加人数
Accomplishing More with Less	クラス	2	17
Accomplishing More with Less トレーナー養成	クラス	1	3
Accomplishing More with Less for Managers	クラス	2	27
実務者研修（新入職員向け）	クラス	12	36
クリフトン・ストレングス・ファインダー	クラス	1	18
モニター及び管理者向けeFront操作法	クラス	1	39
職員育成プログラム	オンライン	3	44
マネージメントフォーラム	オンライン クラス	2	22
マイクロソフト研修	クラス	13	107
職場でのマインドフルネス	クラス	2	22
新入職員オリエンテーション	クラス	23	183
プロジェクト管理	クラス	1	16
RUAフォーラム	オンライン クラス	1	14
所得税確定申告	オンライン	1	34
合計		65	582

添付資料 2. 4-3-2 平成30年度 研修実績・外部研究資金

セミナー・会議・コース	対象者（記入例：アドミ、研究者、業者等）	参加人数	登壇者（発表演語）	開催日
グラントライティング講座 "Writing grants for fun and profit"	学生、研究者、事務職員	51 (Researcher: 46)	OIST アレクサンダー・ミケエブ (英語)	2018/4/5
「CREST/さきがけ」公募説明会（日本語）	研究者・事務職員	22 (Researcher: 16)	JST 山崎 秀樹 濱田 智久 (日本語)	2018/4/17
「CREST/さきがけ」公募説明会（英語）	研究者・事務職員	10 (Researcher: 7)	JST 山崎 秀樹 濱田 智久 (英語)	2018/4/17
科研費の使い方説明会（英語）	学生、研究者、事務職員	13 (Researcher: 8)	OIST 藤松 佳晃 仲程 彩乃 (英語)	2018/5/23
科研費の使い方説明会（日本語）	学生、研究者、事務職員	40 (Researcher: 6)	OIST 藤松 佳晃 仲程 彩乃 (日本語)	2018/5/24
科研費セミナー『審査結果を読み解く！』	研究者・事務職員	21 (Researcher: 16)	ASTAROTH 久保 陽介 大澤 崇人 大貫 俊彦 (日本語（英語同時通訳）)	2018/6/11
科研費 Grant Facilitatorsによる申請書レビュー ①（面談）	研究者	23	Grant Facilitators 学内：1名 学外：5名 (日本語、英語)	2018/7/17 ～ 2018/7/31
科研費 書き方セミナー	学生、研究者、事務職員	60 (Researcher: 52)	ASTAROTH 久保 陽介 大澤 崇人 OIST 藤松 佳晃 大竹 茂行 (日本語（英語同時通訳）)	2018/9/10
科研費 申請書個別コンサルテーション	研究者	14	ASTAROTH 久保 陽介 大澤 崇人 大貫 俊彦 (日本語（英語逐次通訳）)	2018/9/10 ～ 2018/9/13
科研費 Grant Facilitatorsによる申請書レビュー ②（書面）	研究者	18	Grant Facilitators 学内：1名 学外：5名 (日本語、英語)	2018/9/14 ～ 2018/10/13
Researchmap説明会	研究者	20	OIST 大竹 茂行 (英語)	2018/11/21

科研費支援セッション

内容	対象	参加者	担当	開催日
H30交付申請書作成	科研費採択者	12	藤松、大竹、仲程、天願	2018/4/12
H30交付申請書作成（特別研究員奨励費）	科研費採択者（主に学生）	10	大竹、仲程、天願	2018/5/11
H31科研費申請	研究者（主に外国人）	45	藤松、大竹、仲程、天願	2018/10/16-19
Researchmap登録	研究者（主に外国人）	20	藤松、大竹、仲程、天願	2018/11/21
H31科研費特別研究員奨励費申請	特別研究員採択者（学生）	4	大竹、天願、古謝	2019/2/4

Attachment 2. 4-3-2 FY2018 Number of Employees Taking Training Programs, GRCS

Seminar/Meeting/Course	Participants (e.g. admin staff, researchers, venders etc.	# of participants	Speaker (language)	Date
Grant Writing Seminar "Writing grants for fun and profit"	Students, Researchers and Admin staff	51 (Researcher: 46)	OIST Alexander MIKHEYEV (English)	2018/4/5
Explanatory Session for "CREST/PRESTO" Grants (Japanese)	Researchers and Admin staff	22 (Researcher: 16)	JST Hideki YAMAZAKI Tomoyuki HAMADA (Japanese)	2017/4/17
Explanatory Session for "CREST/PRESTO" Grants (English)	Researchers and Admin staff	10 (Researcher: 7)	JST Hideki YAMAZAKI Tomoyuki HAMADA (English)	2017/4/17
Explanatory Session of KAKENHI Use (English)	Students, Researchers and Admin staff	13 (Researcher: 8)	OIST Yoshiteru FUJIMATSU Ayano NAKAHODO (English)	2018/5/23
Explanatory Session of KAKENHI Use (Japanese)	Students, Researchers and Admin staff	40 (Researcher: 6)	OIST Yoshiteru FUJIMATSU Ayano NAKAHODO (Japanese)	2018/5/24
KAKENHI Seminar "Decoding KAKENHI Screening Results"	Researchers and Admin staff	21 (Researcher: 16)	ASTAROTH Yousuke KUBO Takahito OSAWA Toshihiko ONUKI (Japanese (Simultaneous interpreting in English))	2018/6/11
KAKENHI Application Review by Grant Facilitators 1 (One-on-One Session)	Researchers	23	Grant Facilitators: 6 Internal: 1 External: 5 (Japanese, English)	2018/7/17 ～ 2018/7/31
Tips for Writing Proposal Using New Application Form	Students, Researchers and Admin staff	60 (Researcher: 52)	ASTAROTH Yousuke KUBO Takahito OSAWA OIST Yoshiteru FUJIMATSU Shigeyuki OTAKE (Japanese (Simultaneous interpreting in English))	2018/9/10
KAKENHI Individual Consultation	Researchers	14	ASTAROTH Yousuke KUBO Takahito OSAWA Toshihiko ONUKI (Japanese (Consecutive interpreting in English))	2018/9/10 ～ 2018/9/13
KAKENHI Application Review by Grant Facilitators 2 (Document Review)	Researchers	18	Grant Facilitators: 6 Internal: 1 External: 5 (Japanese, English)	2018/9/14 ～ 2018/10/13
Explanatory Session of KAKENHI Use (English)	Researchers	20	OIST Shigeyuki OTAKE (English)	2018/11/21

KAKENHI Support Session

Content	Participants	# of participants	Person in Charge	Date
On-Line Submission/Preparation of Application for Grant Delivery for FY2018 KAKENHI	Awardees	12	Fujimatsu, Otake, Nakahodo, Tengan	2018/4/12
On-Line Submission/Preparation of Application for Grant Delivery for FY2018 KAKENHI (JSPS Research Fellow)	Awardees (mostly students)	10	Otake, Nakahodo, Tengan	2018/5/11
On-Line Submission For FY2019 KAKENHI Application	Awardees (mostly non-Japanese)	45	Fujimatsu, Otake, Nakahodo, Tengan	2018/10/16-19
Registration for Researchmap Database	Awardees (mostly non-Japanese)	20	Fujimatsu, Otake, Nakahodo, Tengan	2018/11/21
On-Line Submission For FY2019 KAKENHI Application (JSPS Research Fellow)	Awardees (students)	4	Otake, Tengan, Koja	2019/2/4

添付資料 2. 4-3-3 平成30年度 研修実績・安全衛生

Attachment 2. 4-3-3 FY2018 Number of Employees taking training Programs, OHSS

Seminar/Training Results in FY2018 (excluding on-line training)

March 22, 2019

2018年度 セミナー及びトレーニング実績（オンライントレーニングを除く）

Occupational Health and Safety Section

Period: From April 1, 2018 to March 18, 2019

期間：2018年4月1日から2019年3月18日

安全衛生セクション

	Date 実施日	Nature of Event 種類	Name of Seminar/Training 名称	Number of Participants 参加人数	Remarks 備考
1	July 13, 2018 2018年7月13日	Seminar セミナー	New Humehood and Safety Lab Design 新ヒュームフードと安全ラボデザイン	10	
2	FY2018 平成30年度	Hands-on 実地講習	Biosafety バイオセーフティ	24	July 23 - 24 and January 31 - February 1 7月23-24日、1月31、2月1日
3	Aug. 2&3, Sept 12, 2018 2018年8月2、3日及び9月12日	Training トレーニング	Safety Training for Venders (Advanced Program) (3 times in total) 取引先向け安全トレーニング（アドバンスドプログラム） （3回実施）	214	Mandatory for venders who enter experimental areas (effective for 5 years) 実験エリアに出入りするお取引先用必須トレーニング
4	August 31, 2018 2018年8月31日	Seminar セミナー	Boat Safety Information Session 小型船舶安全情報セッション	15	
5	September 5, 2018 2018年9月5日	Training トレーニング	Safety Training for New Students 新入学生向け安全研修	34	
6	September 10, 13, 2018 2018年9月10、13日	Training トレーニング	Spill Training for Cleaning Staff 清掃スタッフ用スピル対処訓練	30	Facility, cleaning staff, security staff 施設、清掃員、警備が参加
7	September 11, 2018 2018年9月11日	Hands-on 実地講習	Training for General Research Equipment 一般研究機器実地講習	34	FY2018 students 本年度新入生が参加
8	Oct. 11, 12 and Nov. 2 2018年10月11、12日、11月2日	Training and Seminar トレーニング及びセミナー	Update Session アップデートセッション (2 times in total) （2回実施）	161	Mandatory for wet lab members and research support staff. ウェットラボメンバーと研究支援スタッフ 必須トレーニング
9	October 31, 2018 2018年10月31日	Seminar セミナー	Seminar on Import and Export of Research Materials	50	

10	December 13, 2018 2018年12月13日	Workshop ワークショップ	Workshop on Research Integrity 研究倫理に関するワークショップ	13	
11	March 4, 2019 2019年3月4日	Seminar セミナー	Study Session on Legal Procedures regarding Safety and Health, Tips and Points 安全衛生に関する公的手続きに関する勉強会	8	
12	All through the year 通年	Training トレーニング	Radiation Workers 放射線を取り扱う者 (6 times in total) (6回実施)	28	
13	All through the year 通年	Hands-on 実地講習	Hands-on training on chemical safety 化学安全実地訓練 (5 times in total) (5回実施)	12	
14	All through the year 通年	Hands-on 実地講習	Hands-on training on laser safety レーザー安全実地訓練 (1 time in total) (1回実施)	1	
15	All through the year 通年	Hands-on 実地講習	Hands-on training on lab waste 実験廃棄物安全実地訓練 (2 times in total) (2回実施)	9	Introduced from Feb. 20, 2019 本年度2月20日より実施開始
16	All through the year 通年	Orientation オリエンテーション	Safety Orientation for Family Access Card Holders 家族カードメンバー用安全オリエンテーション (7 times in total) (7回実施)	14	

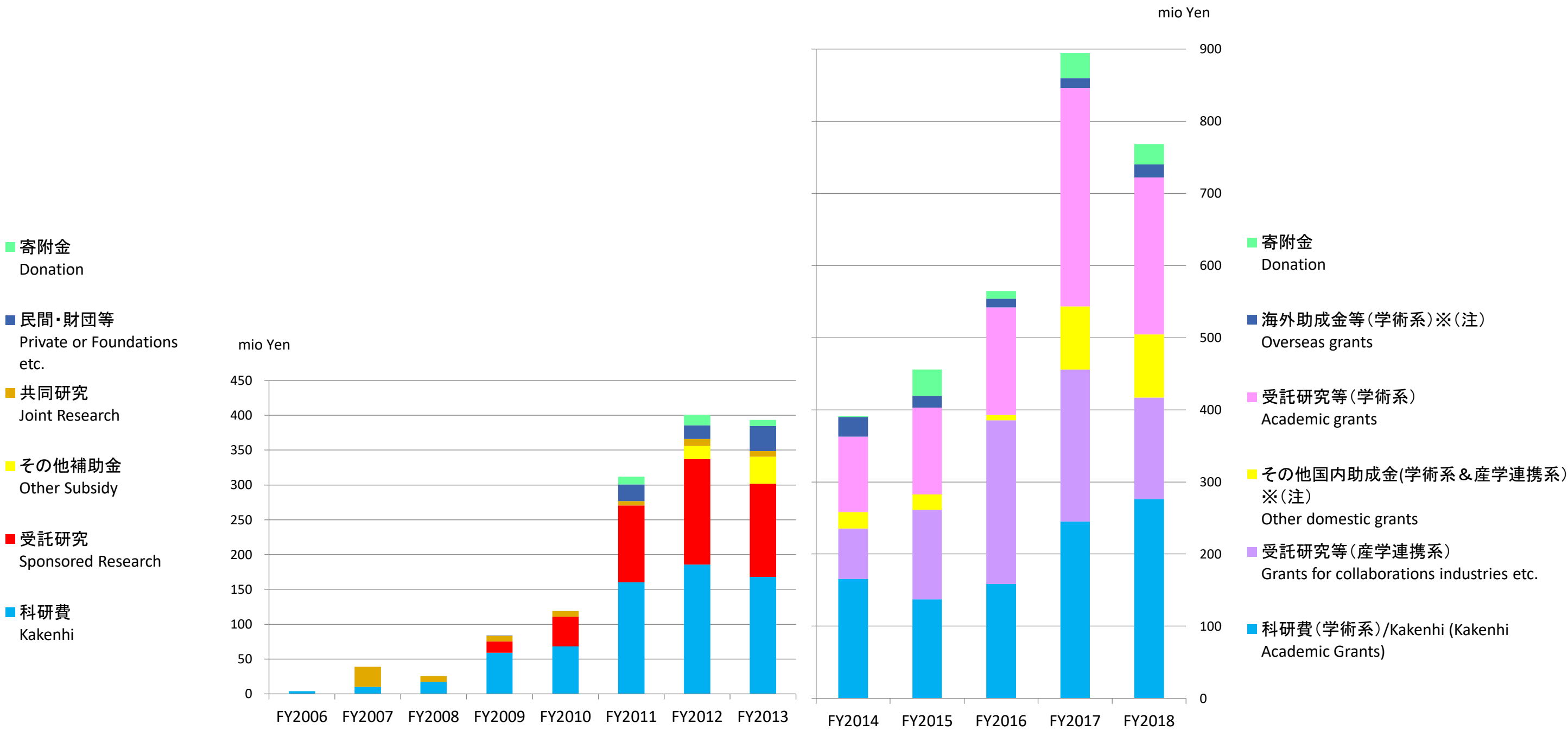
添付資料 3.1 外部資金・寄付金獲得状況

Attachment 3.1 External Grants Table and Donations Table

Unit : Yen

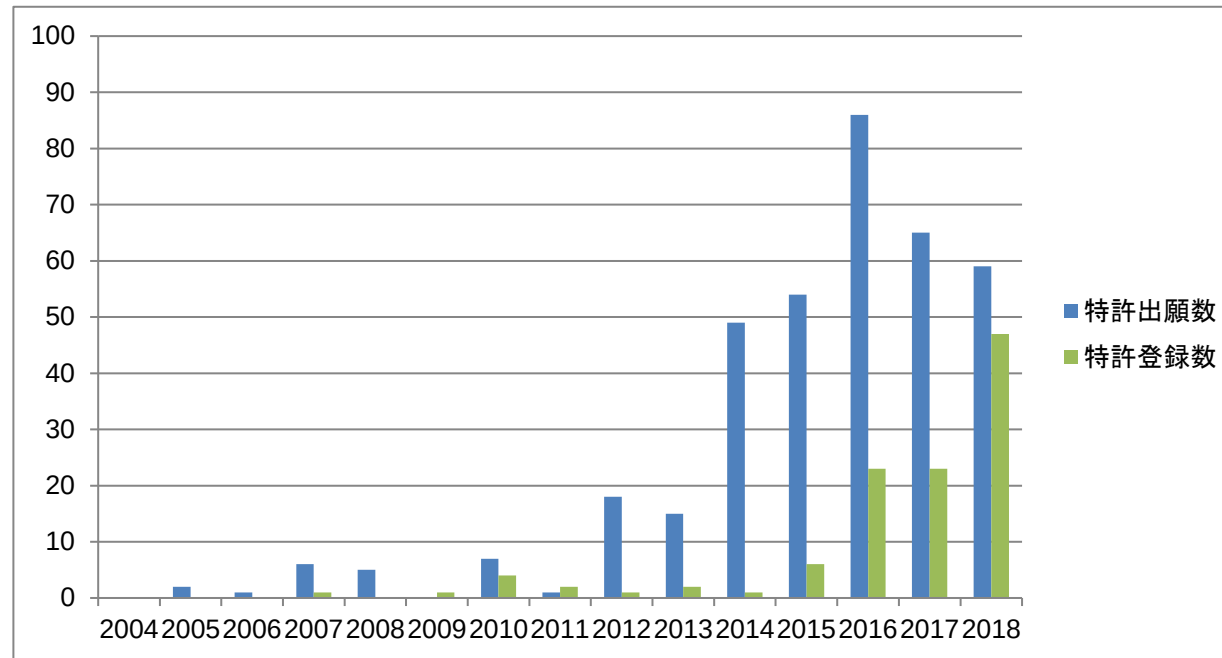
旧分類 Old Category	FY2006	FY2007	FY2008	FY2009	FY2010	FY2011		FY2012		FY2013		新分類 New Category	FY2014		FY2015		FY2016		FY2017		FY2018	
	Amount	Amount	Amount	Amount	Amount	Amount	#	Amount	#	Amount	#		Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#
科研費 Kakenhi	3,800,000	10,293,000	17,225,000	58,923,142	68,281,464	160,041,305	26	185,570,000	30	168,017,777	40	科研費（学術系）/Kakenhi (Kakenhi Academic Grants)	165,266,341	54	137,160,016	47	158,517,697	56	245,254,159	86	276,201,309	109
受託研究 Sponsored Research	0	0	0	16,200,000	42,751,000	110,261,800	11	151,397,660	14	133,566,955	13	受託研究等（産学連携系） Grants for collaborations industries etc.	69,994,690	10	124,337,784	10	227,151,400	18	210,513,791	20	140,701,256	21
その他補助金 Other Subsidy	0	0	0	0	0	0	0	19,120,000	2	39,161,300	3	その他国内助成金(学術系&産学連携系)※（注） Other domestic grants	22,635,500	11	20,989,419	6	7,116,234	10	87,587,000	37	87,523,000	48
共同研究 Joint Research	0	28,500,000	8,268,750	8,357,625	8,000,000	6,500,000	1	9,781,000	2	8,190,000	3	受託研究等（学術系） Academic grants	104,967,000	5	120,758,500	7	149,131,000	6	302,781,001	10	217,504,200	10
民間・財団等 Private or Foundations etc.	0	0	0	162,000	0	23,969,000	3	19,720,574	3	35,811,969	10	海外助成金等（学術系）※（注） Overseas grants	27,166,059	3	16,015,264	3	11,916,945	1	13,335,884	2	18,395,330	4
寄附金 Donation	0	0	0	0	0	10,822,000	6	14,793,155	11	8,353,825	12	寄附金 Donation	1,075,960	7	36,417,498	13	10,644,779	13	34,747,672	27	28,227,199	24
合計/Total	3,800,000	38,793,000	25,493,750	83,642,767	119,032,464	311,594,105	/	400,382,389	/	393,101,826	/		391,105,550	/	455,678,481	/	564,478,055	/	894,219,507	/	768,552,294	/

※(注) FY2017以降はフェローシップの金額を含む Fellowship is included from FY2017



添付資料 4.1 特許状況

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
特許出願数	0	2	1	6	5	0	7	1	18	15	49	54	86	65	59
特許登録数	0	0	0	1	0	1	4	2	1	2	1	6	23	23	47



添付資料 4. 2 平成30年度受託研究等(産学連携)及びイベント

受託研究等(産学連携)

No	事業名	新規・継続	委託者・交付元	連携機関 (研究分野)	事業内容	備考
1	戦略的基盤技術高度化支援事業(経済産業省)	継続	沖縄総合事務局	沖縄プロテイントモグラフィー	COMET 2D 開発	ウルフ・スコグランド 教授
2	大学発新産業創出プログラム(START)	継続	科学技術振興機構	バイオ・サイト・キャピタル	微生物燃料電池を用いた新規エコ廃水処理システムの開発	イゴール・ゴリヤニン 教授
3	外来種対策事業(ヒアリ等対策)	継続	沖縄県	沖縄県環境科学センター	外来種ヒアリ対策	エヴァン・エコノモ 准教授
4	水産物の国際競争に打ち勝つ横断的育種技術と新発想飼料の開発	継続	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	NARO	耐病性と真珠品質の改善を目的としたアコヤガイのゲノム解析とDNAマーカーの開発	佐藤 矩行 教授
5	沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業	継続	沖縄県	琉球大学	健康に寄与する沖縄県産発酵飲料の開発	佐瀬 英俊 准教授
6	持続型生活基盤の構築に向けた次世代電力インフラの研究開発	継続	ソニーCSL		エネルギー	北野 宏明 教授(アジャンクト)
7	沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業	継続	沖縄県	沖縄工業高等専門学校	沖縄県産生物資源の細胞機能解析・シグナル伝達解析	山本 雅 教授
8	成長分野リーディングプロジェクト創出事業	継続	沖縄県	沖縄県環境科学センター	微生物燃料電池を活用した土壌浄化	イゴール・ゴリヤニン 教授(アジャンクト)
9	成長分野リーディングプロジェクト創出事業	継続	沖縄県	沖縄県環境科学センター	微生物燃料電池を活用した畜産排水処理	イゴール・ゴリヤニン 教授(アジャンクト)
10	沖縄科学技術大学院大学起業化促進事業	新規	沖縄県		スタートアップ・アクセラレーター・プログラム	機関として
11	共同研究	新規		機密	環境	エヴァン・エコノモ 准教授
12	共同研究	新規		機密	バイオ	河野 恵子 准教授
13	共同研究	継続		機密	バイオ	河野 恵子 准教授
14	共同研究	継続		ミサワホーム総合研究所	環境	北野 宏明 教授(アジャンクト)
15	共同研究	継続		生物資源研究所	創薬	山本 雅 教授
16	共同研究	継続		ピューズ	自動車	北野 宏明 教授(アジャンクト)

17	共同研究	継続		機密	医療	田中 富士枝 准教授
18	共同研究	継続		機密	創薬	佐藤 矩行 教授
19	共同研究	継続		機密	エネルギー	ヤービン・チー 准教授
20	共同研究	継続		機密	環境	佐藤 矩行 教授
21	共同研究	継続		機密	エネルギー	北野 宏明 教授(アジャンクト)
22	共同研究	継続		機密	創薬	横林 洋平 准教授
23	共同研究	継続		機密	エネルギー	ヤービン・チー 准教授
24	助成金	継続		内藤記念科学振興財団	バイオ	河野 恵子 准教授
25	助成金	新規		中島記念国際交流財団	量子物理	久保 結丸
26	覚書	新規		ディーブコア	AI	機関として
27	覚書	継続		モルジブ 公共建物	環境	新竹 積 教授
28	協定書	継続		瑞穂酒造	環境	イゴール・ゴリヤニン 教授(アジャンクト)
29	ライセンス契約	継続		沖縄プロテイントモグラフィー	バイオ	ウルフ・スコグラント 教授
30	ライセンス契約	継続		機密	環境	佐藤 矩行 教授
31	ライセンス契約	新規		機密	バイオ	機関として
32	ライセンス契約	新規		O-Force	創薬	機関として
33	研究成果物移転契約	新規		機密		機関として
34	研究成果物移転契約	新規		機密		機関として
35	秘密保持契約	新規		機密		機関として

36	秘密保持契約	新規		機密		機関として
37	秘密保持契約	新規		機密		機関として
38	秘密保持契約	新規		機密		機関として
39	秘密保持契約	新規		機密		機関として
40	秘密保持契約	新規		機密		機関として
41	秘密保持契約	新規		機密		機関として

No	事業名	開催日	場所	主催	内容	備考
1	Medix東京	2018年6月	東京ビッグサイト	リード エグジビション ジャパン株式会社	ブース	
2	ConnecTech Asia 2018 (NXT Asia)	2018年6月	Marina Bay Sands, Singapore	UBM	ブース	
3	沖縄県企業誘致セミナー	2018年7月	ヒルトン大阪 ロイヤルパークホテル	沖縄県	ブース、商談会	
4	BioJapan 2018	2018年10月	パシフィコ横浜	BioJapan 組織委員会	ブース、商談会	
5	オキナワベンチャーマーケット	2018年12月	沖縄セルラーパーク那覇	オキナワベンチャーマーケット運営事務局	ブース、商談会	
6	MROアビエーションミーティング沖縄	2019年1月	沖縄コンベンションセンター	BCIエアロスペース	ブース、商談会	
7	nano tech 2019	2019年1月	東京ビッグサイト	nano tech実行委員会	ブース、商談会	
8	JST新技術説明会	2019年1月	JST	JST	プレゼンテーション、商談会	
9	SLUSH Tokyo	2019年2月	東京ビッグサイト	SLUSH Tokyo	ブース、商談会	
10						

技術開発イノベーションセンター主催のセミナー・イベント

No	演題	開催日	講演者	参加者
1	イノベーションセミナーシリーズ：ハンズ・クーパー	2018年6月	ハンズ・クーパー	40
2	ファイアサイド・チャット：ディープコア AIインキュベーター	2018年9月	ディープコア 田中和哉、江原真	14
3	サイエンティフィック・トーク：パトリック・トレンブレイ	2018年10月	Caprion Biosciences Inc. パトリック・トレンブレイ	40
4	イノベーションセミナーシリーズ：マッシモ・メリギ	2018年12月	Ginkgo Bioworks, Inc. マッシモ・メリギ	41
5	知的財産専門能力開発コース	2018年11月	FYPA LLP, USA Chris Tanner	40
6	研究者のための知的財産コース	2018年11月	FYPA PLLC, USA Chris Tanner	20
7	ソフトウェアIPセミナー	2019年3月	日本弁理士会 峰雅紀	6
8	WIPO リージョナルカンファレンス（知的財産と技術移転）	2018年11月	複数名	70
9	Intro to Entrepreneurship Training Program	2019年2月	George Washington University	22
10	Spring 2019 Lean Startup Entrepreneurial Training Program	2019年2月	George Washington University	25
11	Train-the-Trainer Program	2019年2月	George Washington University	5
12				
13				
			合計	323